

第5次総合計画の振り返り検証シート
(全施策分)

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			1 地域のつながりを大切にしたまちづくり							【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 32,33ページ】			
基本施策	(1) 誰もが参加・交流できる地域活動の支援 まちづくりへの関心を高め、主体的に参加できるよう地域活動を支援するとともに、地域とのつながりを実感できる交流機会を広げます。													
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果		
	実感指標	地域行事に参加している町民の割合	%	30.4		29.3	29.4		31.2 (実績)		↗	●多様化する生活や価値観の中で地域コミュニティの希薄化が進んでおり指標は横ばいである。		
	客観指標	公民館主催の生涯学習活動への参加人数	人/年	41,932	5,896	16,094	31,554	0.0%	33,000 (見込)	35,000	44,000	要検討	●活動が戻りつつあるが、活動自体がなくなったものもあり、目標に届かないことが見込まれる。	
1. 行政による施策評価														
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	町民意識調査では、地域活動の参加状況は、「まったく参加していない」方が38.8%と最も高く、「あまり参加していない」とあわせ62.8%の方が『参加していない』と回答しており、地域活動に参加しない人々が増加傾向にあります。						●スポーツ行事や文化行事等の町民参加型の行事を継続的に行っているが、町行事に参加したことがない町民に対してのアプローチを積極的に行う必要があると思われる。						
	課題1	若い世代や集合住宅を中心に地域活動の参加率が低下するなど、地域コミュニティの希薄化が進んでいます。転入者への配布物を有効活用するなど、地域活動に関する情報を共有することで、多くの人々が関心を持ち、地域活動に参加する仕組みづくりが求められています。						●多様化する生活・価値観の中、地域コミュニティは大きな変化が続いているものと思われる。一様のコミュニティ・地域活動の維持を図りつつ、世代や家族構成の違いを考慮に入れた情報発信や地域活動がより必要になるものと思われる。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価		第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向		
	町民のまちづくりに対する関心を高め、地域活動への参加を促進するため、幅広い情報発信を行います。	社会教育課	●幅広く情報発信するため、広報、ホームページの他、プレスリリースも活用し情報発信を行った。情報発信の方法は多様化しているため、新しい周知方法やより見やすく分かりやすい記事で周知を行っていく。					○	●地域活動・生涯学習活動の拠点となる公民館を活用できるよう、継続して施設環境の整備を支援していく。地域コミュニティの活性化に向け、人材の育成や発掘など活動促進を支援する必要がある。					
	公民館などの環境整備を支援し、活動拠点施設の活用を促進します。	社会教育課	●生涯学習の活動拠点として、より良い活動ができるよう公民館の環境整備を支援した。ライフスタイルや価値観の多様化に伴いコミュニティの希薄化や地域活動への参加減少が懸念される。					○	●自治会という基礎的なコミュニティは、行政、地域双方の要請から維持していく必要があると思うが、そのコミュニティを必要としない方々もいる。「誰もが参加・交流できる地域活動」には、自治会への参加促進を行いつつも、他の側面からの、それぞれの目的に沿った地域づくりも検討していく必要がある。					
	災害時の助け合いや高齢者の見守り活動などにおける地域のつながりの重要性について啓発を行い、自治会への参加を促進します。	総務課	●自治会への参加を基礎的な地域の繋がりとしつつ、災害対応等、目的に沿った地域づくりも広がりが進んでいるものと思われる。自治会というコミュニティを必要としない方もいるため、そのような方々も生き生きと地域でつながりを持てるようなまちづくりが、まち全体としての課題と思われる。					○						
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】													

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●各地域に地域活動の拠点となる公民館等の施設がある。 ●自治会加入率が比較的高く、行政からの情報も伝達しやすい。															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●多様化するライフスタイルや価値観に伴い、地域コミュニティや人と人とのつながりの希薄化が顕著となっている。 ●若年層や集合住宅等の世帯を中心に地域活動への参加率が低下している。 ●若い世代が多く、住民の流入・流出が多い状況のため、これまでの行政区を中心としたコミュニティの継続が難しい。															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●地域に居住していない町外の人々が地域の課題に関わり協力する「関係人口」の拡大に向けた取組が進んでおり、町にゆかりのある人材との地域外交流が一層活発化することが期待される。															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●地域活動の中心となる人材が不足している。ライフスタイルの多様化や少子化により、子ども会の加入者減少・地域コミュニティの希薄化・地域活動の参加者減少が懸念される。 ●自治会を構成する役員のなり手不足が地域の課題になっている。															
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：誰もが参加・交流できる地域活動の支援																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.22</td> <td>10位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>どちらとも言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.8</td> <td>24.2</td> <td>59.9</td> <td>5.4</td> <td>1.9</td> <td>5.8</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.22	10位/29施策	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	無回答	2.8	24.2	59.9	5.4	1.9
加重平均値	29施策順位																
0.22	10位/29施策																
満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	無回答												
2.8	24.2	59.9	5.4	1.9	5.8												
議会や住民の声	●施策の重要度：誰もが参加・交流できる地域活動の支援																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22.9%</td> <td>17位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>○地域行事の参加状況についてみると、「まったく参加していない」方が40.2%と最も高く、「あまり参加していない」とあわせ63.7%の方が『参加していない』と回答しています。一方、『参加している』(よく参加している+時々参加している) 方は31.2%となっています。</p>		重要度回答率	29施策順位	22.9%	17位/29施策											
重要度回答率	29施策順位																
22.9%	17位/29施策																
議会や住民の声	●地域活動への参加に際し、個々の事情により参加が難しいとのご意見をいただくことがある。																

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			1 地域のつながりを大切にしたまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 34,35ページ】		
基本施策	(2) 人と地域が輝くまちづくり活動の推進			まちづくり活動団体の活動の輪を広げ、幅広い町民が積極的にまちづくり活動に参画できる協働の仕組みづくりに取り組みます。								重点プロジェクト 魅力・誇り向上 (歴史や文化を活かしたシビックプライド醸成)		
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	まちづくりに参加したいと思う町民の割合	%	38.9		37.4	36.6		34.4 (実績)			超過	●まちづくり活動支援室においては、コロナが5類になったことを受け、少しずつではあるが、団体活動が再開され、まちづくり活動団体の活動の輪が再び広がっている。	
	客観指標	移住支援累計利用者数	世帯	-	0	6	19	158.3%	29 (見込)	36	12	超過	●コロナ禍をきっかけにテレワークが広がり、都市部から地方への移住が活発化したことで、移住支援の利用者数が当初の見込を大幅に上回った。	
1. 行政による施策評価														
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題 1	協働のまちづくりの担い手となるボランティアは高齢化などにより減少傾向にあります。生涯学習の充実による人材の育成や、ボランティアやまちづくり活動が活性化するためのネットワークづくりに取り組む必要があります。						●高齢化によるまちづくり活動の担い手の問題は、高齢化率が低い粕屋町においても例外ではない。まちづくり活動支援室が中心となって、団体同士のつながりを深める交流会や、町内の中学校、高校との連携を実施し、若い世代にもまちづくりに触れる機会を提供し、課題解決に向けて検討していく。						
	課題 2	1億総活躍社会に向けて団塊の世代の高齢者を中心に、高齢者が地域活動の担い手として活躍できる機会の拡充が求められています。						●高齢者が地域活動の担い手として活躍できる機会の創出が求められている。						
	課題 3	地方圏では、本格的な少子高齢化を背景に、地域づくりの担い手不足や、中小企業の労働力不足が深刻な社会問題となっています。						●5年が経過した今も、地方圏における少子高齢化による担い手不足や中小企業の労働力不足は依然として深刻な課題として残っている。						
	課題 3	地方創生において、関係人口と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となる取組が進められています。また、感染症の影響による生活意識・行動の変化から、地方圏への移住に対する関心は若い世代にも高まってきており、東京圏からの移住・定住ニーズに対応した支援が求められています。						●感染症や物価上昇、働き方改革を背景に、若い世代を中心に行き、こうした移住・定住ニーズに応えるため、リモートワーク環境の整備や住まい・就労支援といった包括的なサポートが求められている。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 繼続して実施 B : 取組方法を改善 C : 繼続しない)					
			現状の取組状況及び成果・課題						第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)					取組意向
	まちづくり活動団体を支援するとともに、活動の情報を発信し、町民のまちづくり活動の参画を啓発します。	協働のまちづくり課	●まちづくり活動支援室においては、ボランティアのマッチングをはじめ、ボランティア登録団体のPRなどを行っているが、周知方法については課題が残る。どのようなボランティア団体があるのかを町民に知ってもらう仕掛けづくりの検討が必要。						○	●まちづくり活動支援室における体制を強化し、より人・地域のニーズに合った施策を実施したい。				
	ボランティア団体やNPOなどの団体同士の交流機会をつくることで、まちづくり活動団体の横のつながりを深め、多様な地域課題に柔軟に対応できる協働の仕組みづくりに取り組みます。	協働のまちづくり課	●まちづくり活動団体の交流会を実施し、横の繋がりを深めることはできた。そこからさらに相乗効果による地域課題解決に向けた取り組みを行う必要がある。						○	●異年齢交流などの多様な交流機会を創出し、地域活動に還元できる人材育成することで地域づくりに資する。				
	社会教育関係団体との連携を強化し、生涯学習活動を地域活動に還元できる人材育成を図ります。	社会教育課	●コロナ禍では社会教育関係団体と連携できる状況ではなかったが、令和6年度から生涯学習事業である寺子屋事業を実施している団体に焦点を当て、社会教育委員と交流事業を開始した。現在は地域活動に還元できる人材育成に着手した段階であるため、引き続き人材育成を進めていく必要がある。						○	●支援金による移住支援には限界があるため、今後は新たな方策の検討を進めていく。				
	高齢者などが自らの知識・経験・技能を活かし、学校や地域、社会教育施設、子育て支援施設で学習支援や技術指導を行う機会を広げるとともに、異年齢交流などの多様な交流機会の拡大を図ります。	社会教育課	●コロナ禍では学習支援や技術指導を行う機会が無くなり、指導者も減少した。令和5年度は、学校や地域、社会教育施設などで学習支援や技術指導を行う人材バンク登録者が目標の約6割、交流機会は目標の約7割にとどまった。交流依頼の内容に偏りがあり、多様性がない状況であるため、利用者のニーズに合った人材の発掘とともに人材バンク登録者の周知等を行い、交流の場を増やす必要がある。						○	●福岡県が行うマッチング事業又は起業支援事業と連携し、東京圏・大阪圏・名古屋圏から移住して就業又は起業しようとする者に移住支援を実施した。しかし、町内の中小企業の雇用状況には、まだ大きな効果が現れているとは言い難い状況である。				
	町内の中小企業の雇用状況を改善するために、県と共同で東京圏からの移住希望者を対象とする移住支援を実施し、若い世代の移住・定住を促進します。	経営政策課	●まちづくり活動支援室体制の強化（民間委託の検討） ●移住を検討するランディングページとなる移住専用サイトを町の公式HPに構築する。						○	A				

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で活発に活動している団体はある。町面積が14.13km²であるため、施設へのボランティア派遣などは行きやすい。 ●社会教育関係団体の活動が盛んである。 ●粕屋町は福岡市に隣接し、町内にJRの駅が6駅もあるなど交通利便性が高く、大型商業施設やスーパー、ディスカウントストアなども充実しており、買い物などの生活利便性も良いため移住希望者が多い。 															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりに興味関心がない住民に対して、知つてもらうきっかけづくりなどができるていない。まちづくり活動支援室の体制の強化が必要。 ●地域づくりの中心となる人材が不足している。 ●戸建て用の土地が非常に限られている。 															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりに関する周知については、地域のお祭りなど誰もが集まりやすい場所や、若者に対するまちづくりへの理解のため、学校などの教育を通した周知などの検討材料はあると考えられる。 ●多様なコミュニティや地域づくりに前向きな人材が多く潜在している。 ●働き方の多様化や地方創生への関心の高まりに伴い、都市部から地方への移住が増えている。 															
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの活動内容によっては、マンネリ化している団体もある。 ●コロナの感染拡大やICTの発展による、人間関係の希薄化。少子高齢化。 ●近年、移住者の獲得を目指す自治体間の競争が激化しており、移住者が特定の人気地域に集中することで、他の地域では移住者がなかなか増えないという偏りが生じている。 															
町民意識調査結果(R6)	<p>●施策の満足度：人と地域が輝くまちづくり活動の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.16</td> <td>15位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施策の重要度：人と地域が輝くまちづくり活動の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.8%</td> <td>23位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.16	15位/29施策	重要度回答率	29施策順位	17.8%	23位/29施策							
加重平均値	29施策順位																
0.16	15位/29施策																
重要度回答率	29施策順位																
17.8%	23位/29施策																
<p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <p>(2) 人と地域が輝くまちづくり活動の推進</p> <table border="1"> <caption>満足度調査結果</caption> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.4</td> <td>17.5</td> <td>68.6</td> <td>4.1</td> <td>1.6</td> <td>5.8</td> </tr> </tbody> </table>		満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.4	17.5	68.6	4.1	1.6	5.8				
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答												
2.4	17.5	68.6	4.1	1.6	5.8												
議会や住民の声	<p>【ボランティア】あなたは、ボランティアなどのまちづくりに参加したいと思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>■どう思う 計</th> <th>■どう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.2</td> <td>28.2</td> <td>23.2</td> <td>34.4</td> <td>39.5</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>40%</td> <td>60%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ボランティアなどのまちづくりへの参加意向について、「ややそう思う」方が28.2%と最も高く、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた、34.4%の方が『参加したいと思う』と回答しています。一方、『参加したいと思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方は39.5%となっています。</p>		■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思う 計	■どう思わない 計	6.2	28.2	23.2	34.4	39.5	0%	20%	40%	60%	80%
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思う 計	■どう思わない 計													
6.2	28.2	23.2	34.4	39.5													
0%	20%	40%	60%	80%													

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			2 地域でともに助け合う安全なまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 36,37ページ】		
基本施策	(1) 災害に強い地域社会の実現							自助、共助、公助の適切な組み合わせにより、防災・減災に努め、町民の安全で安心な生活を守る災害に強い地域社会をつくります。			重点プロジェクト		
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	
	実感指標	災害用備品を準備している町民の割合	%	27.6		33.5	39.6		35.1 (実績)		↑	●全国的に大規模災害が頻発し、報道される中、粕屋町においても、防災意識は向上しており、目標達成の見込み。	
	客観指標	避難行動要支援者のうち、地域支援者が決定している人の割合	%	4.4	4.4	4.2	4.0	0.0%	3.8 (見込)	3.8	100.0	要検討	●令和5年度において、避難行動要支援者に関して民生委員等に情報を提供することに対する調査をしたうえで、地域支援者についても調査を実施。引き続き、増加に向けて取組を行う必要がある。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	全国的に大規模な風水害が多発化しており、浸水被害などが増加していることから、今後も国・県との緊密な連携による災害対策の整備と連携体制の維持に努めるとともに、自主防災組織に対する支援活動を通じた、町民の自助・共助意識の向上が求められています。			●国・県との連携については引き続き密に行っている。また、自主防災組織が主体となった防災講座や防災訓練も実施され、町民の自助公助の意識向上に繋がっている。						
	課題2	災害や救急が多発化・多様化する中、迅速に対応できる消防の重要性は高まっており、地域防災を支える消防団の充実が求められています。			●年々減少していく消防団員数においては、引き続き啓発活動をはじめとした町民への理解・協力に取り組んでいます。今後も引き続き団員数の確保に向け取り組んでいく必要がある。						
	課題3	大規模災害により災害の長期化がみられる中、安全な避難生活が送れる環境整備が重要となっており、新型コロナウイルスなどの感染症への対策も備えた避難所の充実が求められています。			●コロナ禍においての避難所運営では、避難所運営マニュアル（新型コロナウイルス感染症対策版）を作成して運用にあたった。コロナが5類になったことを受け、今後は通常の避難所運営に戻る見込み。						
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」		担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 繼続して実施 B : 取組方法を改善 C : 繼続しない)			
			協働のまちづくり課	現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）		
	防災対策については、町は「国土強靭化地域計画」を策定し、河川の浚せつなどを国・県へ要望するとともに、浸水想定区域内における避難所の確保のほか、福祉避難所・ペット避難所などの整備を進めます。			●国土強靭化地域計画を策定し、浸水想定区域内における福祉事業所の避難確保計画の作成を促し、災害対策の充実を図った。				○	●災害に強い地域社会を実現するためには、地域防災力の向上が不可欠である。そのためには、地域防災力の要である消防団の強化と共に、各自主防災組織の活動の活発化が必要となる。町全体の防災訓練を実施することにより、住民一人ひとりの防災意識の向上の啓発を行なながら、地域コミュニティの防災力の強化及び格差の是正に向けて取り組む必要がある。		
	町の防災月間・防災の日における防災研修や、学校・地域における防災教育を充実し、防災知識の普及や意識の向上に取り組みます。			●防災月間においては、庁舎内において防災コーナー設置による啓発を実施するほか、自主防災組織による防災講座に赴き講座を実施した。一部学校へ防災講座も実施したが、すべての学校に対し防災教育を実施できていない。				△			
	自主防災組織の活動を支援し、町民の自助・共助意識を高め、地域防災力の強化を図ります。			●自主防災組織が主体となった防災講座・防災訓練については協働のまちづくり課が支援し、地域防災力の強化に寄与した。しかし、地域によって自主防災組織の活動に差があり、また組織化していない地域も依然として存在している。				△			
	あらゆる災害に対する地域防災の要である消防団活動を維持するため、消防団員を確保し、体制の強化を図ります。			●消防団員確保のため、広報誌や女性消防団による広報など、あらゆる情報発信手段を活用して啓発している。消防団員に対するイメージ向上のための取組なども検討していく必要がある。				○			
	感染症に対する備えとして、新たな施設の避難所としての活用や感染症対策に関する物資の備蓄を進め、災害時における感染症予防や拡大防止を考慮した避難所運営に取り組みます。			●避難所運営マニュアル（新型コロナウイルス感染症対策版）を作成し、避難所運営の際に活用すると共に、段ボールパーティション、テント型のパーティションを避難所に設置し感染症対策に取り組んだ。				○	B		
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】			●老朽化した防災行政無線設備の更新 ●町全体での防災訓練の実施							

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●過去5年連続で大雨特別警報が発表された福岡県の中でも、風水害による災害が起こりにくい地域に位置し、約半世紀もの間、人命が失われていない。町内には幹線道路がいくつもあり、発災時に町が孤立する可能性が低いと考えられる。																															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●しばらくの間大きな災害が起らなかったことが、逆に町民の災害に対する意識の低下につながっていると考えられ、そのことは日常的に災害用の備蓄品を準備していない人が約6割という数字に表されている。 ●新型コロナウイルスによる行動の制限により、コロナ禍以前と比べ、地域コミュニティが十分に機能しているとは言い難い。いかに自助・共助の意識を向上させるかが課題となっている。																															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●令和6年版防災白書では「行政を主とした取組だけではなく、国民全体の共通理解の下、住民の「自助」・「共助」を主体とする防災政策に転換していくことが必要である。現在、地域における防災力には差が見られるところであるが、防災意識の高い「地域コミュニティ」の取組を全国に展開し、効果的な災害対応ができる社会を構築していくことが求められており、地域防災力の向上が必要不可欠なものとなっている。																															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●近年、豪雨災害が激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が発生していることと併せて、警固断層帯南東部、宇美断層などの影響により柏屋町内に想定震度6以上の地震が発災する危険性もあることから、いつ大きな災害が発生してもおかしくない状況にある。																															
●施策の満足度：災害に強い地域社会の実現		<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.20</td> <td>11位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>凡例 全体(N=1,055)</td> <td>2.3</td> <td>25.1</td> <td>58.4</td> <td>6.3</td> <td>2.3</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>(3) 災害に強い地域社会の実現</td> <td>2.3</td> <td>25.1</td> <td>58.4</td> <td>6.3</td> <td>2.3</td> <td>5.7</td> </tr> </tbody> </table>	加重平均値	29施策順位	0.20	11位/29施策	項目	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	凡例 全体(N=1,055)	2.3	25.1	58.4	6.3	2.3	5.7	(3) 災害に強い地域社会の実現	2.3	25.1	58.4	6.3	2.3	5.7						
加重平均値	29施策順位																																
0.20	11位/29施策																																
項目	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																											
凡例 全体(N=1,055)	2.3	25.1	58.4	6.3	2.3	5.7																											
(3) 災害に強い地域社会の実現	2.3	25.1	58.4	6.3	2.3	5.7																											
●施策の重要度：災害に強い地域社会の実現		<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.4%</td> <td>2位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>	重要度回答率	29施策順位	57.4%	2位/29施策																											
重要度回答率	29施策順位																																
57.4%	2位/29施策																																
町民意識調査結果 (R6)	<p>【防災】あなたは、日頃から災害用備品を準備していますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>準備している</th> <th>まあまあ準備している</th> <th>準備していない</th> <th>準備していない計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■準備している</td> <td>□まあまあ準備している</td> <td>□準備していない</td> <td>□無回答</td> </tr> <tr> <td>□あまり準備していない</td> <td>□準備していない</td> <td>□無回答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■どちらともいえない</td> <td>□どちらともいえない</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>準備している</th> <th>まあまあ準備している</th> <th>準備していない</th> <th>準備していない計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体(N=1,055)</td> <td>8.1</td> <td>27.0</td> <td>35.0</td> <td>23.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6.3</td> <td>0.6</td> <td>35.1</td> <td>58.1</td> </tr> </tbody> </table>		準備している	まあまあ準備している	準備していない	準備していない計	■準備している	□まあまあ準備している	□準備していない	□無回答	□あまり準備していない	□準備していない	□無回答		■どちらともいえない	□どちらともいえない			項目	準備している	まあまあ準備している	準備していない	準備していない計	全体(N=1,055)	8.1	27.0	35.0	23.1		6.3	0.6	35.1	58.1
準備している	まあまあ準備している	準備していない	準備していない計																														
■準備している	□まあまあ準備している	□準備していない	□無回答																														
□あまり準備していない	□準備していない	□無回答																															
■どちらともいえない	□どちらともいえない																																
項目	準備している	まあまあ準備している	準備していない	準備していない計																													
全体(N=1,055)	8.1	27.0	35.0	23.1																													
	6.3	0.6	35.1	58.1																													
<p>○日頃から災害用備品を「あまり準備していない」方が35.0%と最も多く、「準備していない」と合わせ、58.1%の方が『準備していない』と回答しており、依然として防災の備えが進んでいないことがわかります。</p> <p>一方、『準備している』(準備している+まあまあ準備している)方は35.1%となっています。</p>																																	
議会や住民の声	●議会からは、消防団員の確保や町全体の防災訓練の実施について意見を寄せられている。																																
外部評価	重点プロジェクト	安全・安心	令和4年度には防災マップの改訂など、施策実現への取組や進捗については、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」と評価した。「改善の余地がある」や「スピードが遅い」を選択した委員の意見としては、いつやって来るか分からない災害に対して防災訓練や防災講座の実績値が低いことや、避難行動支援者の地域支援者が決定している割合が少ないとことに対して、具体的な対策や取組が見えてこない点に関する懸念を示す意見であった。地域支援者の確保について、個人情報の公開や行政主導の限界、地域住民の理解など様々な困難があることは理解できるが、近年、頻発する豪雨災害において高齢者や障がい者に被害が集中している状況も鑑みて、国や県への働きかけなど抜本的な改善に向けて取り組んでいただきたい。																														
	取組内容	防災・減災への取組																															
	評価対象事業	災害対策事業 (R4)																															

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			2 地域でともに助け合う安全なまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 38,39ページ】		
基本施策	(2) 事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現			交通安全、防犯などに対する意識を高め、地域が一体となり、安全・安心なまちづくりに取り組みます。							重点プロジェクト	安全・安心 (防災・減災への取組)	
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	事故や犯罪が少なく安全な町だと思う町民の割合	%	43.3		53.0	53.6		54.8 (実績)			↑	●防犯灯設置や、交通安全啓発活動、青パトによるパトロールなど継続的に実施していることが要因と一つと思われる。
	客観指標	交通事故発生件数	件/年	380	290	323	308	—	276 (見込)	270	0~330	A	●令和6年9月末までにおいて、交通事故件数は前年比-9.9%の209件。通学路立ち番や、粕屋警察署・交通安全協会等との日々の取組により事故減少(前年比)しているものと思われる。
	客観指標	犯罪発生件数	件/年	379	310	347	455	—	620 (見込)	620	0~300	要検討	●令和6年9月末時点で469件と前年をすでに超過している状況。特にJR駅駐輪場などの自転車盗難が大半を占めている。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	高齢者が関係する事故が多発しているため、歩行者・運転者の交通マナーアップに向けた啓発活動を強化する必要があります。			●令和6年9月末までにおける高齢者に関する交通事故件数は43件(前年比20%減)と減少しているものの、糟屋郡内では一番多い件数であるため、引き続き啓発活動を実施していく必要がある。						
	課題2	犯罪の未然防止・減少に向けて、警察などの関係機関と地域住民との連携を強化する必要があります。			●犯罪発生件数は依然として増加の一途をたどっており、粕屋警察署等とのさらなる連携強化が必要である。						
	課題2	ネット詐欺や特殊詐欺などの消費者トラブルは複雑・多様化しており、消費者被害拡大防止のための取組を行う必要があります。			●ネット詐欺や特殊詐欺などの消費者トラブルは年々複雑化・多様化しており、消費者被害拡大防止のための取組は、今後も強化して継続されるべきである。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				
行政による 施策評価	交通事故を抑制するため、安全な道路交通環境を整備するとともに、講習会や通学時の交通安全指導などを通じて、道路を利用する歩行者・運転者の交通マナーアップを図ります。	協働のまちづくり課	現状の取組状況及び成果・課題		進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)			取組意向		
			●令和6年度は、関係機関による通学路点検を実施。町内の通学路において危険な箇所などを洗い出し、対策を講じ、安全な道路環境整備を実施した。 ●警察署と自動車学校が協力して開催しているドライビングコンテストにおいては、粕屋町からも高齢者を中心として多くの参加者(毎年十数名)を呼びかけ、運転者のスキルやマナーアップを図った。		○	●交通安全、防犯対策においては、引き続き関係機関と連携をして、啓発などの取組を実施していく必要がある。 ●消費者ホットラインについては、消費者被害が多様化・深刻化しているため、今後も継続して普及・啓発を実施する必要がある。			B		
			●IoTによる子ども見守りサービス(Qottaby)においては、令和5年度に基地局を増設し、端末の位置情報を認識する範囲が拡大したとともに、よりきめ細やかな位置の特定が可能となった。		○						
	地域防犯力の向上のため、IoTを活用した子どもの見守りサービスの導入と地域やボランティア、企業との協働による「ながら防犯」活動の普及に取り組むとともに、町民を犯罪や事故などから守るために、防犯カメラの増設を図ります。	協働のまちづくり課	●身近な消費生活相談窓口である消費者ホットライン(188)を周知するため、介護福祉課等と連携し、啓発物資を配布した。 ●「成人20歳のつどい」の際に新成人を対象に冊子を配布することで消費者トラブルに巻きこまれないように注意喚起を行った。 ●実際に啓発活動を実施しているものの、オンラインショッピングの拡大等により、消費者相談の内容が複雑化し、消費者被害が多様化・深刻化しているため、身近な相談窓口の周知が今以上に必要である。		○						
	消費者トラブルの未然防止・解決に向けて、かすや中南部広域消費生活センターと連携し、消費者ホットライン「188(いやや!)」の普及・啓発を促進します。	地域振興課	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】								

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●粕屋警察署や粕屋町交通安全協会などの関係機関との連携ができる環境にある。町面積が14.13km ² と比較的小さいため、事案があった際やパトロールにおいては回りやすい。 ●篠栗町・志免町・宇美町・須恵町と一緒にかすや中南部広域消費生活センターを運営することで、他町やいろいろな消費者トラブル等の情報を取集しやすい状況にある。																								
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●交通安全に関しては、粕屋町は交通の要衝となっており、車の流通量はかなり多く事故件数は依然として近隣自治体より多い。また、JR駅が6つあり、大型商業施設もあるため、不特定多数の利用者が非常に多く、防犯対策の強化も課題となっている。 ●他課との連携が弱い部分や一部業務が重なる部分があるので、見直しが必要である。																								
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●JRや大型商業施設の利用者に対しては、当該施設関係者との相互協力することにより、安全安心なまちづくりに取り組める可能性がある。 ●将来見込まれる市制施行に向けて消費生活センター設置について検討する必要がある。																								
	Threats (脅威となる社会潮流)	●JR駅や大型商業施設があるため、町外から来れる人が非常に多く、交通安全・防犯面から対策が講じにくい一面がある。 ●消費者トラブルは、オンラインショッピングの拡大等が進み、複雑化・多様化している状況である。																								
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.05</td> <td>27位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>凡例 全体(N=1,055)</td> <td>2.2</td> <td>21.2</td> <td>55.2</td> <td>11.2</td> <td>4.7</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>(4) 事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現</td> <td>2.2</td> <td>21.2</td> <td>55.2</td> <td>11.2</td> <td>4.7</td> <td>5.5</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.05	27位/29施策	項目	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	凡例 全体(N=1,055)	2.2	21.2	55.2	11.2	4.7	5.5	(4) 事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現	2.2	21.2	55.2	11.2	4.7
加重平均値	29施策順位																									
0.05	27位/29施策																									
項目	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																				
凡例 全体(N=1,055)	2.2	21.2	55.2	11.2	4.7	5.5																				
(4) 事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現	2.2	21.2	55.2	11.2	4.7	5.5																				
議会や住民の声	●施策の重要度：事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66.6%</td> <td>1位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施策の重要度：事故や犯罪が起こりにくい地域社会の実現</p> <p>【防犯】粕屋町は、事故や犯罪が少なく安全な町だと思います。</p> <p>■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない <input checked="" type="checkbox"/> そう思う 計 <input type="checkbox"/> そう思わない 計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>どちらともいえない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体(N=1,055)</td> <td>12.2</td> <td>42.6</td> <td>18.8</td> <td>6.5</td> <td>19.5</td> </tr> <tr> <td>0.4</td> <td>54.8</td> <td>25.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○粕屋町は、事故や犯罪が少なく安全な町だと「ややそう思う」方が42.6%と最も高く、「そう思う」とあわせ、54.8%の方が『そう思う』と回答しています。一方、『そう思わない』(そう思わない+あまりそう思わない)方は25.3%となっています。</p>		重要度回答率	29施策順位	66.6%	1位/29施策	項目	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	どちらともいえない	無回答	全体(N=1,055)	12.2	42.6	18.8	6.5	19.5	0.4	54.8	25.3					
重要度回答率	29施策順位																									
66.6%	1位/29施策																									
項目	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	どちらともいえない	無回答																					
全体(N=1,055)	12.2	42.6	18.8	6.5	19.5																					
0.4	54.8	25.3																								
外部評価	重点プロジェクト	安全・安心	防犯パトロールや見守りシステムを活用した取組を意欲的に進められており、施策実現への取組や進捗については、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」と評価しているが、「改善の余地がある」の評価もあり、これは犯罪の発生件数の実績値が目標値に達していないことによるものであった。見守りシステムに関する評価は好評であり、小学生を中心とした保護者の安心を得るために今後も基地局の増設などを積極的に進めていただきたい。また、粕屋町は大型の商業施設や鉄道駅が多数あるため、犯罪の発生件数が多くなっているが、犯罪の種類を可視化し、それに応じた取組などを具体化させていくことも求められる。																							
	取組内容	防災・減災への取組																								
	評価対象事業	防犯対策事業 (R4)																								

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち		3 未来を担う子どもたちを育むまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 40,41ページ】			
基本施策	(1) 子どもたちの生きる力を育む教育の推進		子どもたちが安全で安心かつ快適に学習できる環境づくりを行うとともに、子ども一人ひとりに応じた、確かな学力や社会に対応した生きる力を育む教育を推進します。								重点プロジェクト	持続的成長 (GIGAスクールの実現)		
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	教育環境が整っていると思う町民の割合	%	39.3		43.7	43.6		41.4 (実績)			↑	●令和6年度見込みが後退しているが、就学年齢の子どもがいない家庭には関心の薄い指標であり、子どもの数が減少傾向に入った影響によるものと考えられる。	
	客観指標	全国学力・学習状況調査における国の平均正答率以上の教科の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0 (見込)	100.0	100.0	A	●確かな学力を育む取組である「学力向上検証委員会」の開催、学習指導の改善、家庭学習の充実、補修学習の充実の成果が出ているものと考えられる。	
	客観指標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における国の平均値を超えている種目の割合	%	50.0	45.8	61.7	46.7	0.0%	47.0 (見込)	48.0	100.0	要検討	●各校において《1校1取組運動》等で体力向上を図っているが、コロナ禍の影響も運動離れに加勢する形になり、成果につながっていない。	
1. 行政による施策評価														
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」					総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化								
	課題1	グローバル化や情報化が進む中、英語教育やICT教育など、新たな時代に必要とされている資質や能力を育む教育が求められています。					●ICT教育では令和3年度に児童生徒へ1人1台のタブレットを導入し、英語教育では令和2年度から小学3年生で開始したほか、令和6年度には中学3年生で英語検定料の助成拡大を行うなど力を入れているが、英語教育・ICT教育ともに担う人材の不足が課題となっている。							
	課題2	いじめや不登校、子どもの体力低下が社会問題となっており、子どもたちのさまざまな悩みに対応するとともに、食育や体力づくりを進め、豊かな心と健やかな体を育む教育が必要です。					●不登校の増加や体力低下に関しては、社会的な多様性への受容度の拡大に加え、コロナ禍を経て、学校を休むことへの心理的ハードルが下がったことや、運動機会の減少が加速したことが影響として考えられる。学校における対応の強化と併せて、社会的な受け皿の整備促進が必要と思われる。							
	課題3	子どもの貧困や経済格差による教育機会の格差などが全国的な課題となっており、すべての子どもたちが就学できる学びのセーフティネットの充実が求められています。					●コロナ禍や物価高騰の影響により経済格差は拡大傾向にあると考えられる。継続的なセーフティネットの充実が求められる。							
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)					
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)					取組意向	
	子どもの確かな学力向上のために英語教育などの充実を図るとともに、健やかな体の育成のために教育・スポーツ活動の充実を図ります。	学校教育課	●従来行ってきた英語検定料の半額補助に加え、令和6年度からは更なる生徒の学習意欲の向上、受験機会の拡大を図るために、新たに、中学3年生の英検3級検定料を全額助成とした。また、健やかな体の育成のため、「1校1取組運動」として取り組む運動を決め、低下が懸念される体力の向上を図っている。				○	●全体としては、現状の取組を基本として継続し、一層の充実を図っていくことが重要であるが、老朽化が進む施設・設備の整備や、PTAに替わる保者等との連携の仕組みについては、より社会的要請に沿った方法に改善できないか検討をする。 ●給食センターの地産地消に関する取組を子どもたちだけでなく、保護者や地域の人たちにも知ってもらうための働きかけが必要である。					B	
	ICTを基盤とした遠隔・オンライン教育の実施により、一人ひとりの能力や適性に応じて個別最適化された学びを提供するとともに、校務の効率化を進めます。	学校教育課	●タブレット端末を児童生徒1人1台ずつ整備し、個別学習や一斉学習、インターネットを利用した調べ学習など、多様な学びの機会を提供している。また、ICT支援員による授業提案やヘルプデスクによる機器操作のサポートなど、ICTに関する様々な支援業務を行っている。				○							
	安全・安心な給食を提供するとともに、地元農産物の利用を通して地域の食育を推進します。	給食センター	●学校給食実施基準をもとに献立を作成し、調理・配達等を委託している株式会社粕屋町学校給食サービスと連携して安全・安心な給食を提供した。また、JAかすやを通じて地域の野菜・果物を調達し、学校給食において多くの地場農産物を使用したが、これらの取組が保護者や地域の人たちにはあまり知られておらず、地域の食育の推進には至っていない。				○							
	就学環境に問題を抱える児童・生徒を支援するため、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる相談体制の強化を図るとともに、経済的な理由で就学が困難な家庭に対する就学援助などの支援を図ります。	学校教育課	●教育相談室のスクールソーシャルワーカーと庁舎内配置のスクールカウンセラーを活用しているほか、中学校2校に加え小学校中4校中3校に適応指導教室を置き、令和6年度は小学校1校に担当職員を配置して体制強化を図った。また就学援助について前倒しの申請時期を新たに増やし、支援をより受けやすいよう改善を行った。				○							
	老朽化した学校施設の改修や、児童・生徒数、クラス数の増加に対応するため、教室などの施設の改良・整備を推進します。	学校教育課	●大規模改修については、仲原小学校、中央小学校、粕屋中学校体育館で工事を行った。増築については、中央小学校、粕屋中学校、仲原小学校、西小学校で工事を行った。現状の財政的及び人員的制約の中で最大限の対応を行っているものの、各校で老朽化による不具合や職員室スペース等の不足が顕在化しており、早急な改修が求められている。				○							
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】			●スポーツ活動の充実を図るとともに、施設改修費を軽減しながら安全で快適なスポーツ教育環境を整備するため、プール指導の民間委託を進める方針であり、令和7年度にまずは大川小学校からスタートする予定としている。											

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●各小中学校において地域との連携がうまく機能しており、子どもたちが落ち着いて学習に取り組める校風を創出・維持できている。それが学力向上へと繋がっており、全国学力・学習状況調査で全国及び福岡県平均よりも高い成績を維持できる一因になっていると思われる。 ●粕屋町及び近隣地域では多種の野菜・果物が収穫でき、学校給食における地場農産物の使用に適している。																								
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●小中学校については、1校あたりおおむね12~18学級が標準的な学級数とされるところ、これまでの児童生徒数の増加から、令和6年度では小学校が21~27学級、中学校も19と22学級となっており、大規模校(1校あたり25学級以上)がそれに近い規模となっている。併せて施設の老朽化も進んできており、施設の管理・整備にかかる経費や事務負担が大きくなっている。 ●センター方式である粕屋町の学校給食においては、限られた時間内で大量の調理を行わないといけないため、一度に調達される地場農産物の使用量に限度がある。また、供給側にとっても、一度に大量の食材を納入しないといけないため、供給できる量に限度がある。																								
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●子育て世代と子どもが多い当町にも、近年、少子化の波が着実に波及して来ていると考えられ、現在、児童生徒数の増減の転換点にあると推測される。施設の不足を抱えている現状において機会ともなり、将来的な学校経営において脅威ともなり得る、判断の難しい状況下にあると思われる。																								
	Threats (脅威となる社会潮流)	● 上記（機会となる社会潮流）と同じ。そのほか、PTAの解散などにより、従来の学校・保護者・地域の連携体制を見直さなければならない状況が出始めている。																								
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：子どもたちの生きる力を育む教育の推進 加重平均値 <table border="1"><tr><td>加重平均値</td><td>29施策順位</td></tr><tr><td>0.17</td><td>14位/29施策</td></tr></table> 重要度回答率 <table border="1"><tr><td>重要度回答率</td><td>29施策順位</td></tr><tr><td>42.7%</td><td>9位/29施策</td></tr></table> 凡例 全体(N=1,055) (5) 子どもたちの生きる力を育む教育の推進 【学校教育】粕屋町では、小中学校の教育環境が整っていると思いますか。 ■そう思う ■ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない ■どちらともいえない □無回答 <table border="1"><tr><td>全体(N=1,055)</td><td>8.5</td><td>32.9</td><td>12.1</td><td>5.0</td><td>39.1</td><td>2.3</td><td>41.4</td><td>17.1</td></tr><tr><td>0%</td><td>20%</td><td>40%</td><td>60%</td><td>80%</td><td>100%</td><td>そう思う計</td><td>そう思わない計</td></tr></table> ○小中学校の教育環境が整っていると思うかについて、「どちらともいえない」方が39.1%と最も高くなっています。 ○教育環境が整っていると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方は41.4%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の17.1%を上回っています。	加重平均値	29施策順位	0.17	14位/29施策	重要度回答率	29施策順位	42.7%	9位/29施策	全体(N=1,055)	8.5	32.9	12.1	5.0	39.1	2.3	41.4	17.1	0%	20%	40%	60%	80%	100%	そう思う計	そう思わない計
加重平均値	29施策順位																									
0.17	14位/29施策																									
重要度回答率	29施策順位																									
42.7%	9位/29施策																									
全体(N=1,055)	8.5	32.9	12.1	5.0	39.1	2.3	41.4	17.1																		
0%	20%	40%	60%	80%	100%	そう思う計	そう思わない計																			
議会や住民の声	●令和6年9月定例会一般質問・答弁「要旨：就学援助の準要保護の認定基準を、現状の1.3以下から1.5倍以下に変更することは、全国的状況および近隣市町の状況を鑑みて困難と考える。」「要旨：スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの増員は望ましいが、現状では予定していない。」																									
外部評価	重点プロジェクト 持続的成長	○小学校運営事業 (R3) GIGAスクール構想に関する取り組みを滞りなく進められており、施策実現への取り組みや進捗については、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」と評価しているが、「改善の余地がある」としたものの中には、医療ケア児に対する支援員が不足していることや、教員の新たな負担増、児童の学力や想像力の低下に対する不安感によるものであった。																								
	取組内容 GIGAスクールの実現	○中学校運営事業 (R3) 小学校運営事業と同様、施策実現への取り組みや進捗、内部評価の妥当性について、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」、「概ね適切」と評価しているが、根拠や具体性のない記述の改善、成果指標の再検討を求める意見があった。																								
	評価対象事業 小学校運営事業 (R3) 中学校運営事業 (R3)																									

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			3 未来を担う子どもたちを育むまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 42,43ページ】		
基本施策	(2) 地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成			子どもたちが健やかに育ち、ふるさとへの愛着と誇りを持てるよう、地域が連携して子どもを見守り育む環境づくりを進めます。							重点プロジェクト	魅力・誇り向上 (歴史や文化を活かした シビックプライド醸成)	
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	青少年の育成について学校・家庭・地域の連携が十分だと思う町民の割合	%	28.1		29.0	30.7		28.4 (実績)			C	●指標の割合は伸びているものの、環境の変化やPTA改革などにより、低水準となっている。
客観指標	家庭教育学級延べ参加者数	人/年	2,264	2,471	2,107	1,344	0.0%	2,500 (見込)	2,700	3,000			●家庭教育学級代表者会を実施し、子どもたちの多様化する環境にあった助言を行っているため、参加者数は増加している。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	子どもたちが学校や家庭だけでなく、地域の人々とのふれあいを通じて自主性・社会性を育む環境づくりは重要であり、さまざまな交流活動を展開できる人材の確保が求められています。			●町民運動会等の地域スポーツイベントの開催や地域寺子屋事業の推進により、地域の人々がふれあう場の提供ができている。町行事を通して、社会教育関係団体（青年団や空と海の会）の会員数が増え、団体の活性化や交流活動の展開ができる人材の確保ができつつあるが、高齢化や役員の担い手不足等の課題があり、新しい形での団体活動の継続や交流活動を視野に入れる必要がある。						
	課題2	子どもたちが地域を学び、知る、ふるさと教育による愛郷心を育む取組の継続が必要です。			●学校教育と連携して、阿恵官衙遺跡の学習のほか、発掘体験を小学校で実施し愛郷心を育んだ。今後も子どもたちが粕屋町の歴史文化を学ぶ機会を創出し、ふるさと教育による愛郷心を育む取組の継続が必要。						
	課題3	国際交流活動は、今後多くの子どもたちがさまざまな国のかつを感じ、国際感覚を養う機会であり、活動の充実が求められています。			●国際交流活動は、グローバル化の進展に伴い、今後も国際感覚を養う機会の創出・交流活動の充実が求められている。						
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)			取組意向	
	地域コーディネーターを中心に従来の個別の活動をネットワーク化し、新しいつながりによる地域・学校・家庭が連携した子どもの学ぶ場づくりを拡大するため、地域学校協働活動を推進します。	社会教育課	●活動の中心となる地域コーディネーターを配置できず取組が進んでいない状況である。地域コーディネーターを担う人材の育成発掘が課題。				●豊かな心の育成、地域の人材育成、グローバル社会における青少年育成のため、ときめき体験事業とAPCC事業を推進する。				
	地域通学合宿や寺子屋事業を開催する団体などの拡大をめざし、活動支援に取り組みます。	社会教育課	●地域通学合宿は、1行政区のみの実施にとどまっており、実施地区の活動成果や魅力を情報発信することが課題である。寺子屋事業は、寺子屋関係者と社会教育関係団体との研修会を開催し、寺子屋事業の活動報告や意見交流を行うなど、社会教育委員と連携して事業の推進に取り組み、5行政区で実施された。学習支援や子どもの居場所づくりのため、活動支援や人材確保が課題となっている。				●働き方改革と青少年育成の観点から、社会教育委員と連携協力し地域学校協働活動の取組を推進する。				
	学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を活かした教育活動を進めることにより、地域を担う人材の育成につながるキャリア教育や、地域に誇りを持つ教育を推進します。	社会教育課	●活動の中心となるコーディネーターを配置できず、地域と学校の連携は進んでいない。ときめき体験事業が地域を担う人材の育成に繋がっている。				●地域や家庭で共に学び支え合う環境整備のため、通学合宿と寺子屋事業を推進する。地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成。地域における学びを通じて、人との繋がりや関わりを作り出し、地域の教育力向上に資する。				
	国際交流活動の取組を広報などにより周知し、ICTを活用して多くの町民が国際交流を体験する機会の拡大を図ります。	社会教育課	●APCC事務局と連携し、外国の子どもたちを受け入れ、ホームステイや学校登校を通じて異文化に対する理解と認識を深めた。応募数も年々増加しており、町民の国際交流に対する意識の変化も見られる。				●国際交流活動は本町が関与している活動以外でも、積極的にホームページで活動を周知している。				
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●第4期教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）								

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●町主催事業を通して様々な（国際、異文化、異学年）交流の機会がある。地域寺子屋事業など地域交流の取組がある。																					
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●地域の青少年健育成活動を担う人材の不足。																					
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●町主催行事だけでなく、各地域独自で公民館等を活用した様々な交流する機会が創出されている。																					
	Threats (脅威となる社会潮流)	●スマートフォン等のネットコミュニケーションの普及による子どものコミュニケーション力の低下と子どもたちを取り巻く環境の変化。子ども会やP.T.Aなどの任意加入団体の会員減少。																					
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.15</td> <td>17位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>加重平均値 0.15 29施策順位 17位/29施策</p>		加重平均値	29施策順位	0.15	17位/29施策																	
加重平均値	29施策順位																						
0.15	17位/29施策																						
議会や住民の声	●施策の重要度：地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21.6%</td> <td>19位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>重要度回答率 21.6% 29施策順位 19位/29施策</p>		重要度回答率	29施策順位	21.6%	19位/29施策																	
重要度回答率	29施策順位																						
21.6%	19位/29施策																						
町民意識調査結果(R6)	<p>●【青少年の健全育成】粕屋町では、青少年の育成について学校・家庭・地域の連携が十分だと思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>2.0</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>18.7</td> <td>18.7%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>66.4</td> <td>66.4%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>4.3</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>12.0</td> <td>12.0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055) (6) 地域ぐるみで育む子どもたちの健全な育成</p>		選択肢	回答数	割合	そう思う	2.0	2.0%	ややそう思う	18.7	18.7%	どちらともいえない	66.4	66.4%	やや不満	4.3	4.3%	不満	12.0	12.0%	無回答	0	0%
選択肢	回答数	割合																					
そう思う	2.0	2.0%																					
ややそう思う	18.7	18.7%																					
どちらともいえない	66.4	66.4%																					
やや不満	4.3	4.3%																					
不満	12.0	12.0%																					
無回答	0	0%																					
<p>○青少年の育成について学校・家庭・地域の連携が十分だと思うかについて、「どちらともいえない」方が48.8%と最も高くなっています。</p> <p>○青少年の育成について学校・家庭・地域の連携が十分だと『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方が28.4%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）の方の20.8%を上回っています。</p>																							
議会や住民の声	●議会や町民から「国際交流事業、ときめき体験事業の継続」との意見がある。																						

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち				4 身近な学びと交流があるまちづくり						【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 44,45ページ】		
基本施策	(1) ライフステージに応じた学びと交流の推進												
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	身近に学びの機会があると思う町民の割合	%	36.4		38.4	37.7		34.6 (実績)			●町民のニーズに合った自主事業を開催し、広報、ホームページでの周知を行っているため、令和7年度の目標達成は見込める。	
	客観指標	柏屋町立図書館の延べ来館者数	人/年	183,744	92,749	144,893	150,257	75.1%	155,000 (見込)	190,000	200,000	要検討	●令和6年度に予定されているICタグを使用した資料管理システムの導入により、特別整理期間（休館日）の日数削減、自動貸出機の設置等で利用者の利便性が向上する一方で、電子図書館や利用資料の延長手続きなど来館不要のWEBサービス利用の拡大も見込まれるため、目標値に届かない可能性が考えられる。
	客観指標	柏屋町立生涯学習センターの延べ利用者数	人/年	173,938	93,744	162,090	172,476	0.0%	175,000 (見込)	200,000	250,000	要検討	●自主事業、文化活動の促進の取組は行っているが令和7年度の目標達成は見込めない。
	客観指標	柏屋町総合体育館の延べ利用者数	人/年	207,495	92,400	146,377	118,194	47.2%	200,000 (見込)	220,000	250,000	要検討	●コロナ禍、プールの大規模改修により一旦離れた利用者が戻ってきていないため、新規の利用者を開拓する必要がある。令和7年度の目標達成は見込めない。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」				総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化			
	課題 1		課題 1		課題 1		課題 2	
	価値観の多様化が進む中、ライフステージに応じた学びやスポーツのニーズは高まっており、町民のニーズに応じた講座などの企画・実施により、施設の利用を促進する必要があります。		町民が安全・安心して利用できるよう、生涯学習の関連施設である生涯学習センター、図書館、総合体育館などの環境整備が必要です。		健康志向の高まりにあわせ、各種スポーツ団体の活動を支援し、地域における生涯スポーツ活動の普及・促進を行う必要があります。		芸術、文化の発表の場を提供するとともに、芸術を身近に体験できる企画事業開催が求められています。	
	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 継続して実施 B : 取組方法を改善 C : 継続しない)			
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の取組状況及び成果・課題				第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)	
			現状の取組状況及び成果・課題		進捗評価		取組意向	
行政による 施策評価	生涯学習センターなどの生涯学習関連施設での町民のニーズに応じた学習環境づくりを推進するとともに、地域の人材や資源を活用した学習プログラムの充実により、生涯学習の活性化を図ります。	社会教育課	●子どもから高齢者まで参加できる様々な講座、教室、自主事業を開催し、生涯学習の活性化を図っている。				○	A
	図書館の適切な維持・管理により、すべての年代の利用者が気軽に立ち寄り、余暇を過ごせる施設をめざすとともに、各関係機関と連携・協力し子どもの読書活動を推進します。	社会教育課	●図書等の貸出およびインターネット端末を開放した情報提供、親しみやすく利用しやすい図書館づくりに向けたイベントの開催(各課と連携した子どもイベント含む)を行った。また、電子図書館を導入することで、図書館の来館利用が困難な町民の利便性向上を図り、図書館利用者増加を図っている。				○	
	町民のスポーツ活動を広げるため、スポーツ協会と連携した各種スポーツ団体への支援や総合体育館での利用者のニーズにあった各種教室の開催に取り組みます。	社会教育課	●スポーツ協会等を主としたスポーツ行事を推進して事業を実施しているが、スポーツの多様化によりスポーツニーズは分散化傾向にある。 ●各種教室の利用状況に偏りがみられるため、種目や定員について適正に実施できるよう検討している。				○	
	スポーツ推進委員を中心とした各種スポーツ大会などを開催するほか、ジュニアスポーツ団体と連携し、ジュニアスポーツの活性化を図ります。	社会教育課	●スポーツ推進委員を中心とした軽スポーツ大会(障がい者スポーツであるボッチャを取り入れている)や全町民を対象とした町民運動会を実施しており、参加者は増加傾向にあるが町民運動会は苦情が多い傾向にある。ジュニア団体に補助金を交付して実施しているが、ジュニア加入者は減少傾向にある。				△	
	文化祭実行委員会による文化祭の企画運営を支援し、町民の文化・芸術活動の発表の場を提供するとともに、芸術を身近に体験できるような催しなど、さまざまな視点から文化芸術活動を推進します。	社会教育課	●文化祭実行委員と連携し、集客アップに向けた新しい取組を実施している。 ●臨機応変に予算を確保することで、文化芸術活動を推進できている。 ●文化協会会員の会員数減少や高齢化が進んでいるため、会員確保に向けた発表の場の提供を行い、文化芸術に触れる機会をより創出しなければならない。				○	
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】				●文化芸術推進基本計画(R2～R11) 第4期教育振興基本計画(令和5年6月閣議決定)				

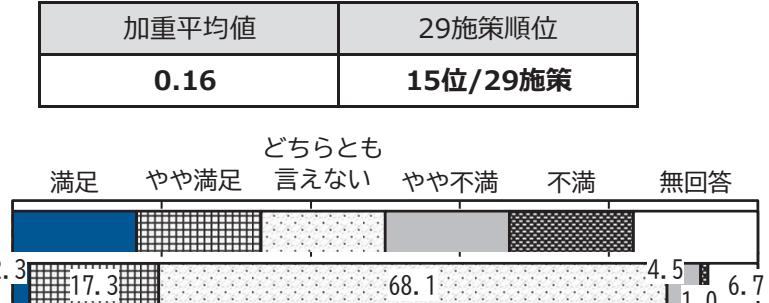
2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●生涯学習・スポーツの拠点であるサンレイクかすやとかすやドームでは団体やサークル活動が定期的に行われ、イベントや講座も開催されている。また、役場や駕与丁公園、長者原駅と近接しているため利便性も高い。 ●読み聞かせボランティアの団体が多く、団体の活動支援や読書活動を支える人材の育成に取り組んでいる。															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●文化活動団体が高齢化している。 ●各施設の老朽化による不良箇所が顕著となっている。 ●行政区での活動は多いが、小学校区での活動は少ない。															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●国際的なスポーツイベントやプロ選手の活躍によるスポーツへの意識・関心の高まり。															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●地域コミュニティの希薄化。ライフスタイルの多様化に伴うニーズの多様化・分散化。															
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：ライフステージに応じた学びと交流の推進																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.18</td> <td>12位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (7) ライフステージに応じた学びと交流の推進</p>		加重平均値	29施策順位	0.18	12位/29施策											
加重平均値	29施策順位																
0.18	12位/29施策																
議会や住民の声	●施策の重要度：ライフステージに応じた学びと交流の推進																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18.6%</td> <td>21位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		重要度回答率	29施策順位	18.6%	21位/29施策											
重要度回答率	29施策順位																
18.6%	21位/29施策																
議会や住民の声	【生涯学習】粕屋町では、生涯を通して身近に学びの機会があると思いますか。																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>■どう思わない</th> <th>□どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>そう思う 計</th> <th>そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.9</td> <td>27.7</td> <td>19.8</td> <td>7.4</td> <td>36.4</td> <td>1.8</td> <td>34.6</td> <td>27.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○生涯を通して身近に学びの機会があると思うかについて、「どちらともいえない」が36.4%と最も高くなっています。 ○生涯を通して身近に学びの機会があると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方は34.6%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の27.2%を上回っています。</p>		■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思わない	□どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計	6.9	27.7	19.8	7.4	36.4	1.8	34.6
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思わない	□どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計										
6.9	27.7	19.8	7.4	36.4	1.8	34.6	27.2										

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			4 身近な学びと交流があるまちづくり								【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 46,47ページ】	
基本施策	(2) 郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現 阿恵官衙遺跡などの地域の貴重な文化財を次世代に継承し、歴史文化への理解を深めるとともに、郷土に対する愛着や誇りを育みます。											重点プロジェクト 魅力・誇り向上 (歴史や文化を活かしたシビックプライド醸成)	
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	郷土の歴史に興味を持っている町民の割合	%	35.4		38.1	36.1		32.2 (実績)			●阿恵官衙遺跡は令和元年度に国史跡に指定されたが、現地で見学できる状況ではないため、年々関心度が低くなっている。	
	客観指標	歴史資料館の延べ来館者数	人/年	7,667	0	0	4,993	49.9%	8,000 (見込)	9,500	10,000	B	●コロナ禍により令和3年3月～令和5年4月まで臨時休館が続いたため、再開後も認知度の低下は否めない。令和6年度は企画展が好評で来館者数増が見込まれるもの、令和7年度の目標までは伸びないと思われる。
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題1	貴重な文化財を通じた町の歴史や文化の理解を深める機会を充実するため、歴史資料館の企画展の内容や情報発信の工夫が必要です。						●歴史資料館来館者数の増加を図るためにも、企画展、講座等のイベント開催及びSNSの活用が不可欠と考えるが、発掘調査・史跡整備等の業務量が多く、普及啓発業務に割く人員が不足している。					
	課題2	阿恵官衙遺跡については、史跡を将来にわたって保存するとともに、史跡公園の整備計画を策定し、町民の歴史教育の場として活用するほか、町民の憩いの場として親しまれる史跡のあり方の検討が必要です。						●「阿恵官衙遺跡整備基本計画」は令和6年度中に策定予定であるが、今後決定する九大農場跡地開発の内容に応じて整備基本計画の改訂版を刊行し、その計画をもとに史跡整備工事を進めなければならず、その記載が必要である。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向	
	阿恵官衙遺跡保存活用計画を策定し、将来的な史跡の保存と活用の方針を定めるとともに、国指定地の公有化を図り、史跡整備の計画及び設計を推進します。	社会教育課	●「阿恵官衙遺跡保存活用計画」は令和4年3月に策定し、「阿恵官衙遺跡整備基本計画」は令和7年3月に策定予定であり、順調に進捗している。ただし整備基本設計については、九大農場跡地開発の内容に応じて進める予定である。また、国指定地の公有化は令和3年度と4年度で行ったが、令和6年10月に新たな地域が追加指定を受けたため、今後公有化を進める必要がある。				○	●基本施策の取組方針について以下の項目について追加・修正が必要。 【追加】 <ul style="list-style-type: none">・阿恵官衙遺跡の追加指定地の公有化・九大農場跡地開発と連携して「阿恵官衙遺跡整備基本計画」改訂版の策定及び「阿恵官衙遺跡基本設計・実施設計」の推進 【修正】 <ul style="list-style-type: none">・策定済みである阿恵官衙遺跡保存活用計画の記述表現。				A	
	歴史資料館の企画展・講座の開催や、学校の歴史授業において、阿恵官衙遺跡などをテーマにした学習を実施し、町の文化財への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めます。	社会教育課	●歴史資料館主催の歴史講座は阿恵官衙遺跡をテーマに毎年実施した。平成29年度と令和2年度は企画展で阿恵官衙遺跡を取り上げ、その後も常設展示を行っている。 ●学校教育と連携して、阿恵官衙遺跡の学習のほか、発掘体験を小学校で実施した。				○						
	阿恵官衙遺跡の国史跡指定に関連するイベントや講座など、地域文化財の情報発信を推進し、町民の歴史文化に対する興味と関心を高めます。	社会教育課	●令和4年度に阿恵官衙遺跡国指定記念シンポジウムを開催し、県内外より243名の参加を得た。史跡整備を踏まえた阿恵官衙遺跡の将来像について町民の関心を高める契機になったと考えるが、史跡整備の着手まであと数年は要するため、関心が薄れないように継続的な取組が必要である。 ●一方で、興味関心の高まりが歴史資料館の来館者数には直接反映されていないことは検証が必要である。				○						
	阿恵官衙遺跡など町内の歴史・文化について、国内に広く情報発信を行うとともに、関係機関と連携し、町の認知度も高めます。	社会教育課	●阿恵官衙遺跡の発掘調査成果を一般に広く公開するため、マスコミ報道等で周知を図って現地説明会を実施し、令和5年度は148名、令和6年度は212名の参加を得た。また、学術的な学会において阿恵官衙遺跡の研究報告を行った。 ●SNSによる情報発信の不足が課題。				○						
	埋蔵文化財について、調査の円滑化を図り、適正な保存・管理を推進します。	社会教育課	●開発行為と埋蔵文化財調査の円滑化を図るため、必要に応じて適宜試掘・確認調査を行い、遺跡の破壊が免れないときは発掘調査を実施して記録保存を行った。第5次総合計画期間中に実施した発掘調査件数は24件で、うち1件は国史跡として阿恵官衙遺跡に追加指定され、現地に保存されている。				○						
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●阿恵官衙遺跡の史跡整備は、九大農場跡地開発の内容に大きく左右されるため、関係機関と連携を図らなければならない点は考慮する必要がある。										

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●阿恵官衙遺跡は、地方行政単位の「郡」が成立したときの古代糟屋郡の役所跡であり、現在の糟屋郡のルーツといえる史跡である。 ●文化財の展示施設である粕屋町立歴史資料館を管理・運営している。																																				
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●転入・転出率が高く入れ替わりが激しいことから、粕屋町に対して愛郷心を抱く人が少なく、町民意識調査結果からみても郷土の歴史に興味を持っている町民の割合が少ないことがわかる。 ●粕屋町立歴史資料館の来館者数は近隣自治体と比較して少ないわけではないが、コロナ禍以前の来館者数に回復できていない。 ●地域・学校と協働して文化財の活用を図るために職員体制が整っていない。																																				
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●九大農場跡地開発の進展によって阿恵官衙遺跡の史跡整備が進めば、粕屋町における文化財の活用にとって大きな転機となる。																																				
	Threats (脅威となる社会潮流)	●県道福岡東環状線の開通がおよそ10年後であるため、阿恵官衙遺跡が整備されたときの交通環境に課題が残る。																																				
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現 <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.16</td> <td>15位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.3</td> <td>17.3</td> <td>68.1</td> <td>4.5</td> <td>1.0</td> <td>6.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【歴史文化】あなたは、町の歴史に興味を持っていますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>■持っている</th> <th>□やや持っている</th> <th>□あまり持っていない</th> <th>□持っていない</th> <th>■どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>持つて いる 計</th> <th>持つてい ない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.7</td> <td>24.5</td> <td>33.2</td> <td>32.2</td> <td>18.5</td> <td>15.5</td> <td>0.7</td> <td>51.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>○町の歴史について興味を「あまり持っていない」方が33.2%と最も高く、「持っていない」方とあわせた51.7%の方が「興味を持っていない」と回答しています。一方、『興味を持っている』（「持つていてる」+「やや持つていてる」）方は32.2%となっています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.16	15位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.3	17.3	68.1	4.5	1.0	6.7	■持っている	□やや持っている	□あまり持っていない	□持っていない	■どちらともいえない	□無回答	持つて いる 計	持つてい ない 計	7.7	24.5	33.2	32.2	18.5	15.5	0.7	51.7	●施策の重要度：郷土を愛し、地域の歴史と文化を継承する社会の実現 <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.4%</td> <td>29位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>	重要度回答率	29施策順位	6.4%	29位/29施策
加重平均値	29施策順位																																					
0.16	15位/29施策																																					
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																																	
2.3	17.3	68.1	4.5	1.0	6.7																																	
■持っている	□やや持っている	□あまり持っていない	□持っていない	■どちらともいえない	□無回答	持つて いる 計	持つてい ない 計																															
7.7	24.5	33.2	32.2	18.5	15.5	0.7	51.7																															
重要度回答率	29施策順位																																					
6.4%	29位/29施策																																					
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年10月16日阿恵官衙遺跡国指定記念シンポジウムアンケートによる意見「行政（粕屋町）まかせにせず、町民がこの阿恵官衙遺跡に関わっていけるよう、もっと子どもたちにも詳しく知ってもらうような行事など、ぜひ、考えていただき、参加ていきたいと思います」 令和4年度粕屋町立歴史資料館主催歴史講座アンケートによる意見「単なる通過地点と思っていた糟屋郡が意外と豊かな史跡があると思いました」 																																					
外部評価	重点プロジェクト	魅力・誇り向上																																				
	取組内容	歴史や文化を活かしたシビックプライド醸成																																				
	評価対象事業	歴史文化財活用事業 (R4)																																				
	令和4年度は阿恵官衙遺跡国指定シンポジウムのほか、史跡整備を進めるための用地取得など、施策実現への取り組みや進捗、内部評価の妥当性について、ほとんどの委員が「着実に取り組まれている」や「順調に進んでいる」、「適切」と評価しており、現状の把握や課題の認識が正しくなされ、取り組まれていると考えられる。新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで歴史資料館が利用できない状況にあり、再開した歴史資料館の集客を増やすことが阿恵官衙遺跡の認知度を上げるために大事である。そのための周知や広報、開催する歴史講座の内容の再検討や近隣自治体と連携した企画展など、これから先来館者を取り込むための取り組みの検討を進めていただきたい。																																					

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち		1 自然と調和した便利で快適なまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 48,49ページ】			
基本施策	(1) 自然と調和した都市空間の創造 自然と都市のバランスのとれた、快適で魅力的な生活環境を確保するため、計画的なまちづくりを推進します。													
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	自然と調和したまちづくりが行われていると思う町民の割合	%	47.3		49.9	51.2		45.8 (実績)			超過	●酒殿駅南のまちづくりでは、自然との調和として分譲地の緑地率設定や公園の芝生化を行い、指標は達成される見込み。 ●市街化区域編入に向けた協議を行っている箇所が2箇所あり、順調に手続きが進めば達成が見込まれる。	
1. 行政による施策評価														
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	自然と調和した魅力ある都市空間を確保していくため、市街化区域内の農地や低・未利用地の活用とともに、都市的土地区画整理事業のポテンシャルが高い地域では、防災や環境、景観のほか、地域農業に及ぼす影響に十分配慮し、人口や都市機能の量的な拡大が、まちの質的な充実にもつながる計画的なまちづくりを推進する必要があります。					●都市的土地区画整理事業のポテンシャルが高い地域においては、土地区画整理事業組合が発足され、人口や都市機能の拡大が見込まれる。町としてもその事業計画で、防災や環境、景観など計画的なまちづくりを推進する必要がある。							
	課題1	ぼた山については、開発及び財産管理を適正に行うとともに、自然活用型開発などのさまざまな視点から今後の方向性の検討が必要です。					●今後も継続して志免町と須恵町とぼた山整備、維持管理、用地利活用の検討・実施については、慎重に協議していく必要があると考える。							
	課題2	九州大学農場跡地（予定）では、阿恵官衙遺跡を活用した遺跡公園を整備し、幅広い世代にとって利便性が高い市街地を形成するとともに、活力ある社会経済活動の場として新たな雇用を創出する、地域と調和した魅力ある計画的なまちづくりが必要です。					●九州大学と定期的に行っている跡地利用についての協議を今後も継続していくとともに、民間企業の知恵も借りながら、遺跡公園も含め魅力的なまちづくりを考えていく必要がある。ただし、跡地を縦断する福岡東環状線については、令和17年度まで事業期間が延長され跡地利用への影響が懸念される。							
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）				取組意向			
	都市計画マスターplanに沿った、秩序ある土地利用の促進・維持を図るとともに、町の中心拠点においては、まちの顔にふさわしいにぎわいと個性のある場所への再生をめざし、土地の高度利用を誘導するように土地利用規制のあり方を検討します。	都市計画課	●都市計画マスターplanに沿って、緑とにぎわいが共存する酒殿駅南地区や環境と景観に配慮した江辺山地区で都市と自然が調和したまちづくりを進めた。また、町の中心拠点としてまちの顔にふさわしい個性ある場所の検討・協議を行い、長者原駅・原町駅周辺を検討している。					●「まちの顔にふさわしいにぎわいと個性のある場所」については、計画を策定するために長者原駅・原町駅周辺などの区域とするかを絞っていく。						
	ぼた山については、適正な管理を引き続き行うとともに、今後の開発の方向性を関係自治体と連携し検討します。	地域振興課	●粕屋・志免・須恵国鉄炭鉱跡地共同管理執行協議会財産管理規程に基づき、ぼた山志免側進入口等の草刈を実施し、維持管理に努めた。 ●ぼた山用地利活用を検討・実施していくにあたり、事業者提案時に係る必要事項を3町で協議した。 ●自然活用型開発等、様々な視点から今後のぼた山活用の方向性を引き続き検討する必要がある。					●九大農場跡地については、九州大学との協議と並行して、具体的な土地活用計画についても、民間事業者の知恵を借りながら検討・作成していく必要がある。また、阿恵官衙遺跡については、緑の拠点として活用を検討し、自然と調和したまちづくりを進める。						
	農地パトロールなどにより農地の適正管理のため必要な指導や助言を行い、農地の保全を推進します。	地域振興課	●農業委員会委員による定期的な農地パトロールを行い、無断転用や荒廃農地の防止に努めている。					●「ぼた山については、引き続き適正な管理を行うとともに、今後の開発の方向性を関係自治体と連携し検討します。」については、3町での連携が不可欠であるため、継続実施していく必要がある。						
	九州大学農場跡地（予定）の活用については、交通の要衝となるメリットを活かし、公共公益施設・商業・業務・住宅など複合的な要素をあわせ持つ魅力ある市街地を形成し、新たな雇用の場の創出をめざします。	都市計画課	●九州大学農場跡地のまちづくりを進めるため調査検討を行い、町として農場跡地の活用に向けた協議の申入書の提出を行った。今後は、九州大学と定期的な協議を行い、魅力ある市街地形成を目指すための具体的な土地活用計画を策定する必要がある。ただし、福岡東環状線の事業計画が令和17年度まで延長されたことが、事業進捗に影響を与えることが懸念される。					●農地の保全については、引き続き定期的なパトロールにより無断転用や荒廃農地の防止に努めるとともに、遊休農地を早期に発見し、改善が必要な場合は農地所有者へ利用意向調査を行っていく。						
	国の史跡指定となった阿恵官衙遺跡は貴重な歴史資源であり、町の魅力を発信できる緑の拠点として、九州大学農場跡地（予定）と一体的な活用を図ります。	都市計画課	●阿恵官衙遺跡については、「史跡等整備検討委員会」が立ち上げられ、保存活用計画が策定され、協議されている。遺跡については、今後の農場跡地利用計画の中でも一貫的な活用を検討する必要がある。					●						
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】														

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市に隣接し長者原駅から博多駅まで10分程度の立地で福岡都心に近い一方、鶴与丁公園をはじめとして水辺・川・水田・森林などがあり緑豊かなまちであることから、住環境に適している。 ●九州縦貫道福岡インター、都市高速粕屋出入口もあることから、交通の利便性が高く流通業務にも適している。 ●市街化調整区域では、計画的なまちづくりを行うことにより人口や都市機能の量的な拡大を進めることができる。 ●ボタ山の用地利活用については、土地が約28万平方メートルあり、九州自動車道 福岡インター等や福岡空港に近い立地状況である。 																																			
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●市街化区域内では人口の増加を受け入れる住宅地を建設できる土地が不足している。 ●市街化調整区域が無秩序に土地利用される恐れがある。 ●ボタ山の用地利活用については、3町それぞれがおかれの状況や規制等に相違があるため、意見の統一が難しい面がある。 																																			
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●箱崎キャンパスの優先交渉権者が決定し、次は九大農場跡地の利用が注目されている。 ●物流施設に関する需要が高まっており、ボタ山の用地利用の追い風になる可能性がある。 																																			
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●少子高齢化の影響で全国的に人口の減少が進んでいる。 ●糟屋地区の他市町でも土地区画整理事業による開発が計画されており、事業競合の可能性もある。 ●九大農場跡地は町所有でないため、事業者の決定や市街化区域編入などの手続きなどにおいて、調整が難しい。 ●物流施設に関する需要が高まっているものの、法規制により推進することが難しい。 																																			
町民意識調査結果 (R6)	<p>●施策の満足度：自然と調和した都市空間の創造</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.24</td> <td>8位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>26.6</td> </tr> <tr> <td>言えない</td> <td>51.4</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>7.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(9) 自然と調和した都市空間の創造</p> <p>●施策の重要度：自然と調和した都市空間の創造</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16.3%</td> <td>25位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>[土地利用]粕屋町では、都市と自然の調和したまちづくりが行われていると思いますか。</p> <p>■そう思う ■ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない ■どちらともいえない □無回答</p> <p>全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>37.8</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>20.2</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>26.4</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>○粕屋町では、都市と自然の調和したまちづくりが行われていると思うかについて、「ややそう思う」が37.8%と最も高く、「そう思う」とあわせ45.8%の方が「そう思う」と回答しています。一方、「そう思わない」（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方は26.9%となっています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.24	8位/29施策	回答	割合	満足	4.1	やや満足	26.6	言えない	51.4	やや不満	8.2	不満	2.0	無回答	7.7	重要度回答率	29施策順位	16.3%	25位/29施策	回答	割合	そう思う	8.0	ややそう思う	37.8	どちらともいえない	20.2	あまりそう思わない	6.7	そう思わない	26.4	無回答	0.9
加重平均値	29施策順位																																				
0.24	8位/29施策																																				
回答	割合																																				
満足	4.1																																				
やや満足	26.6																																				
言えない	51.4																																				
やや不満	8.2																																				
不満	2.0																																				
無回答	7.7																																				
重要度回答率	29施策順位																																				
16.3%	25位/29施策																																				
回答	割合																																				
そう思う	8.0																																				
ややそう思う	37.8																																				
どちらともいえない	20.2																																				
あまりそう思わない	6.7																																				
そう思わない	26.4																																				
無回答	0.9																																				
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> ●九大農場跡地利用については、議会や住民の関心が高い。 																																				

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち			1 自然と調和した便利で快適なまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 50,51ページ】		
基本施策	(2) 緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造			町のシンボルである駕与丁公園をはじめ、豊かな緑や水辺環境を保全し、町民が憩い、交流できる環境づくりを進めます。							重点プロジェクト 魅力・誇り向上 (町のランドマーク(駕与丁公園)のさらなる充実)		
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	憩いや交流のために公園が活用されていると思う町民の割合	%	59.6		66.2	63.5		57.2 (実績)			●新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、久しぶりに夏祭りなどの地域行事が、公園を利用し行われているため、指標は達成する見込み。	
	客観指標	駕与丁公園の延べ利用団体数	団体/年	400	48	236	258	0.0%	264 (見込)	270	440	要検討	●新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染リスクの少ないBBQやキャンプ、グランピング施設が周辺地域に整備され、利用団体数が伸び悩んでいる。
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題1	駕与丁公園は、豊かな自然と共生する町の魅力を象徴するランドマークであり、町内外にその魅力を発信し、幅広い人が集まる場として、さらなる魅力向上とともにぎわいづくりが求められています。また、憩いと交流の場として安全・安心に利用できるよう、公園施設の維持管理が必要です。						●駕与丁公園では、「粕屋町バラまつり」を令和4年度に、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ3年ぶりに開催し、令和6年度まで継続できている。また、公園のにぎわいづくりとして、カフェ等の企業ヒヤリングを実施したが、場所や費用等が課題となつたため、固定店舗を持たないキッチンカーの社会実験を基に、出店可能箇所等を見直し、令和3年度170台であった出店申請が令和6年度は650台程度の見込みである。公園施設長寿命化計画を策定し、令和4年度より、園路、侵入防止柵、ハッ橋、遊具等の改修を順次進めている。					
	課題2	町内の緑化推進と良好な景観の維持のため、適切な管理を行うとともに、町民や事業者、行政の協働により、地域ぐるみで緑化推進と景観保全に努めることができます。						●公園や植樹帯の良好な景観維持のため、適正な管理を行い、町民・利用者からの苦情・要望に対しては、積極的な対応を行っている。町民や事業者、行政の協働により花苗植樹や公園清掃を行っているが、高齢労働者の増加により地域活動の担い手が減少しており、事業者の参加も促す施策を検討する必要がある。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」		担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)					
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)					取組意向
	町のシンボルである駕与丁公園は、魅力の中心となる緑の拠点として、町民や町外の来訪者に幅広く親しまれています。また、バラ園の充実や継続的なイベントの実施、民間事業者の活用（カフェ・レストラン・売店など）の可能性を検討しながら、さらなる魅力向上に取り組みます。		都市計画課	令和4年度には3年ぶりとなる「粕屋町バラまつり」を新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ開催し、13,000人程の来場者を迎えることが出来た。令和5年度においても、出店内容やステージイベントの拡充に努め、前年度同等の来場者数で大いに盛り上がった。キッチンカーにおいても年々出店申請が増加し、令和6年度650台程度の見込みである。また、民間事業者におけるイベント開催も増加している。バラ園駐車場拡幅に向けた用地買収や野球場横子ども広場の駐車場整備も行っており、公園利用者の利便性向上に努めている。				○	●駕与丁公園については、長寿命化計画に基づき、今後も改修を進めていく。また、民間事業者の活用については、施設の改修、拡充を進めつつ、引き続き可能性を検討する。また、客観指標については、駕与丁公園の利用形態から、芝生広場でのBBQ利用団体に偏った「延べ利用団体数」から、遠足やウォーキング、マラソン大会等の各種イベント参加数が反映された「延べ利用者数」の設定へ見直しを検討する。				
	安全・安心に公園が利用できるよう、遊具などの施設の点検、修繕、改築を行うとともに、公園管理への住民・事業者の参加を促進します。		都市計画課	遊具安全点検の結果や地域の要望等により公園の施設等の修繕に努めた。また、粕屋中央スポーツ公園、毛田池公園の大型複合遊具をインクルーシブな遊具に更新し、令和6年度も袖須公園にインクルーシブな遊具の設置を進めている。公園清掃等の地域住民の参加については、高齢労働者の増加により地域活動の担い手が減少しており、事業者の参加も促す施策を検討する必要がある。				○	●町花としてのバラについては、バラ園やバラまつりを通じて、粕屋町のシンボルとして引き続き魅力向上に努める。				
	公園・緑地などは、災害時の避難場所として重要な役割があるため、ユニバーサルデザインにも配慮された防災機能の強化に努めます。		都市計画課	都市公園のトイレについては、令和5年度から計画的にユニバーサルデザイン（鉄筋コンクリート造）のトイレ改修工事を進めている。トイレ改修の際には車いすやベビーカー利用者等を考慮したスロープの整備等も併せて行っている。				○	●都市公園の遊具については、遊具改修計画に基づき、今後も改修を進めて行く。				
	緑豊かな潤いある景観を維持するため、適切な維持管理を行うとともに、町民と行政が協働で緑化を推進します。		都市計画課	公園や植樹帯の良好な景観維持のため、適正な管理を行い、町民・利用者からの苦情・要望に対しては、積極的な対応を行っている。町民や事業者、行政の協働により花苗植樹や公園清掃を行っているが、高齢労働者の増加により地域活動の担い手が減少しており、事業者の参加も促す施策を検討する必要がある。				○	●まちづくりの課題と展望において、組合加入率の低下や高齢労働者増加による長寿会活動者の減少により、地域ぐるみで緑化を進める事が今後益々困難になる予想される。住民等参加の促進方法について検討が必要である。				
	良好な景観の維持のため、屋外広告物許可制度に基づく規制、違反広告物の撤去とともに、設置者へ許可制度の周知を図ります。		都市計画課	許可申請については更新手続きが必要であるが、定期的な点検を行い、更新漏れがある事業者に対しては、再度、更新を促す通知を送付している。また、違反広告物については定期的な撤去を行い年々件数は減少している。しかし、屋外広告物許可制度の存在を知らない業者も多く、今後も引き続き周知が必要である。				○	●屋外広告物許可制度の存在を知らない業者も多いため、今後も引き続き周知を行い、良好な景観の維持に努める。				
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】													

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●町のシンボルマークである駕与丁公園が町民の憩いと自然のふれあいの場として長年利用されている。 ●駕与丁公園の園路が約4.2km(10周でフルマラソン)と近隣の公園と差別化が出来ており、町内外から、ウォーキングやランニング場としての知名度が高い。 ●駕与丁公園のバラ園を始め、公共施設等でバラを鑑賞できることから、身近に潤いある暮らしを感じることができる。
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●町の主な観光資源は駕与丁公園だけである。 ●住民一人当たりの都市公園面積は、県平均より大きいが、駕与丁公園に負うところが大きく、身近に公園がない地域もある。 ●地域コミュニティの希薄化が進んでおり、緑化に対する地域住民の参加が減少している。
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」(Park-PFI)を活用して、公園を再生する自治体が増えている。 ●全世界的にGXが推進されるなど、環境に対する住民の意識が高まっている。 ●国土交通省により「グリーンインフラ推進戦略2023」(社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるグリーンインフラに関する取組)が発表された。 ●日本が成熟社会を迎えるなか、経済成長一辺倒ではなく、良好で自然豊かな環境で健康的な暮らしができる社会が求められるようになってきている。
	Threats (脅威となる社会潮流)	●世界的にもSDGsやESG投資が注目され、資金の調達が出来ない行政は、グリーンインフラの整備において企業に遅れをとっている。 ●人件費の上昇や資材価格の高騰により、施設管理にかかる費用が年々増加している。
	●施策の満足度：緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造 加重平均値 0.38 29施策順位 3位/29施策	●施策の重要度：緑と水辺に囲まれた潤いある暮らしの創造 重要度回答率 28.9% 29施策順位 14位/29施策
町民意識調査結果(R6)	どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答 凡例 全体(N=1,055) (10) 緑と水辺に囲まれた潤いのある暮らしの創造 【公園・緑地】粕屋町では、憩いや交流の場として公園が活用されていると思いますか。 ■そう思う ■ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない ■どちらともいえない □無回答 全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100% そう思う 計 57.2 そう思わない 計 24.0	 ○憩いや交流としての公園が活用されていると「ややそう思う」方が40.5%と最も多く、「そう思う」とあわせ、57.2%の方が「そう思う」と回答しています。一方、「そう思わない」(「そう思わない」+「あまりそう思わない」)方は24.0%となっています。
議会や住民の声	●駕与丁公園の利用形態が多様化している為、利用者間でのトラブルが多い。 ●駕与丁公園は町のシンボルマークである為、様々な立場の方から多くの意見・要望(カフェ・売店設置・にぎわいづくり・駐車場有料化・水鳥橋の再築)が寄せられる。 ●公園施設での樹木剪定や草刈りの要望が年々増加している。	
外部評価	重点プロジェクト 魅力・誇り向上	令和4年度から10年間に及ぶ駕与丁公園の公園施設の再生事業を開始されてたほか、社会実験をもとにしたキッチンカーのイベントや3年ぶりとなるバラ祭りの開催など、施策実現への取組や進捗、内部評価の妥当性について、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」、「概ね適切」と評価しており、現状の把握や課題の認識が正しくなされ、取り組まれていると考えられる。今後駕与丁公園の利用者目線を取り入れた施設整備が求められているほか、更なる魅力向上のため、住民ニーズに応えた新たなイベントや、利用団体や認知度上昇のための情報発信が望まれる。
	取組内容 町のランドマーク(駕与丁公園)のさらなる充実	
	評価対象事業 駕与丁公園魅力向上事業(R4)	

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち		2 安心で快適な生活基盤を備えたまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 52,53ページ】				
基本施策	(1) 安全で快適な道路ネットワークの充実								安全で快適な道路ネットワークの構築による利便性の向上と、歩道を含めた安全・安心な道路環境の整備を進めます。						
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果			
	実感指標	道路が円滑に通行できると思う町民の割合	%	32.9		29.7	35.5	32.5 (実績)				●今後も安全で快適な道路環境を維持するため、道路パトロールによる危険箇所の維持補修や道路改良に努める。			
1. 行政による施策評価															
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化								
	課題 1	道路は、町民の暮らしや産業振興における重要な都市基盤であり、災害時には復旧を迅速に行う緊急輸送道路の役割を果たします。道路の安全性の確保や利便性の向上を図るために、計画的に都市間幹線道路、地域間幹線道路の整備を図り、良好な交通環境をつくる必要があります。						●筑紫野古賀線バイパスの開通により、長年悩まされていた門松交差点の渋滞が解消された。町内には未だ渋滞している道路が多いため、引き続き道路の安全性の確保や利便性の向上を図るために、計画的に都市間幹線道路、地域間幹線道路の整備を図り、良好な交通環境をつくる必要があります。							
	課題 1	長寿命化計画に沿って、道路や橋梁の改良工事を実施するとともに、予防保全の観点から早期に補修工事を実施するなど、計画的な維持管理が必要です。						●粕屋町が管理する道路橋は123橋あり、20年後には93%（114橋）の橋梁が建設後50年を越えることとなるため、計画的な維持管理が必要である。							
	課題 2	交通量の多い本町において、子どもや高齢者が安全に通行できる歩行路に対する町民のニーズは高くなっています。通学路に関して、関係機関と連携し点検を行い、交通安全施設の老朽化している箇所など、危険箇所を解消することが求められています。						●近年、大型車の交通量増加に伴い、道路舗装の老朽化対策や通学路等の安全対策を図るために、道路維持修繕や交通安全対策等に重点を置き、危険箇所を解消していくことが必要である。							
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）				取組意向			
	生活道路における通過交通の減少と交通渋滞の緩和をめざし、周辺都市と連絡する都市間幹線道路網を形成する福岡東環状線などの整備を促進します。	道路環境整備課	●令和5年4月の主要地方道 筑紫野古賀線バイパス（須恵・粕屋2工区）開通により、門松交差点の交通渋滞が解消された。また、都市間幹線道路となる東環状線、粕屋久山線は事業継続中であり、将来完成後には生活道路における通過交通の減少や交通渋滞の緩和が大いに期待できる。				○	●道路整備においては、限られた予算の中で効率的かつ効果的に進めていく必要があります。整備対象路線の選定にあたっては交通量や劣化状況に基づき優先順位を検証し、費用対効果も重視して取り組む必要がある。また、町民が安心して通行できる歩道整備も引き続き積極的に進め、地元行政区をはじめ学校や警察と密に協議を行うことが必要である。				A			
	道路の安全性を確保するため、道路橋梁の定期点検を実施し、長寿命化計画に沿って補修工事を推進します。	道路環境整備課	●令和5年度に橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行った。早急に補修を必要とする橋梁はなかったが、予防保全として橋梁補修を計画的に検討していく必要がある。				○								
	舗装個別施設計画に沿って老朽化した道路舗装を整備し、計画的な道路の維持管理を推進します。	道路環境整備課	●交通量調査や路面性状調査を行い、計画的に道路舗装工事を行った。町内道路は町の発展とともに交通状況の変化や経年劣化などにより、舗装の修繕箇所が年々増え続けている状況である。				○								
	道路パトロール、通学路点検、行政区要望などにより、道路の危険箇所を把握し道路環境の整備を推進します。	道路環境整備課	●道路パトロールによる危険箇所の把握や住民からのLINE損傷報告に対して、迅速に補修工事を行い、安全な道路環境が保たれている。また、通学路合同点検や行政区要望に基づき交通安全施設の整備を実施した。				○								
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】															

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●国道201号、福岡都市高速道路粕屋線、九州自動車道が走る交通利便性が高い町で博多駅、福岡空港、福岡インターまでのアクセスがスムーズである。																					
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●福岡都市圏に位置しており交通の利便性が高く通過交通が多く、道路舗装の劣化が早いことや反射鏡、防護柵への損傷報告が多い。																					
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●点検作業や補修工事において、積極的な新技術の活用が国から求められている。																					
	Threats (脅威となる社会潮流)	●年々、地元から寄せられる要望は増加しており、内容も多種多様である。																					
●施策の満足度：安全で快適な道路ネットワークの充実		●施策の重要度：安全で快適な道路ネットワークの充実																					
町民意識調査結果(R6)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-0.19</td> <td>29位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.9</td> <td>18.0</td> <td>42.1</td> <td>18.4</td> <td>11.6</td> <td>7.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(11) 安全で快適な道路ネットワークの充実</p>		加重平均値	29施策順位	-0.19	29位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.9	18.0	42.1	18.4	11.6	7.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53.2%</td> <td>4位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>	重要度回答率	29施策順位	53.2%	4位/29施策
加重平均値	29施策順位																						
-0.19	29位/29施策																						
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																		
2.9	18.0	42.1	18.4	11.6	7.0																		
重要度回答率	29施策順位																						
53.2%	4位/29施策																						
<p>【道路】粕屋町では、円滑に車で通行できる道路網が整備されていると思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>■どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>そう思う 計</th> <th>そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.6</td> <td>25.9</td> <td>30.1</td> <td>22.4</td> <td>13.9</td> <td>1.0</td> <td>32.5</td> <td>52.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○粕屋町では、円滑に車で通行できる道路網が整備されていると「あまりそう思わない」方が30.1%と最も高く、「そう思わない」とあわせ52.5%の方が『そう思わない』と回答しています。一方、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)方は32.5%となっています。</p> </div>		■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計	6.6	25.9	30.1	22.4	13.9	1.0	32.5	52.5							
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計																	
6.6	25.9	30.1	22.4	13.9	1.0	32.5	52.5																
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> ●議会から歩道設置、歩道のバリアフリー化の声が聞かれる。 																						

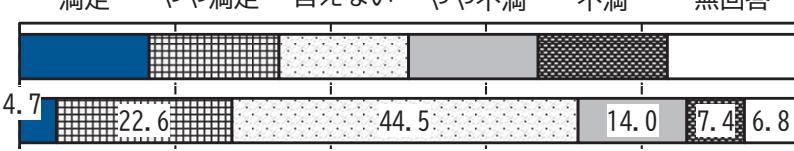
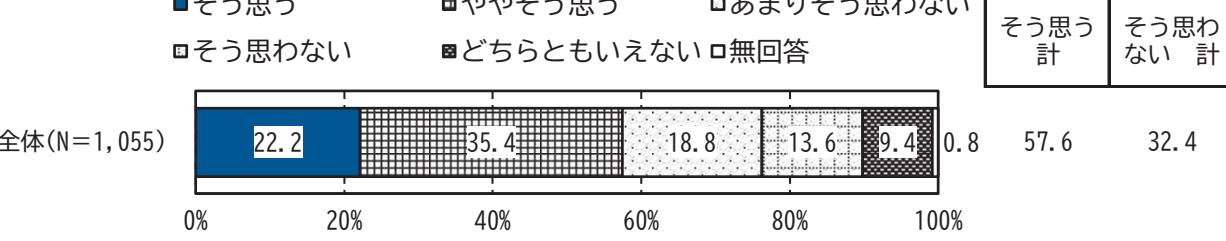
第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち							2 安心で快適な生活基盤を備えたまちづくり				【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 54,55ページ】	
基本施策	(2) 安心で快適な生活を支える交通環境の創造											駅周辺の環境整備をはじめ、利便性の高い交通環境を整備するとともに、誰もが安全で利便性の高い公共交通の充実を図ります。	重点プロジェクト 安全・安心 (地域公共交通の充実)
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	公共交通を利用しやすいと思う町民の割合	%	61.7		59.8	58.1		57.6 (実績)				●JRの利用者数が増加していることから、指標は達成する見込み。
	客観指標	鉄道の延べ利用者数	人/日	12,700	11,000	11,900	12,900	11.1%	13,700 (見込)	14,500	14,500	A	●新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、コロナ前と同等まで利用者が戻ってきており、今後も増加が予想される。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題	進捗評価	第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				取組意向		
		現状の取組状況及び成果・課題		第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)						
	都市計画課	●令和6年度に交通事業者と包括連携協定を締結し、駅周辺の利便性向上や環境改善の検討を進めるため、定期的な勉強会を開催している。今後は、具体的な施策の検討を進めていく。	○	●長者原駅については、誰もが安心して利用できる交通拠点の形成を目指し、駅前ロータリー拡幅、シェルター及びデジタルサイネージなどハード面の整備が完了した。今後は、長者原駅に整備したデジタルサイネージを活かし、有益な情報発信を行うなど付加価値を付けることで、「誰もが安心して”利用したくなる”交通拠点」を目指す。				A		
	都市計画課	●長者原駅については、駅前ロータリーの拡幅及びシェルターの整備により、キスアンドストライドしやすくなった。粕屋町の観光資源である駕与丁公園へのルート案内板の設置や道路改良により、歩行者がわかりやすい駅から公園までの環境整備を行った。	○	●長者原駅と酒殿駅の環境整備が終了したことから、他の駅の環境整備を検討する必要がある。						
	都市計画課	●駐輪場や駅前トイレ、シェルターの整備を行い、キスアンドストライドや鉄道とふれあいバスとの相互乗り換えが行いやすい環境整備を行った。	○	●高齢者や障がい者等が安全に移動できるように駅構内のバリアフリーを進めよう。						
	都市計画課	●移動手段を持たない交通弱者が安心して生活できるよう、公共交通空白地の発生を防ぐとともに、交通事業者などと連携し将来にわたり安定的な公共交通の確保を図り、利便性の向上を進めます。	○	●交通結節点となる鉄道駅までの町内巡回バスなど新たな二次交通については、調査・検証をおこない方向性が決まったため、今後は実証運行やその後の運行をとおして、粕屋町に合った運行形態を導入し、より利用しやすいようにバージョンアップをしていく必要がある。						
	都市計画課	●町民の生活交通手段を持続的に確保するために、ふれあいバスを取り巻く現状の分析や利用者ニーズを把握し、課題やサービス改善策を検討し、さらなる利便性向上となり得る新たなコミュニティ交通の導入の検証を行った。今後は、導入に向け実証運行を行い、粕屋町に合った運行形態へと進化させていく必要がある。	○							
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】									

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●鉄道駅が6つあり二つの路線に乗り換えることができる駅もある。長者原駅から博多駅まで10分程度で届き、福岡空港へは、博多駅で地下鉄に乗り換えるだけで行ける充実した交通ネットワークがある。							
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●国道201号、県道607号、県道24号、県道35号、JR福北ゆたか線、香椎線などが横縦断し通過交通が多く、朝夕の渋滞が多い。 ●バリアフリー化されていない駅がある。							
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●スマートフォンで利用できるチャリチャリ（自転車）やループ（電動モビリティ）などのシェア型コンテンツが普及しており、粕屋町にも進出してきている。 ●タクシー不足解消のためライドシェアが福岡都市圏でも導入された。 ●MaaS（移動を単なる手段としてなく、利用者に一元的なサービスとして捉える新たな移動の概念）のスマートフォンアプリ（my route）が福岡県で導入された。							
	Threats (脅威となる社会潮流)	●赤字や運転手不足の影響で、路線バスの減便が発生する事例が見られる。 ●高齢化率の増加により、高齢者の運転免許の返納が増加している。 ●ネットショッピング等による物流の増加に伴い、通過交通が増大し、さらなる渋滞が懸念される。							
	●施策の満足度：安全で快適な生活を支える交通環境の創造 <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.03</td> <td>28位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答  凡例 全体(N=1,055) (12) 安全で快適な生活を支える交通環境の創造 4.7 22.6 44.5 14.0 7.4 6.8	加重平均値	29施策順位	0.03	28位/29施策	●施策の重要度：安全で快適な生活を支える交通環境の創造 <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47.1%</td> <td>7位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>	重要度回答率	29施策順位	47.1%
加重平均値	29施策順位								
0.03	28位/29施策								
重要度回答率	29施策順位								
47.1%	7位/29施策								
町民意識調査結果(R6)	【交通】粕屋町では、公共交通を利用しやすいと思いますか。  全体(N=1,055) 22.2 35.4 18.8 13.6 9.4 0.8 57.6 32.4	○公共交通を利用しやすいと「ややそう思う」が35.4%と最も高くなっています。「そう思う」とあわせ、57.6%の方が「そう思う」と回答しています。一方、「そう思わない」（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方は32.4%となっています。							
議会や住民の声	●ふれあいバスの便数増加や路線拡大などの利便性向上を求める声が多い。 ●駅のバリアフリー化を求められている。								

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち				2 安心で快適な生活基盤を備えたまちづくり						【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 56,57ページ】		
基本施策	(3) 安全で安心な水源の確保と水環境の基盤強化						安全で安心な生活環境を支える上下水道の基盤を維持するとともに、大規模な風水害に備えた道路側溝及び河川の整備などの浸水対策に取り組みます。						
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
実感指標	いつでも安心して水を利用できると思う町民の割合	%	78.6		80.4	81.1		74.8 (実績)				●数値は高水準を保っており、安心して水道を利用できる環境である。	
客観指標	有収率	%	95.2	97.4	96.8	95.8	100.0%	95.1 (見込)	95.8	95.0	超過	●令和6年度見込みでは、大きな火災による無収水量の増により有収率は前年比で減少すると見込んでいる。令和7年度は回復し、令和5年度実績値程度になると予測される。	
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題1	安全で安定した水の供給や衛生的な下水道環境を維持するため、計画的な管路や機器の更新、老朽化する水道施設の維持管理が必要です。					●昭和40年代後半以降より整備された管路が、毎年耐用年数を迎えており、老朽管が増加していく。水道水の安定供給の為、老朽管の更新を行うとともに、水道管の耐震化を行う必要がある。下水道においても、供用開始から30年が経過しており、老朽化対策や耐震化対策が必要である。						
	課題2	道路パトロールによって河川や道路側溝などの現状を把握し、雨天時の行動をマニュアル化とともに、他の部局と連携しながら浸水対策を進めることができます。					●近年のゲリラ豪雨により、一時的な道路冠水が発生している状況である。冠水箇所周辺の道路側溝や水路の堆積状況を定期的に確認し、計画的な浚渫や草刈りを行う必要がある。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向		
	水道施設と配水管などの適切な管理・点検により、安定した水道の供給を推進します。	上下水道課	●配水管基幹管路の更新工事に取組み、合わせて耐震化を行った。 ●粕屋町内をエリア分けし、毎年1エリアの漏水調査を行っている。			○	●漏水調査の結果、漏水箇所については早急に修繕を行い、また、状況に応じて更新等も検討する。				A		
	下水道管の適切な維持管理のため、ストックマネジメント計画に基づいた管理及び点検を推進します。	上下水道課	●国の交付金を活用するため、補助要件の確認を行った。今後はストックマネジメント計画の策定を行い、ロードマップを定め、計画的な管理を進めていく。			△	●今後下水道の安定した経営を実施していくため、ストックマネジメント計画策定を行い、結果を踏まえて管路更新等を計画的に行っていく必要がある。 ●準用河川において維持管理計画を策定し、計画的な草刈りや浚渫を実施していく。日々良川及び須恵川の浚渫等については引き続き福岡県土整備事務所へ強く要望していく。						
	豪雨による浸水被害の軽減に向け、道路側溝などの施設の適切な維持管理を進めるとともに、河川の浚渫や災害時に備え、水害対策資材の確保などに取り組みます。	道路環境整備課	●準用河川、道路側溝の浚渫及び護岸工事を実施した。 ●地元行政区へ土嚢の配布を行っている。			△							
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】												

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●粕屋町は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口において、今後も人口増加が見込まれており、安定した収益が見込まれる。 ●道路冠水箇所が少ない。															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●粕屋町を含む福岡都市圏には一級河川がなく、水道水の約1/3を筑後川に頼っている。 ●水路・側溝の老朽化															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●上水道は昭和40年代、下水道は昭和60年代から整備され、普及率は飛躍的に上がったが、40年以上経過した施設では、老朽化が顕著になってきている。 ●他自治体では学校の運動場を活用した調整池を設置している。															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●世界情勢等の変化に伴い、物価高騰や人件費が上昇しており、施設や設備等の更新や維持管理の費用が増加傾向にある。 ●近年、地域による美化作業範囲が減少し、町で行う浚渫や草刈り業務が増加している。															
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：安全で安心な水源確保、水環境の基盤強化																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.44</td> <td>1位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (13) 安全で安心な水源の確保と水環境の基盤強化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9.8</td> <td>29.2</td> <td>48.7</td> <td>3.9</td> <td>1.7</td> <td>6.7</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.44	1位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	9.8	29.2	48.7	3.9	1.7
加重平均値	29施策順位																
0.44	1位/29施策																
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答												
9.8	29.2	48.7	3.9	1.7	6.7												
議会や住民の声	●施策の重要度：安全で安心な水源確保、水環境の基盤強化																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35.4%</td> <td>11位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>【水道】粕屋町では、いつでも安心して水を利用できると思いますか。</p> <p>■そう思う □ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない □どちらともいえない □無回答</p> <p>全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.8</td> <td>74.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>○いつでも安心して水を利用できると「ややそう思う」方が38.0%と最も多く、「そう思う」とあわせ74.8%の方が「そう思う」と回答しています。一方、「そう思わない」（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方は12.4%となっています。</p>		重要度回答率	29施策順位	35.4%	11位/29施策	そう思う	そう思わない	36.8	74.8							
重要度回答率	29施策順位																
35.4%	11位/29施策																
そう思う	そう思わない																
36.8	74.8																

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち					3 自然にやさしく住みよい環境のまちづくり					【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 58,59ページ】		
基本施策	(1) 次世代に継承する自然環境の保全 かけがえのない自然環境を次世代に継承するため、良好な生活環境づくりを推進します。												
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価		
	実感指標	自然を大切にすることを心がけている町民の割合	%	83.2		86.0	85.0	80.0 (実績)		↑			
●高い水準で維持しているため、今後も取組を進めていく。													
客観指標	環境美化活動の延べ参加者数	人/年	11,083	3,013	9,625	7,445	62.0%	9,000 (見込)	12,000	12,000	A		
	●環境美化作業は実施日の天候に左右される傾向があり、令和5年度は雨天中止が多かったため前年に比べて参加者数が少なかった。概ね春と秋に実施されているが、近年では参加者が多く見込まれる日程で実施日を決める行政区が増えている。												
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題 1	森林の豊かな緑と水源のかん養の役割を維持するため、間伐など森林の適正な保全・管理が必要です。					●森林環境譲与税を活用し、木製品の設置や公共施設の木質化等により、町民が木に触れ合う機会の創出を図っている。						
	課題 2	町の生活環境を保全するため、町民の環境美化への意識を高め、環境美化作業への参加を促進することが必要です。					●環境美化作業は実施日の天候に左右される傾向がある。各行政区によって実施日が異なるため、広報啓発等は実施しておらず、毎年、区長会にて啓発し、各行政区で実施日を決めてもらっている。他市町では日程を統一した一斉清掃等を実施しているところもあり、統一日なので啓発しやすいというメリットがある。						
	課題 2	公害の発生を未然に防止するため、公害の発生個所や事業所などへの監視の強化が必要です。					●公害原因事業者（騒音、異臭等）に対しては訪問し改善指導を実施しているが、周辺の生活環境に対しての理解があり協力的な印象がある。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 継続して実施 B : 取組方法を改善 C : 継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）				取組意向		
	森林の保全と土砂災害防止のため、福岡県森林環境税に基づく荒廃森林整備事業により保安林などの間伐を実施し、国の森林環境譲与税に基づく木製品の展示や公共施設の木質化を推進します。	地域振興課	●森林の保全と土砂災害防止のため、荒廃森林整備事業を活用し、間伐を実施している。また、森林環境譲与税を活用し、公共施設の木質化にも取り組んでいる。				○	●環境美化活動：現行計画と同様に生活環境の保全及び町民の環境美化への意識を高めることに資するため、引き続き事業継続の必要性がある。課題：従来、各地域で草刈等を実施していた箇所（区の所有地や組合管理地等）について、高齢化等を理由に町への草刈依頼が増えている。 ●ペットの適正飼育等の啓発：現行計画と同様に環境マナー向上のため、引き続き事業継続の必要性がある。 ●公害防止のための取組：現行計画と同様に公害の防止のため、引き続き事業継続の必要性がある。 ●森林保全及び土砂災害防止のための取組：引き続き、定期的な保安林の間伐が必要である。国の森林環境譲与税を活用した木製品の設置や公共施設の木質化を推進していく。					A
	地域活動団体などによる環境美化活動を支援するとともに、定期巡回による草刈の実施などに取り組みます。	道路環境整備課	●行政区による環境美化作業等の活動支援のため、令和6年度から環境美化使用車両への補助金を拡大した。定期巡回により町道沿いの計画的な草刈の実施を行っている。併せて、地域住民や行政区による草刈要望についても、速やかに草刈を実施し生活環境の保全に努めている。 ●従来、各地域で草刈等を実施していた箇所（区の所有地や組合管理地等）について、高齢化等を理由に町への草刈相談・依頼が増えている。				○						
	ペットなどの不適行為に関する啓発を行い、環境マナーの向上を図ります。	道路環境整備課	●毎年広報誌への啓発記事を掲載している。苦情等が寄せられた際は、現地を確認し立て看板の設置を行い、マナー改善に向けた啓発をしている。				○	●森林保全及び土砂災害防止のための取組：引き続き、定期的な保安林の間伐が必要である。国の森林環境譲与税を活用した木製品の設置や公共施設の木質化を推進していく。					
	公害のない住みよいまちづくりのため、大気汚染、騒音、悪臭などの公害を監視し、発生源となる事業者に改善指導を行うなど、公害の防止に取り組みます。	道路環境整備課	●公害の発生源となる事業者などに対して改善指導を行なった。公害を未然に防止するため事業者に対しての啓発方法について検討する必要がある。				○						
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】												

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●他自治体では一斉清掃日のように期日を指定して清掃活動が実施されているところもあるが、当町は各行政区にて参加者を多く見込める日程で計画を立てて実施されているため、地域主体での活動がされている点が強み。 ●クリーンパークで受け入れできないせん定枝や刈草等を、環境美化集積所にて無料で受け入れているが、これは他町にはないものである。 ●福岡都市近郊の立地ながら、多くの森林が存在する緑豊かな町である。															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●環境美化作業について、概ね春と秋に実施されているが、実施日が統一されていないため啓発告知等で日時を一斉に広報できない。一方で統一日で実施している自治体は期日等を広報でき、より多くの住民へ啓発できる。 ●保安林の所有者が個人であるため、土砂災害等が起きた際には迅速な対応が遅れる可能性がある。															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●柏屋町森林整備計画（令和7年～17年）を令和7年3月に策定予定である。															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●環境美化作業について、実施予定日の天候不良により作業できなかった場合に、あらかじめ借上げされているレンタカー費用も補助金の適用を求められている。 ●従来、各地域で草刈等を実施していた箇所について、高齢化等を理由に町への草刈相談・依頼が増えている。															
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：次代に継承する自然環境の保全																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.23</td> <td>9位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.8</td> <td>20.5</td> <td>63.2</td> <td>3.9</td> <td>1.4</td> <td>7.2</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.23	9位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	3.8	20.5	63.2	3.9	1.4
加重平均値	29施策順位																
0.23	9位/29施策																
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答												
3.8	20.5	63.2	3.9	1.4	7.2												
議会や住民の声	●施策の重要度：次代に継承する自然環境の保全強化																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.7%</td> <td>27位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>○自然を大切にすることを「少し心がけている」方が45.7%と最も高く、「心がけている」とあわせ、80.0%の方が『心がけている』と回答しています。一方、『心がけていない』（「心がけていない」+「あまり心がけていない」）方は7.5%となっています。</p>		重要度回答率	29施策順位	12.7%	27位/29施策											
重要度回答率	29施策順位																
12.7%	27位/29施策																
●環境美化作業について、実施予定日の天候不良により作業できなかった場合に、あらかじめ借上げされているレンタカー費用も補助金の適用を求められている。現状は作業実施の実績がない場合は補助金交付対象としていない。																	
●森林環境譲与税の使途については、議会からも注視されている。																	

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち					3 自然にやさしく住みよい環境のまちづくり					【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 60,61ページ】				
基本施策	(2) 環境負荷の少ない循環型社会の創造					環境負荷の少ない低炭素・循環型社会をめざし、町民一人ひとりの環境問題への関心を高めるとともに、町民や事業者の自主的な取組を促進します。									
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果		
	実感指標	リサイクルを心がけている町民の割合	%	83.6		87.4	88.7		83.4 (実績)			▲	●古紙回収等奨励金やリサイクルボックスの利用促進等の啓発を継続していく必要がある。		
1. 行政による施策評価															
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化								
	課題1	持続可能な社会に向けたSDGsの推進など、地球規模での環境問題への意識が高まる中、循環型社会に向けたさらなる取組が求められています。					●ゼロカーボンシティかすや達成のため、策定した実行計画に沿って毎年の温室効果ガス排出量調査等を実施し公表していく。次期計画ではゼロカーボンシティかすや実現のための施策追加が必要と考えられる(EV充電スタンド設置、公用車EV化、公共施設等への太陽光発電設備等の設置等)。								
	課題1	資源を有効に活用し、環境負荷をかけない社会をつくるため、ごみの減量化やリサイクルのほか、プラスチックごみ削減、食品ロス削減に向けた取組が求められています。					●資源の有効活用、環境負荷の少ない社会を目指すことは、ゼロカーボンシティ達成のために引き続き掲げる必要がある。プラごみ削減については、具体的な収集・処分方法を検討する必要がある。食品ロス削減については、事業者や消費者双方を紐づけて施策を実施する必要がある。次期計画ではプラごみの分別収集にも言及が必要と考えられる。								
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)							
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価		第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向			
	プラスチックごみ削減の取組として、マイバッグを配布し、レジ袋削減及び買い物袋の持参を促進します。	道路環境整備課	●以前は福岡都市圏環境行政推進協議会の施策でマイバッグ等の啓発物の支給があったが、令和5年度以降はないため、配布していない。単費で実施するかは検討が必要。全国的にもプラごみ分別収集が進んでいる状況で、一部事務組合全体で取組方法の検討が課題である。また、施設側の体制整備も必要である。					○	●ゼロカーボンシティかすや実現のため、当該施策は次期計画にも引き続き継続する必要がある。次期計画ではゼロカーボンシティかすや実現のための施策追加が必要と考えられる(EV充電スタンド設置、公用車EV化、公共施設等への太陽光発電設備等の設置等)。 課題①:全国的にもプラごみ分別収集が進んでいる状況で、一部事務組合全体でどのように取り組むかが課題である。また、施設側の体制整備も必要である。 課題②:町の不燃ごみ収集実態と、地元組合管理の不燃ごみステーション運用が異なるため、実質ごみ出しができない地域がある(本来月2回収集のところ月1回等)。これが広報内容と実態が異なっているため苦情の原因となっている。また、各行政区や組合で行ってもらっているごみ置き場等の管理について、清掃や分別等の負担が大きく扱い手の問題も含め相談が増加している。				B		
	リサイクル置場の利用促進や食品ロス削減への啓発を行い、ごみ減量化への取組を推進します。	道路環境整備課	●年々ごみ排出量は減少傾向にある。目標達成のため、引き続き、リサイクルボックスの利用促進や食品ロス削減への啓発を継続する必要がある。					○							
	適切なごみの分別や減量を進めるため、町民や事業所に対する啓発を行います。	道路環境整備課	●年々ごみ排出量は減少傾向にある。目標達成のため、引き続き、ごみ分別や減量推進の啓発を継続する必要がある。町の不燃ごみ収集実態と、地元組合管理の不燃ごみステーション運用が異なるため、実質ごみ出しができない地域がある(本来月2回収集のところ月1回等)。これが広報内容と実態が異なっているため苦情の原因となっている。また、各行政区や組合で行ってもらっているごみ置き場等の管理について、清掃や分別等の負担が大きく扱い手の問題も含め相談が増加している。					○							
	次期のごみ処理施設稼働に適応した分別や収集体系について検討します。	道路環境整備課	●次期処理施設への要望書を提出しており、担当者会等を通じて検討している。今回は可燃ごみについての処理施設を更新するため、それ以外のごみの処理方法は変わらない。国や県ではプラごみの分別収集や再商品化の動きがある中、一部事務組合全体で取組み方法の検討が課題である。また、施設側の体制整備も必要である。					△							
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●次期計画ではゼロカーボンシティかすや実現のための施策追加が必要と考えられる(EV充電スタンド設置、公用車EV化、公共施設等への太陽光発電設備等の設置等)。プラごみの分別収集・再商品化の検討。												

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策として、公用車EV化は近隣自治体に比べて導入率が高い。（柏屋町：10%） ●クリーンパークで受け入れできないせん定枝や刈草等を、環境美化集積所にて無料で受け入れているが、これは他町にはないものである。 																																		
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策の住民へのセミナーや補助金等の施策ができておらず、検討が必要。 ●クリーンパークが可燃ごみについての処理施設を燃焼施設として更新することで、将来的にせん定枝や刈草等をその他の可燃ごみ同様有料で受け入れることになる見込み。 ●全国的にもプラごみ分別収集が進んでいる状況で、一部事務組合全体で取組方法の検討が課題である。また、施設側の体制整備も必要である。 																																		
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年法律第60号プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック新法）の施行及び国のプラスチック資源循環戦略は、本施策のプラスチックごみ削減における機会と考えられる。 ●プラごみ分別収集については、宇美町、志免町では既に実施されており、古賀市、新宮町は令和14年度以降施設更新にあわせて検討すること。柏屋町としても、須恵町、篠栗町とともに、今後実施方法を検討する必要がある。 ●各国の政府や企業が取組を進める「脱プラスチック」化については、アメリカやEU諸国をはじめ、チリやバングラデシュ、ケニアやエチオピアなどの国々でも規制が始まっている。また、2040年までに世界全体のプラスチック汚染を解決するための条約である、「国際プラスチック条約」は、2024年の締結を目指して議論が進められている。 																																		
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●法施行や、国の戦略が示されている中、具体的な検討がないことについては、プラごみ分別収集分野における脅威と考えられる。町単位あるいは一部事務組合において、サーキュラーエコノミー（循環経済）をどこまで取り入れるかなど根本的な考え方や方向性を決める必要がある。 ●各行政区や組合で管理しているごみ置き場等の管理について、清掃や分別等の負担が大きく扱い手の問題も含め相談が多い。 ●プラごみ分別収集については、宇美町、志免町では既に実施されており、本町の取組の遅れを感じることから、町の魅力の低下の原因になると考えられる。 																																		
	<p>●施策の満足度：環境負荷の少ない循環型社会の創造</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.27</td> <td>7位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (15) 環境負荷の少ない循環型社会の創造</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.6</td> <td>24.7</td> <td>56.2</td> <td>5.9</td> <td>6.8</td> <td>1.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施策の重要度：環境負荷の少ない循環型社会の創造</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25.3%</td> <td>15位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>【ごみ・美化活動】あなたは、日頃からリサイクルを心がけていますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>心がけている</th> <th>少し心がけている</th> <th>心がけていない</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42.5</td> <td>40.9</td> <td>1.2</td> <td>83.4</td> </tr> <tr> <td>あまり心がけていない</td> <td>心がけていない</td> <td>無回答</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>8.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>○日頃からリサイクル活動を「心がけている」が42.5%と最も多く、「少し心がけている」とあわせ、83.4%の方が「心がけている」と回答しています。一方、「心がけていない」（「心がけていない」+「あまり心がけていない」）方は8.6%となっています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.27	7位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	4.6	24.7	56.2	5.9	6.8	1.7	重要度回答率	29施策順位	25.3%	15位/29施策	心がけている	少し心がけている	心がけていない	計	42.5	40.9	1.2	83.4	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	計	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
加重平均値	29施策順位																																			
0.27	7位/29施策																																			
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																															
4.6	24.7	56.2	5.9	6.8	1.7																															
重要度回答率	29施策順位																																			
25.3%	15位/29施策																																			
心がけている	少し心がけている	心がけていない	計																																	
42.5	40.9	1.2	83.4																																	
あまり心がけていない	心がけていない	無回答	計																																	
どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	8.6																																	
町民意識調査結果 (R6)	<p>●議会から、住民向けの地球温暖化対策に関する補助事業はないのか、また、プラごみの分別収集はどうなっているのかといった声が聞かれる。</p>																																			
議会や 住民の声	<p>●議会から、住民向けの地球温暖化対策に関する補助事業はないのか、また、プラごみの分別収集はどうなっているのかといった声が聞かれる。</p>																																			

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち		4 地域個性を活かした活力ある産業のまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 62,63ページ】	
基本施策	(1) いのちを守り育む食と農の創造											
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	できるだけ地元で採れた食材を利用している町民の割合	%	49.6		47.2	48.1	46.3 (実績)			超過	●おおむね半数の町民が利用していることから、今後も地元農産物の販路拡大を図っていきたい。
客観指標	学校給食における地場農産物の使用量	kg/年	12,020	13,361	13,701	14,077	103.9%	15,500 (見込)	15,500	14,000	超過	●目標値はすでに超えており、学校給食で使用できる地場農産物の使用量は上限に達しつつある。また、農産物は不作など年によって収穫量に変動があるため、地場農産物の使用量ではなく使用割合を指標にすることも今後の検討のひとつと考える。

1. 行政による施策評価

行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化				
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題			第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)		
	課題1 町の農地を保全していくため、農業の担い手の確保や農産物の生産性拡大など持続可能な農業の基盤づくりが必要です。	地域振興課	●農地保全のため、集約化等を推進していく必要があるが、近年の町の実態として都市化及び開発が進んでいるため、基盤づくりは進んでいない状況である。					
	課題2 農業を町の財産として守り、育てるため、町民が地元の農業や農産物にふれ、農業に対する関心や理解を深めることができます。		●農業者以外の町民が野菜や花等を栽培して、自然にふれあうコミュニティの場所を提供し、農業に対する理解を深めることを目的に粕屋町市民農園を設置している。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の取組状況及び成果・課題			第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)		
	優良な農地の確保と保全のため、農地治水などの農業施設の整備や維持管理を推進します。	地域振興課	●農業用ため池の耐震・劣化状況の評価を行い更新工事を行っている。また、地元農区からの要望等にてスライドゲートや転倒堰の改修及び農水路等の維持修繕を行っている。	○				
	農業の担い手の確保及び後継者の育成のため、認定農業者の育成・認定を推進します。	地域振興課	●粕屋町農業経営改善計画認定審査会を設置し、認定農業者の審査を行っている。認定農業者の人数は農地の減少に比例して減少傾向である。	○	●農地治水については、農地の確保と保全のため、引き続き池や井堰等の改修及び維持修繕を行っていく必要がある。	●担い手確保及び後継者の育成については、引き続き認定農業者の確保が必要となってくる。		
	米の需給調整を進めるとともに、ブロッコリーをはじめとした転換作物の作付を推進します。	地域振興課	●県が行う米の需給調整について、転作作物等への転換により目標面積を超過することなく実施している。	○	●米の需給調整については、引き続き目標面積を超過することなく実施していく必要がある。	●ふれあい農園事業については、より多く農業者でない町民が農業に触れ合えるよう、新たな農園の開園が必要となってくる。	A	
	学校給食や保育所給食での地元農産物の供給に努めることにより、子どもたちの地元の食材への関心を高め、地産地消を推進します。	給食センター	●JAかすやで調達できる地域の野菜や果物を使用し、学校給食の食材として大量かつ旬の地場農産物を使用した。また、これらの取組について動画を作成し、給食時間に子どもたちへ発信して地産地消への関心を高めた。	○	●給食センターの地産地消に関する取組を子どもたちだけでなく、保護者や地域の人たちにも知ってもらうための働きかけが必要である。			
	ふれあい農園を管理することで、町民が農業とふれあい、農業に対する理解を深める機会づくりに取り組みます。	地域振興課	●町内3箇所にてふれあい農園を運営しており、令和6年度10月末現在の利用率は98%である。令和6年度9月末に原町農園が閉園したため、新たな農園候補地の選定が必要である。	○				
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】							

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●福岡都市近郊という立地でありながら、多くの農地が存在し緑豊かな町である。 ●粕屋町及び近隣地域では多種の野菜・果物が収穫でき、学校給食における地場農産物の使用に適している。											
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●福岡都市近郊という立地上、都市化が進み、年々農地が減少している状況である。 ●センター方式である粕屋町の学校給食においては、限られた時間内で大量の調理を行わないといけないため、一度に調達される地場農産物の使用量に限度がある。また、供給側にとっても、一度に大量の食材を納入しないといけないため、供給できる量に限度がある。											
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●食料・農業・農村基本法の改正に伴い、食糧自給率の向上及び環境負荷の低減が求められている。											
	Threats (脅威となる社会潮流)	●福岡都市近郊の立地からの都市化及び農業者の高齢化による担い手不足に伴う農地の減少。											
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：いのちを守り育む食と農の創造												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.15</td> <td>17位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p>		加重平均値	29施策順位	0.15	17位/29施策							
加重平均値	29施策順位												
0.15	17位/29施策												
議会や住民の声	●施策の重要度：いのちを守り育む食と農の創造												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18.1%</td> <td>22位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p>		重要度回答率	29施策順位	18.1%	22位/29施策							
重要度回答率	29施策順位												
18.1%	22位/29施策												
議会や住民の声	【農業】あなたは、できるだけ地元で採れた食材を利用していますか。												
	<p>■利用している □あまり利用していない ■どちらともいえない</p> <p>■まあまあ利用している □利用していない □無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用している 計</th> <th>利用していない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.1</td> <td>46.3</td> </tr> <tr> <td>34.2</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>22.2</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>9.1</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>21.9</td> <td>0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>○地元で採れた食材を「まあまあ利用している」方が34.2%と最も多く、「利用している」とあわせ、46.3%の方が『利用している』と回答しています。一方、『利用していない』（「利用していない」+「あまり利用していない」）方は31.3%となっています。</p>		利用している 計	利用していない 計	12.1	46.3	34.2	31.3	22.2	0.5	9.1	0.5	21.9
利用している 計	利用していない 計												
12.1	46.3												
34.2	31.3												
22.2	0.5												
9.1	0.5												
21.9	0.5												

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち			4 地域個性を活かした活力ある産業のまちづくり								【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 64,65ページ】	
基本施策	(2) 地域に活力をもたらす商工業の振興			商工会と連携し、地場産業の活性化を支援するとともに、町の強みを活かした企業立地を進めます。								重点プロジェクト	持続的成長 (地域産業の活性化)
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	地域の商工業が活性化していると思う町民の割合	%	22.8		29.7	35.1		29.6 (実績)		↗		●特に令和3年度から令和5年度にかけて実施した全町民へのエール商品券の配布や、うレシート事業等を商工会と協力して実施したことに伴い、町民が実際に粕屋町で消費する機会が増加したことが要因であると考える。
	客観指標	創業塾・創業セミナーの参加者数	人/年	28	31	42	35	350.0%	41 (見込)	41	30	超過	●創業塾の参加者数は、変動しているものの二、三回はあるため、今後も継続して実施する必要があると考える。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化									
	課題1	社会経済情勢が大きく変化する中、町内の中小企業・小規模事業者の経営状況は厳しさを増しており、新たな地場産業の活性化に向けた経営支援・技術支援が必要です。			●新たな地場産業の活性化に向けた経営支援・技術支援が必要であるが、経営支援・技術支援は、主として商工会が実施しているため、町としては各種支援制度の周知を実施している。								
	課題1	粕屋町の魅力を高め、町内外に発信する方策として、地域資源を活用した町のブランド品の開発とPR・販路拡大が求められています。			●新型コロナウイルスの蔓延により、事業自体が停滞していたが、商工会の商工活性化委員会「あすなろ」で廃棄バラを利用してバラのアクセサリーを作成し、令和6年のバラまつりや商工祭や町村フェアで販売したことでのブランド化の足がかりができたと考える。今後は、ブランド化についての定義や販路拡大の展開に対する検討が必要であると考える。								
	課題2	町内の安定した雇用を維持・拡大するため、新たな企業立地の促進や起業の支援が必要です。			●企業を誘致する“土地”的確保に向けては、土地区画整理事業や開発によるまちづくり計画が進んでいるが、諸手続きで数年単位の時間がかかる。諸手続きの時間短縮は難しいが、土地区画整理事業や開発によるまちづくり計画の件数を増やすためには、町としての支援が今まで以上に必要である。								
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
	商工業の活性化に向けて、商工会などの関係機関と連携を強化し、技術革新や事業承継が進むよう、各種支援制度を周知するなど中小企業・小規模企業者の支援に取り組みます。	地域振興課	●粕屋町商工会と連携し、プレミアム付商品券発行事業の事業規模の拡大等により地域経済の活性化を図った。 ●創業支援事業計画に基づき、創業・起業を目指す人のために、創業塾等を通じた創業の支援を実施した。 ●今後4町と4商工会での創業支援を強化し、創業者を増加させる必要がある。 ●長期化する電力・ガス・食料品等の価格高騰に伴い、継続して苦慮している町内業者の下支えを行う必要がある。				○	●中小企業・小規模企業者については、継続実施することが必要だと考える。				B	
	将来にわたり安定した自治体経営、新たな雇用の場の創出及び地域経済の活性化のため、町の充実した交通ネットワークなどの強みを活かし、企業立地に向けた取組を進めます。	都市計画課	●立地希望の問い合わせに対し、土地区画整理事業の計画等の情報提供を行っている。 ●九州経済調査協会の賛助会に加入し、セミナー参加や情報収集を行った。 ●福岡県企業立地セミナー in 東京において、福岡県や県内各市町村と連携し、関東の企業に企業立地に向けたアピールを行っている。しかし、粕屋町を知っている企業は少なく、「粕屋町はどのようなところなのか」から説明しなければならない。				○	●地域特産品の開発等については、協働のまちづくり課やシティプロモーション部局との協議の上、取組内容の改善が必要だと考える。 ●企業誘致を行うために、都市計画手続きによる規制の変更や誘致できる場所の紹介は行なうことは出来るが、まずは「粕屋町」を知ってもらい、興味を持つもらうことが必要であり、そのためにもシティープロモーション部局との連携は必須である。					
	地域特産品の開発を進めるとともに、町の魅力を発信できるブランド商品として、ふるさと納税などへの活用により、情報発信を進めます。	地域振興課	●新型コロナウイルスの蔓延により、事業自体が停滞していたが、商工会の商工活性化委員会「あすなろ」で廃棄バラを利用してバラのアクセサリーを作成し、令和6年度開催のバラまつりや商工まつりや町村フェアで販売したことでのブランド化の足がかりにつながっていると考える。				○						
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】												

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●柏屋町商工会と連携して、各事業に取り組むことができている。 ●福岡市に隣接し、福岡空港や博多港が近く、町内には九州自動車道や都市高速道路の出入口があり、交通利便性がとても良い。 ●市街化調整区域内には都市化していない土地が多い。																	
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●ブランド商品については、町の魅力を発信できる商品の発見には至っていない。 ●柏屋町の知名度が低く、場所やどのようなところか知られていない。																	
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、経済活動が活性化されてきている。 ●福岡都市圏内において物流施設の需要が多く、また、データセンターの地方への分散が見込まれている。																	
	Threats (脅威となる社会潮流)	●日本全国で長期化する電力・ガス・食料品等の価格高騰に伴い、苦慮している住民が存在している。 ●柏屋町の地価の上昇や資材の高騰により、進出控えなどが懸念される。																	
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：地域に活力をもたらす商工業の振興																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.14</td> <td>21位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例 全体(N=1,055)</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興</td> <td>2.7</td> <td>18.0</td> <td>63.6</td> <td>6.4</td> <td>2.0</td> <td>7.3</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.14	21位/29施策	凡例 全体(N=1,055)	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興	2.7	18.0	63.6	6.4	2.0
加重平均値	29施策順位																		
0.14	21位/29施策																		
凡例 全体(N=1,055)	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答													
(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興	2.7	18.0	63.6	6.4	2.0	7.3													
議会や住民の声	●施策の重要度：地域に活力をもたらす商工業の振興																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13.4%</td> <td>26位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>凡例 全体(N=1,055)</th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興</td> <td>2.7</td> <td>18.0</td> <td>63.6</td> <td>6.4</td> <td>2.0</td> <td>7.3</td> </tr> </tbody> </table>		重要度回答率	29施策順位	13.4%	26位/29施策	凡例 全体(N=1,055)	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興	2.7	18.0	63.6	6.4	2.0
重要度回答率	29施策順位																		
13.4%	26位/29施策																		
凡例 全体(N=1,055)	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答													
(17) 地域に活力をもたらす商工業の振興	2.7	18.0	63.6	6.4	2.0	7.3													
外部評価	【商工業】柏屋町では、商工業が活性化していると思いますか。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>■どう思わない</th> <th>□どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>そう思う計</th> <th>そう思わない計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.6</td> <td>26.0</td> <td>25.2</td> <td>9.9</td> <td>34.2</td> <td>1.1</td> <td>29.6</td> <td>35.1</td> </tr> </tbody> </table>		■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思わない	□どちらともいえない	□無回答	そう思う計	そう思わない計	3.6	26.0	25.2	9.9	34.2	1.1	29.6	35.1	
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どう思わない	□どちらともいえない	□無回答	そう思う計	そう思わない計												
3.6	26.0	25.2	9.9	34.2	1.1	29.6	35.1												
<p>○柏屋町では、商工業が活性化していると思うかについて、「どちらともいえない」方が34.2%と最も高くなっています。 ○商工業が活性化していると「そう思わない」（そう思わない+あまりそう思わない）方が35.1%となり、「そう思う」（「そう思う」+「ややそう思う」）方が29.6%を上回っています。</p>																			
議会や住民の声	●町の税収向上や、雇用確保のため企業誘致を積極的に行うべき意見がある。																		
	重点プロジェクト	持続的成長																	
	取組内容	地域産業の活性化																	
評価対象事業	○地域振興事業 令和3年度は地方創生臨時交付金を活用したプレミアム付商品券の発行を実施され、施策実現への取組については半数以上の委員が「着実に取組まれており評価できる」と評価した。創業支援に関しては商工会とタイアップして町の事業者との意見交換等の機会などがあればなお良いとした意見があった。施策実現への進捗について、「スピードが遅い」を選択した委員の意見としては、セミナー受講者のうち起業する方が少ないとしたものの、創業塾については、無料ではなく、受講料を徴収し、受講後のアフターフォローなど検討してはどうかとの意見があった。																		
	○企業立地対策事業 施策実現への取り組みや進捗について、「改善の余地がある」、「不十分である」または「スピードが遅い」とした意見の中には、セミナーへの参加や書籍による情報収集だけでなく、企業への積極的なアプローチ、道路を主とした交通状況や企業のニーズの把握などを求めるものであった。今回の事業内容の説明においては、クリエイティブ産業等のセミナーに参加したとの説明があったが、本来の企業立地対策事業の取り組みからは、随分と離れている印象があった。すぐに結果のない大きな課題ではあるが、ゼロカーボン企業の誘致など、もっと積極的にアピールし、実績をあげられるよう取り組んでいただきたい。																		

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち				1 誰もが健康で暮らせるまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 66,67ページ】	
基本施策	(1) 健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進 町民一人ひとりの健康に対する意識を高め、健康づくりを促進するとともに、新たな感染症の発生に備えた危機管理体制を整備します。												
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	運動や食事など自分の健康に気をつけている町民の割合	%	78.8		80.6	79.3	74.8 (実績)			要検討	●健康づくりを啓発する機会はコロナ禍以前と同等まで回復していることから、高水準を維持している。 	
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題 1	ライフステージに応じた健康づくりを進められるよう個々の生活スタイルにあわせた細やかな支援につながる環境づくりが求められています。						●令和6年度に実施した粕屋町健康増進計画第2次最終評価のアンケート結果では、自分にあった健康づくりを知りたいという声が多くかった。ふくおか健康アプリでの健康習慣の継続支援や出前講座、広報、LINE等で情報発信を広く行ってきたが、より細やかな支援を可能とするためには、個人に合った情報を直接届ける方法を考える必要がある。					
	課題 1	特定健診は、40～50代の受診率が低いため、生活習慣病を発症する前からの生活習慣の見直しや、食育を含めた若い世代への啓発や健康教育などが必要です。また、国民健康保険の特定健診対象者には、医療機関の受診状況などを考慮した効果的・効率的な健診の受診勧奨を行う必要があります。						●特定健診受診率は伸びているが、40～50代の受診率は低い状況が続いている。					
	課題 2	新型コロナウイルスが発生し、感染症に対する対策の重要性は高まっており、新たな感染症が発生した際の適切な情報提供や予防活動などに取り組む体制の整備が求められています。						●日々様々な感染症が流行し、世界では新型ウイルスが発見されていることから、依然として予断を許さない状況が続いている。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 継続して実施 B : 取組方法を改善 C : 継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向	
	健康寿命の延伸と医療費の抑制につながるように、受診勧奨の工夫による特定健診受診者の増加及び予防講座などの啓発活動による健康意識の向上を図ります。	健康づくり課	●健診の予約状況に合わせて、勧奨時期の工夫やタイムリー勧奨ができるSMS勧奨、継続受診者を増やすために来年度の予約を自動でしていく「おまかせ予約」の受付を開始した。また、医療機関に協力を依頼し、医療情報収集事業を実施することで、受診率が向上した。 ●重症化リスクのある方には、保健指導を実施した。健診結果に沿って、生活習慣病の予防教室を開催した。 ●働き世代である40～50代の受診率は依然として低い状況にある。						●事業者提供によるがん検診受診者数の把握が難しいため、「客観指標」の見直しが必要。現在、健康増進計画の次期計画策定を行っており、目標指標は増進計画に基づき設定したほうがよいと考える。				
	生活習慣病やがんの早期発見・早期治療のために、継続したがん検診を実施し、若い世代から受診しやすい環境づくりを推進します。	健康づくり課	●50歳以上の偶数年齢の方に個別医療機関で胃内視鏡検査を受診できる体制を構築した。 ●町内の小学5年生、中学2年生を対象に「がん教育」を実施し、若い世代からの健康意識の向上と家族の健診受診勧奨につなげた。 ●新Web予約システムとふくおか電子申請を活用し、時間帯を問わずいつでも健診予約できる環境を整えた。						●「まちづくりの課題と展望」の課題1については、今後も改善に向けて努力していくことが必要と考えるため継続する。課題2については体制整備を行ったため内容を見直す。				
	感染予防の意識啓発に努めるとともに、対象者へ定期予防接種の正確な情報提供や確実な接種につなげる接種勧奨を行い、感染症予防の周知を図ります。	健康づくり課	●乳児期は、赤ちゃん訪問や乳幼児健診、転入時の手続きなどの対面の機会で接種勧奨を行い、小学生や中学生には学校を通してチラシや予診票を配付、一般住民にはホームページ、広報、回覧板、LINEなどを通して周知・啓発を行った。また、定期接種対象年齢に達する方には個別にはがきを郵送し勧奨した。						●「基本施策の取組方針」については、上記3つについては、特定健診・がん・感染症の取組方針として継続する。4つ目については、体制整備を行ったため内容を見直す。				
	新たな感染症の発生に備え、関係機関との連携強化や情報共有体制の整備など危機管理体制を確立し、迅速な対応を図ります。	健康づくり課	●健康づくり課内に感染症対策室を設置し、日頃から情報収集や発信に努めている。また、粕屋地区健康危機管理及び地域新型インフルエンザ等対策会議連絡体制や感染症予防計画、医療措置協定等確認し、広域で感染症予防に取り組んでいる。										
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●新たに「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施事業」をR5から開始したことから、取組方針に追加したほうがよい。										

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●近隣自治体と比較して特定健診受診率が高い(R4:44.1% (県内8位))。受診勧奨内容の検討や電話・訪問等による被保険者へのアプローチ、健診予約受付、健診当日の運営から保健指導に至るまで委託ではなくすべて直営で実施している。町民の方と話をする機会が多いため、意見や反応を適時迅速に施策に反映できることが強みである。 ●福岡市に隣接していることから医療機関が多く、個別医療機関への健診受診勧奨や予防接種勧奨が容易である。																																										
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●福岡市に隣接していることから医療機関が多く、診療を受けることが容易な環境にあることから、一人当たりの入院医療費は県平均より高い。 ●若い世代や働き世代が多く、連絡がつながりにくい。																																										
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●企業が従業員等の健康保持・増進に取り組む健康経営・健康投資を実践することで、個人の健康意識の向上や医療費削減、健康寿命の延伸に繋がる。																																										
	Threats (脅威となる社会潮流)	●新興感染症が発生すると、社会交流が減り、心身の健康への影響が懸念される。																																										
町民意識調査結果(R6)	<p>●施策の満足度：健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.43</td> <td>2位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <caption>满意度分布</caption> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>凡例 全体(N=1,055)</td> <td>34.9</td> <td>46.9</td> <td>5.5</td> <td>7.8</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>(18) 健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進</td> <td>5.5</td> <td>34.9</td> <td></td> <td>46.9</td> <td>3.9</td> <td>7.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【健康づくり】あなたは、運動や食事など、自分の健康に気をつけていますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>気をつけている</th> <th>少し気をつけている</th> <th>計</th> <th>気をつけていない</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□あり気をつけていない</td> <td>□気をつけている</td> <td>28.6</td> <td>□どちらともいえない</td> <td>46.2</td> </tr> <tr> <td>■どちらともいえない</td> <td>□無回答</td> <td>14.7</td> <td>□無回答</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>全体(N=1,055)</td> <td></td> <td>0.6</td> <td></td> <td>18.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>○運動や食事など、自分の健康に「少し気をつけている」方が46.2%と最も多く、「気をつけている」とあわせて74.8%の方が「気をつけている」と回答しています。一方、「気をつけていない」(「気をつけていない」+「あまり気をつけていない」)方は18.1%となっています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.43	2位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	凡例 全体(N=1,055)	34.9	46.9	5.5	7.8	1.0	(18) 健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進	5.5	34.9		46.9	3.9	7.8	気をつけている	少し気をつけている	計	気をつけていない	計	□あり気をつけていない	□気をつけている	28.6	□どちらともいえない	46.2	■どちらともいえない	□無回答	14.7	□無回答	3.4	全体(N=1,055)		0.6		18.1
加重平均値	29施策順位																																											
0.43	2位/29施策																																											
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																																							
凡例 全体(N=1,055)	34.9	46.9	5.5	7.8	1.0																																							
(18) 健やかでいきいき暮らす健康づくりの推進	5.5	34.9		46.9	3.9	7.8																																						
気をつけている	少し気をつけている	計	気をつけていない	計																																								
□あり気をつけていない	□気をつけている	28.6	□どちらともいえない	46.2																																								
■どちらともいえない	□無回答	14.7	□無回答	3.4																																								
全体(N=1,055)		0.6		18.1																																								
議会や住民の声	●国保運営協議会委員よりICT技術を使った保健事業の展開について意見が出された。																																											

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち		2 子育て世代が明るく暮らせるまちづくり									【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 68,69ページ】		
基本施策	(1) 安心して子育てできる環境づくりの推進 保育の受け皿確保と質の向上を進め、子育て家庭が安心して子育てできる環境づくりを進めます。										重点プロジェクト	魅力・誇り向上 (子育て環境のさらなる充実)		
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	子育て環境が整っていると思う町民の割合	%	44.4		48.4	54.1		49.4 (実績)			要検討	●令和2年12月に認可保育所、令和6年6月に小規模保育園が新たに開園し、国定義の待機児童は0となっている。また、様々な子育て支援事業を行っており、目標は達成する見込である。 ●平成30年度来館者数は5万人を超えていたが、令和元年3月以降コロナ禍での休館や入場制限等が令和5年度5月上旬まで続いた。その後はコロナ前の来館者数に戻りつつあるが、目標値の達成は難しい。	
1. 行政による施策評価														
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題1	子育て支援の充実は若い世代の定住促進をめざすうえで重要な取組であり、子育て世代の生活様式の多様化にあわせた、ニーズの高い子育てサービスの拡大が必要です。						●国の施策である幼児教育・保育の無償化が始まったことにより子育てに関する保護者ニーズが大きく変化し、認可保育所の入所希望者が増加している。一方で町立幼稚園の入所希望者は年々は減少しており今後もこの傾向は続くと思われる。また、国的新たな子育て支援制度が令和8年度から実施予定である。次期計画では、大きく変化した保育ニーズに対応した取組を記載する必要がある。						
	課題1	町の子育て支援の拠点である、かすやこども館を中心とした子育て支援に関する情報発信や子育て支援のネットワークづくりに取り組む必要があります。						●かすやこども館子育てルームつどいでは、町の地域子育て支援拠点として子育て支援に関する情報発信・子育て相談・イベントを実施し、コロナ以降来館者数は戻りつつある。認可保育所で実施されている地域拠点事業においては参加者が停滞・減少傾向にある園もあるので、かすやこども館を中心として子育てネットワークづくりの取組を継続する。						
	課題2	児童虐待や要支援児童・家庭などに対する支援が求められており、子ども家庭総合支援拠点の設置に向けて、体制の整備が必要です。また、貧困の状況にある子どもに対しての必要な支援の検討も必要です。						●令和4年3月1日に粕屋町子ども家庭総合支援拠点を設置し、一般的な子育てに関する虐待相談まで包括的支援を行う体制を整えた。また、児童福祉法の一部改正に伴い、令和6年4月1日に粕屋町こども家庭センターを設置した。従来の「子育て世帯包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の機能を維持した上で組織を見直し、母子保健・児童福祉の両機能が一体的に相談支援を行う体制を整えた。						
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 継続して実施 B : 取組方法を改善 C : 継続しない)					
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)					取組意向	
	私立・町外保育施設などに対する運営支援、認可外保育施設利用者や私立幼稚園利用者への支援などにより、幅広い保育環境の充実を図ります。	子ども未来課	●私立・町外保育施設への運営支援、認可外保育施設・私立幼稚園利用者への支援を適正に行なった。また、様々な子育て支援事業を行う認可保育所に対し補助を行うことにより、充実した保育環境の整備に努めた結果、実感指数は上昇している。				○	●「実感指標」と「まちづくりの課題と展望」の課題1、「基本施策の取組方針」の1行目については適していると考えるが、「基本施策の取組方針」の2行目は中央保育所の建て替えが完了しているため、記載内容の変更が必要。					A	
	安全・安心な保育環境の充実を図るために、仲原保育所や中央保育所の老朽化する保育施設の建て替えと、町立保育所の今後のあり方・役割を検討します。	子ども未来課	●中央保育所の建て替えは完了したが、仲原保育所に関しては建て替え場所等の問題があり、方向性が決定していない。しかし、仲原幼稚園閉園後に施設を改修し、小規模保育所として開園する計画を立てるなど、町立保育所のあり方と役割を検討し保育環境の充実に向けた取組を行なった。				○	●子ども家庭総合支援拠点が子ども家庭センターに名称や機能が変わったこと、かすやこども館から健康センターに場所も変わったことから、基本施策の取組方針については、こども館と虐待防止系の内容を独立して分けた方が良いと考える。						
	学童保育については、今後のニーズを見極め、民間の施設などを含めた施設の受け皿の拡大を図ります。	学校教育課	●西小学校童保育所は令和2年度に増築し待機は解消している。大川小学校童保育所は令和5年度に委託法人により増築が行われたが指導員の配置ができず(R6.10現在稼働していない。ほか2学童保育所では主に小学3年生以上で秋ごろまで待機が発生しており解消策を検討している。				△	●かすやこども館の年間来館者数は平成30年度までは5万人を超えていた。令和元年度より幼児教育・保育の無償化がはじまり、未就学児が対象であるかすやこども館子育てルームつどいの利用者は平成30年度と令和5年度を比較すると約6千人の減である。今後、出産数のピークも過ぎ、未就学児の利用も大きく伸びることが期待されないので、成果指標の客観指標の目標値は検討が必要である。						
	かすやこども館において小中高生や父親など新たな利用者層が参加できる講座やイベントの開催に取り組みます。また、児童虐待防止対策を強化するため、子ども家庭総合支援拠点を設置し、相談体制の充実を図ります。	子ども未来課	●かすやこども館において家族全員が参加できるイベント、講座を開催した。大変好評だったので、今後も回数等を増やして実施する。また、令和4年3月1日に粕屋町子ども家庭総合支援拠点を設置し、子ども家庭全般に係る業務として、実情の把握、相談対応、総合的な調整を行なった。さらに、要対協調整機関として各関係機関との連絡調整、連携体制の構築を行なった。令和6年4月1日には粕屋町こども家庭センターの設置に伴い、母子保健と児童福祉の連携や協働を深め、相談支援業務の充実・強化に努めた。				○	●学童保育所のニーズは依然多いため受け皿の拡大が望まれている。ただし、例年、秋ごろには待機が解消する状況があり、多額の経費を要する増築・民間補助等の拡大策は実施困難との方向性であれば、「拡大を図ります」との書きぶりは見直しの検討が必要と思われる。						
	ファミリーサポート事業について、会員のニーズにあわせた援助ができるようにまかせて会員の増加をめざすとともに、新規会員だけでなく、現会員向けの研修や意見交換会を行い、内容の充実を図ります。	子ども未来課	●お願い会員の増加により依頼件数が増加しているが、対応できるまかせて会員の数は増えではない状況。すべての会員参加型の研修・意見交換会を実施した。参加した会員と対面でコミュニケーションを取ることでお互いに理解、信頼等を深めることができた。				△	●子育て応援団の活動を広げるため、研修会の実施や団員確保のための周知活動を推進します。					○	
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●令和8年度より乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の実施 ●令和7年度末で閉園する中央幼稚園跡へ中央小学校童保育所を移転し定員増を図ることを検討中。（既存学童施設の設置時に国補助を使用している関係で実現性を確認中。）											

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣市町と比較して出生率が高く、町レベルでは未就学児が多い。 ●糟屋地区内の市町と比較して認可保育所等が多く、保育認定定員が多い。 ●町独自の取組として実施している、園・学校への定期巡回や未就園児全戸訪問等を通して、潜在している要支援家庭の発掘に努めている。 ●かすやこども館は0歳から18歳までの児童とその保護者、子育て支援のボランティアが利用し、児童館と地域子育て支援センターの機能を併せ持った施設である。 ●各小学校の敷地内または近隣に学童施設があるため利用がしやすい。 																														
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●町立保育所・幼稚園の施設・設備の老朽化が進んでいる。 ●住民の異動が多い町であり、周囲に親族や知人が少ない子育て世帯に対して、地域の中で孤立しないようなアプローチが必要。 ●児童生徒数の増加傾向は落ち着いてきたものの、各小学校とも空き教室が出る状況ではなく、学童施設を増築可能な敷地も残っていない。 																														
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年12月「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定された。こども館は学童に入っていない子どもたちの放課後や休日の遊び場や自習室の提供を行っている。 ●こども未来戦略「加速化プラン」施策において、全てのこども・子育て世帯を対象とする支援強化が掲げられ、虐待防止や貧困など多様なニーズへの対応として事業や予算が拡充されている。 ●少子化の影響から児童生徒数の増加傾向は落ち着いてきている。宅地開発を除き学童ニーズ（待機数）の極端な増加要因はない。 																														
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●ファミリーサポートや子育て応援団などのボランティアの高齢化がみられる。特にコロナ以降、活動の再開が難しい方が多い。 ●令和8年度より乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）が実施されるが、保育所入所希望者が多く利用者ニーズの把握が難しい。 ●令和元年度から始まった幼児教育・保育の無償化により保育所入所希望者が増加し、子育て支援事業の利用者が減少傾向にあり、継続していくことに対して脅威と考えられる事業がある。 ●核家族や共働き世帯の増加等に伴い、子どもの数の増減と学童ニーズの増減が必ずしも比例せず、将来的なニーズ推移が予測しにくい。 																														
<p>●施策の満足度：安心して子育てできる環境づくりの推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.31</td> <td>4位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施策の重要度：安心して子育てできる環境づくりの推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52.9%</td> <td>5位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>どちらとも</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.5</td> <td>26.4</td> <td>55.5</td> <td>3.9</td> <td>8.0</td> <td>1.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(19) 安心して子育てできる環境づくりの推進</p> <p>【子育て】粕屋町では、子育ての環境が整っていると思います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思わない</th> <th>どちらともいえない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.3</td> <td>38.1</td> <td>12.2</td> <td>2.1</td> <td>49.4</td> <td>16.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○粕屋町では、子育て環境が整っていると「ややそう思う」方が38.1%と最も高くなっています。「そう思う」とわざわざと「そう思わない」（「そう思う」+「ややそう思う」）の方の16.5%となっています。</p> </div>	加重平均値	29施策順位	0.31	4位/29施策	重要度回答率	29施策順位	52.9%	5位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	どちらとも	4.5	26.4	55.5	3.9	8.0	1.7	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	11.3	38.1	12.2	2.1	49.4	16.5
加重平均値	29施策順位																															
0.31	4位/29施策																															
重要度回答率	29施策順位																															
52.9%	5位/29施策																															
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	どちらとも																											
4.5	26.4	55.5	3.9	8.0	1.7																											
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答																											
11.3	38.1	12.2	2.1	49.4	16.5																											
町民意識調査結果(R6)	<p>●HPの各課へのお問合せ：要旨「保育所の第2子以降の保育料無償化の要望」に対し「無償化を実現するには財源の確保が必要であり、早急な対応は困難な状況。今後の国の子育て支援策の動向を確認しながら、子育てに関する施策を様々な観点から検討していく。」と回答。</p> <p>●令和6年9月定例会一般質問・答弁「要旨：例年10月頃までには待機が解消。少子化により粕屋町でも今後、児童数が減っていくと考えられる。学童保育所の増築といった多額の経費を要する施策は難しい。子どもたちの安全な居場所の確保に努める。」と回答。</p>																															
議会や住民の声																																
外部評価	重点プロジェクト	魅力・誇り向上																														
	取組内容	子育て環境のさらなる充実																														
	評価対象事業	かすやこども館運営管理事(R4)																														

施策実現への取組や進捗、内部評価の妥当性について、ほとんどの委員が「着実に取り組まれている」や「順調に進んでいる」、「概ね適切」と評価しており、現状の把握や課題の認識が正しくなされ、取り組まれていると考えられる。改善の余地としては、子育て世代や若者に対するアンケート調査の方法や内容に関するものがあった。

また、多くの委員よりまとめて会員数の実績値が少ないとに対する意見が出された。ファミリーサポート事業は、働く親、ひとりで子育てをしている親などにとって需要の高い事業であるが、それを担う人材の確保という明確な課題があるようである。待遇や制度設計、官民連携や活動場所の選択肢などの改善点が出されているように、様々な点から検討の余地があると思われるため、今後の参考にしていただきたい。

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち		2 子育て世代が明るく暮らせるまちづくり								【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 70,71ページ】			
基本施策	(2) 子どもの健やかな成長を支える支援の充実 妊娠期から出産・子育て期にわたるまでの切れ目ない相談支援により、安心して子どもを産み育てられる環境をつくります。													
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果		
	実感指標	妊娠・出産期における支援が充実していると思う町民の割合	%	24.5		30.8	33.5		31.7 (実績)		↑	●妊娠・出産・育児に関する支援体制や助成制度の充実を図っているため、今後も指標は達成できると見込まれる。		
1. 行政による施策評価														
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化							
	課題 1	安心して子どもを産み育てることができるよう、母子の健康づくりから子育ての支援まで妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援が求められています。					●子育て世代包括支援センターにて、妊娠期から出産・子育て期を通してきめ細かく支援ができる体制を整えるとともに、各種支援サービスや助成制度の充実を図り、より子育てしやすい環境づくりや経済的負担の軽減を行っている。							
	課題 1	発達障がいをできるだけ早期に発見し、早期の療育支援につなげていくためには、専門職による相談支援、療育支援体制の更なる充実が必要です。					●SNS等による情報交流が増え保護者の「療育」への関心や理解が進んできたことなどで、年々支援を希望する児童が増えているが、療育専門職員の確保が難しい状況が続いている。							
	課題 1	子育て家庭が安心して子育てができるよう、子ども医療費助成などの経済的な負担軽減の支援が引き続き必要です。					●子ども医療費支給制度の受給者数は、R1の8,594人からR5は8,045人と年々減少しているが、安心して子育てできる環境を整備するために、段階的に制度内容の拡充を行っている。 ●児童手当の対象児童数は、R1は8,131人、R5は7,194人と減少しているが、R6は所得制限が撤廃され、支給対象年齢が引き上げられるため増加する見込み。							
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向		
	乳幼児の健やかな成長・発達と、保護者の育児不安の軽減や虐待予防を図るために、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない総合的な支援(子育て世代包括支援事業)について、対象者への周知を進めていくとともに、相談支援体制の強化に取り組みます。	子ども未来課	●妊娠期から出産・子育て期を通してきめ細かく支援ができる体制を整え、妊娠届出時に渡す案内冊子の作成やHP掲載等、事業の周知を図っている。また国の補助金制度を活用して、各種支援サービスや助成制度の充実を図り、子育てしやすい環境づくりや経済的負担の軽減を行った。各種相談事業のうち、幼児の発達面の相談ができる「発達相談」の相談員の確保が難しい状況が続いている。					○	●今後も継続してこども家庭センターにおいてよりきめ細かな支援を実施するとともに、国の動向を見ながら事業実施の検討を行わなければならない。 ●児童の発達特性の障がい受容が出来ない保護者や、まだ障がい受容の途中にあり福祉サービスを申込むのが難しい保護者の為に直営の療育教室は必要である。				A	
	乳幼児健診においては対象者に確実に受診してもらうために、関係機関と連携を行い、受診しやすい体制づくりを進めます。	子ども未来課	●健診来所者に負担をかけない健診(早い、確実、安心)の実施を目指して健診を実施している。また仕事が休めずに対象の日に来所できない場合は、別の健診や時間の変更等で対応を行っている。それでも来所が難しい家庭や、要支援家庭等は、福岡ルールに基づいて、こども相談係や保育所等と連携をして未受診者対応を行っているが、未受診者が0になることはない。					○	●今後も、子育てできる環境を整備するため、福岡県や近隣自治体の動向を注視しながら、さらなる制度拡充を検討していく必要がある。 ●児童手当については、引き続きわかりやすい制度周知を実施し、受給資格確認及び認定作業を行い、受給対象となる方に確実に手当を支給する。					
	発達障がいの早期発見・早期療育支援をめざし、専門職による相談支援、療育支援体制のさらなる充実に向けて取り組みます。	健康づくり課	●乳幼児健診で気になる幼児や園からの紹介等で発達相談を行い、療育が必要な1歳半から3歳児までの幼児に「集団療育」を実施している。「集団療育」を卒業する幼児、発達相談を継続している幼児、園からの依頼により巡回相談を実施した幼児等を療育判定会議で判定し、必要な幼児に「個別療育」を実施している。発達相談希望者が増え相談まで時間がかかるたり、「個別療育」を希望する幼児が受け入れ可能人数を超えていている。					○						
	子育て家庭の経済的負担軽減を図るために、医療費の助成対象を拡大し支援します。また、児童を養育する受給者に対し、引き続き制度周知を行い、適切な給付業務を推進します。	総合窓口課	●子ども医療費支給制度・ひとり親家庭等医療費支給制度については、R3年度に通院の助成範囲を中学生までに拡大し、R6年度には、助成内容を0歳から小学校就学前の子どもも入院・通院ともに無料、小中学生は入院は無料、通院はひと月一医療機関あたり自己負担額を500円までに拡充した。 ●児童手当は令和6年10月分から所得制限が撤廃、支給対象を高校生年代まで延長、第3子以降の手当月額引上げ等抜本的に拡充された。					○						
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】														

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●母子保健に関する国の補助金制度を活用した事業の取組を早期に進めている。 ●近隣で直営の療育教室を運営している市町は少なく、乳幼児健診、発達相談、療育支援がスムーズに連携している。 ●子ども医療費支給制度・ひとり親家庭等医療費支給制度において、福岡市は0歳から3歳未満の通院を無料としているが、粕屋町は0歳から就学前の子どもの通院を無料としている。 ●総合窓口で住民票の異動や出生の手続と同時に児童手当の案内及び申請を受けることができる。 															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●専門職員（特に発達相談員）の確保が難しい。 ●療育に係る専門職員の確保が難しい。 ●子ども医療費の支給対象を高校生までに拡大してほしいという声を住民から聞く。 ●国の少子化対策の実現に向け、令和6年10月から児童手当が拡充されたことにより町の財政負担も増加する。 															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化対策のためか母子保健に関する新たな国や補助事業が毎年増えている。 ●近い将来に5歳児健診の開始が考えられ、今までよりもさらに多職種で当該児や保護者を支援することとなる。 ●子どもの医療費支給対象を高校生までに拡大する自治体が増加している。 ●児童手当が拡充されたことにより、高校生年代までの子を養育するすべての方が受給対象となる。 															
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●国の補助事業が増えているが、それに対応できる予算と人員体制の確保が難しい。 ●児童発達支援などの通所施設が増え、療育を希望する保護者も増えているが、専門職の確保が難しい。 ●国が行っていた、小学生から18歳未満への医療費助成を独自に行う自治体への国庫負担金減額調整（ペナルティ）がR6年度から廃止されたため、医療費助成内容を拡充することによって過剰受診が増える恐れがある。 ●児童手当の制度改正が頻繁に行われるため、受給対象者への周知や、規則改正などが必要となる。 															
	<p>●施策の満足度：子どもの健やかな成長を支える支援の充実</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.30</td> <td>5位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (20) 子どもの健やかな成長を支える支援の充実</p> <p>●施策の重要度：子どもの健やかな成長を支える支援の充実</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37.4%</td> <td>10位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.30	5位/29施策	重要度回答率	29施策順位	37.4%	10位/29施策							
加重平均値	29施策順位																
0.30	5位/29施策																
重要度回答率	29施策順位																
37.4%	10位/29施策																
町民意識調査結果(R6)	<p>【子育て】粕屋町では、妊娠・出産期の支援が充実していると思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>■どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>そう思う 計</th> <th>そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.6</td> <td>24.1</td> <td>14.3</td> <td>4.6</td> <td>46.9</td> <td>2.5</td> <td>31.7</td> <td>18.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○粕屋町の妊娠・出産期の支援が充実していると思うかについて、「どちらともいえない」方が46.9%と最も高くなっています。 ○妊娠・出産期の支援が充実していると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方が31.7%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の18.9%を上回っています。</p>		■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計	7.6	24.1	14.3	4.6	46.9	2.5	31.7	18.9
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	■どちらともいえない	□無回答	そう思う 計	そう思わない 計											
7.6	24.1	14.3	4.6	46.9	2.5	31.7	18.9										
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> ●粕屋町議会にて、子育て支援アプリに関する一般質問があった。 ●子ども医療費の助成範囲を高校生まで拡大してほしいという意見があった。 																

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち				3 高齢者が元気に暮らせるまちづくり						【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 72,73ページ】		
基本施策	(1) 元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進 地域の中で高齢者が生きがいを持って暮らせる社会をめざし、関係機関や地域活動団と連携し多様な社会参加や交流機会を広げます。												
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果	
	実感指標	元気な高齢者が活躍する場があると思う町民の割合	%	36.3		34.0	36.4	33.5 (実績)			要検討	●年によってパーセンテージの浮き沈みがあるが、新型コロナウイルスの5類移行により、うておうて塾やシルバー人材センター等、高齢者の活動は増加する見込みである。 ●新型コロナウイルスの流行や高齢者就業率の増加、深い近隣関係を望まない人の増加等の影響からか、新規会員数は減少傾向にあり、目標値には届かないことが見込まれる。	
1. 行政による施策評価													
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題1	人生100年時代を見据え、高齢者が積極的に地域と関わりながら生活できる環境を整え、活躍できる場づくりの拡大が求められています。						●新型コロナウイルスの流行により各種教室や各団体の活動は縮小傾向にあったが、十分な感染対策を講じた上で活動再開に向けた説明会の開催や5類移行に伴う活動案内の配布等を行ったことにより、徐々に活動は再開されてきている。しかしながら会員数は減少傾向にあるため、その要因を分析したうえで対応を行う必要がある。					
	課題2	高齢者が住み慣れた地域で生き生きとした人生を送れるような環境づくりや、健康寿命の延伸に向けた健康増進活動の充実が求められています。						●元気な高齢者の活躍する場あると思う町民割合は、R1と比較して横ばいとなっている。R2～R5新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者が外出を控えていた可能性があると考える。健康づくり課の健康増進事業の教室もR2は中止することもあったが、R3からは、教室等も開始となつたが、参加人数は以前と比較して減少している。この点を踏まえ、高齢者でも参加できるような健康増進活動の事業を引き続き実施していく。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向	
	シルバー人材センターの就業支援や老人クラブの活動支援を通して、高齢者が地域で活躍できる社会参加の機会を拡大し、生きがいのある暮らしができる環境づくりに取り組みます。	介護福祉課	●シルバー人材センターに対して活動補助金の支給やパンフレット等の配布、就労意欲のある高齢者に対する活動紹介等を通じて活動支援を行っている。また、老人クラブに対しては活動補助金の支給の他に、会員限定の運動教室を非会員にも広くPRしたうえで開催、各クラブの活動などをホームページに掲載することで新規会員の獲得を図っている。しかしながら、新型コロナウイルスの流行や高齢者就業率の増加、深い近隣関係を望まない人の増加等の影響からか、会員数は減少傾向にある。						△	●シルバー人材センターや老人クラブの会員数が減少傾向にあり、その要因には社会情勢の変化等、様々な要因が絡んでいるものと考えられるが、社会参加意欲の高い高齢者が、各団体の存在や活動内容を知らないことを理由として、引きこもり傾向になることのないよう施策の改善を図る。			
	うておうて塾の開催を支援することにより、高齢者が若い世代と交流を広げ、自身の経験や知識を若い世代に伝える機会を促進します。	介護福祉課	●うておうて塾開催に関する補助金申請案内を全クラブに実施。また、うておうて塾の未開催クラブに対して、うておうて塾の開催地区の紹介や相談を実施している。新型コロナウイルスの流行期を除き、平均して半数程度のクラブがうておうて塾を開催しており、地域の小中学生やその親世代との交流の機会を設けることができている。						○	●健康づくり課では全世代を対象とした健康増進活動を進めているため、元気高齢者としての評価指標ではなく、基本目標3-1-(1) 健康づくりの推進などとあわせて、評価するよう見直す。			
	高齢者の健康寿命の延伸と医療費の削減を図るために、生活習慣病予防などの健康増進活動を促進します。	健康づくり課	●R5年度より福岡県後期高齢者広域連合より高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を委託し、脳血管障害に係る医療費が後期高齢者は高いため、基本健診を受診後、血圧が基準より高い対象者には、保健指導を開始した。成果としては、未治療者が治療に繋がったのが2割程度あり、別の疾患で通院中の方は医療機関との連携の必要性や健康に関して価値観、長年の生活習慣を変える難しさ等の課題がある。 ●健診未受診、医療機関にも定期的に通院していない高齢者へ健康状態の把握を含め通知、訪問事業等も開始した。成果はまだ確認できていない。						△				
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●新たに「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施事業」をR5から開始したことから、取組方針に追加したほうがよい。										

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化率は全国単位でもトップレベルの低さである。老人クラブやシルバー人材センターの他に、敬老会やゆうゆうサロン、介護予防教室など高齢者の社会参加の場が多く存在しており、R6町民意識調査では元気な高齢者が活躍する場があると感じている方が、そう思わない方を上回っている。 ●福祉バスが無料で巡回しており、粕屋ドーム、サンレイクかすや、鶴与丁公園など高齢者が運動や余暇活動ができる場がある。 				
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●粕屋町高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画より、粕屋町の高齢化率は全国単位で比較すると低水準ではあるものの、高齢化率は年々上昇を続けているため、高齢化率が低い現段階から元気高齢者を増やすための環境を整えることで、将来的な介護給付費や医療費の増大を抑えることができると考えられる。要介護認定率が増加傾向にある。 ●令和5年度の後期高齢者一人当たり医療費が、県内26位/60市町村となっている。 				
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォン普及率の増加等、高齢者の情報入手手段が変化してきている。 ●令和2年度より厚生労働省が、健康診査・保健指導等の保健事業とフレイル対策を強化するため、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」の方針を打ち出し、令和6年度まですべての市町村で実施するようになっているため、令和5年度より実施開始した。 				
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●団塊の世代すべてが75歳以上となる2025年、第2次ベビーブーム期に生まれた世代が65歳以上となる2040年が間近に迫っている。地域における人間関係の希薄化。一人暮らし高齢者の増加。 ●新興感染症が発生した場合は、高齢者の外出控えや活動の場の縮小などの可能性がある。 				
町民意識調査結果(R6)	<p>●施策の満足度：元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.18</td> <td>12位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (21) 元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進</p>		加重平均値	29施策順位	0.18	12位/29施策
加重平均値	29施策順位					
0.18	12位/29施策					
<p>●施策の重要度：元気高齢者の活躍を促す環境づくりの推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.0%</td> <td>16位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		重要度回答率	29施策順位	24.0%	16位/29施策	
重要度回答率	29施策順位					
24.0%	16位/29施策					
議会や住民の声						

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち			3 高齢者が元気に暮らせるまちづくり							【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 74,75ページ】		
基本施策	(2) 住み慣れた地域での生活を支える支援の充実			高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護・予防などが連携した地域包括支援システムの充実を図ります。							重点プロジェクト	安全・安心 (地域防犯活動の推進)	
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	高齢者に対する支援が充実していると思う町民の割合	%	28.3		26.4	29.6		27.7 (実績)			要検討	●指標の割合に大きな変化は見られない。今後、公的サービスだけではなく、共助の推進に取り組んでいく必要がある。
	客観指標	ゆうゆうサロン登録者数	人	593	531	480	400	61.5%	386 (見込)	400	650	要検討	●新型コロナ感染症の影響で会員数が大幅に減少した。また近年は長期欠席者に必ず登録の確認を行っているため指標より低下している。

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化					
	課題1	今後、介護認定者の増加による社会保障費の負担拡大が懸念される中、介護予防活動の充実や高齢者の自立支援のための生きがいづくり、地域での支え合いの体制を構築する必要があります。			●総合事業の充実を図り、多様な主体が行う事業の改善を行った。地域ケア会議、生活支援体制整備事業等では、県のモデル事業を積極的に活用し、高齢者の自立支援や地域の支え合い体制の構築を目指した。				
	課題2	高齢者の在宅生活を支援するため、引き続き地域包括支援システムによる支援を充実するとともに、地域包括支援センターを中心に保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーが高齢者の身近な相談相手であることを周知する必要があります。			●地域包括支援センターの必須3職種が、保健師以外は会計年度任用職員であり、退職などにより安定した雇用が難しく、常に欠員状態であった。そのため、雇用条件の改善や正規職員による職員の確保に向けて担当課と交渉し、R6に社会福祉士の正規雇用に繋がった。				
	課題3	認知症高齢者の増加が予測されることから、高齢者が住み慣れた場所で継続的に生活できるように認知症高齢者の見守り事業や認知症カフェの活性化などを行い、認知症の方や家族に対する支援体制の整備や認知症に対する啓発が必要です。			●認知症高齢者の個人賠償責任保険の実施や認知症サポート一養成講座、サポート一養成講座の修了者に対するスキルアップ講座を行いチームオレンジに向けた総合的な認知症施策に取り組んでいる。				
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)		
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)		
	身近な地域の高齢者の交流の場でもあるゆうゆうサロンを継続して実施するとともに、参加者の拡大を図ります。	介護福祉課	●新型コロナ感染症の影響で、一時サロンを中止していたが、全ての地区で再開することができた。しかし、以前のような昼食を挟んだ活動が難しい地区も出てきた。参加者やボランティアが高齢化しているが、高齢になっても就労する割合が高くなっています、ボランティアの獲得が難しいという声を聞く。			○	●高齢者数は、増加傾向にあり、高齢者の独居や高齢者のみ世帯などサポートが必要な高齢者が増加している。また、少子高齢化による社会全体の働き手不足、物価高騰による高齢者の就労の増加、介護人材の減少が進んでいるため、高齢者一人一人が少しでも長く自立した生活を送れるよう、介護予防を念頭に置き、役割や生きがいを持っていきいきとした高齢者が暮らす町を目指す。認知症施策の更なる充実のため、高齢者の見守りや行方不明高齢者の緊急的な措置について検討していく。		
	かすサポやサポート一ポイント制度を充実・拡大することで、高齢者の介護予防教室への参加を促します。	介護福祉課	●かすサポでは、部員の定例会の開催や活動内容の充実・強化を行った。また、ポイント制度に関しては、介護予防活動（セルフケア）とボランティア活動それぞれに活動を付与することや新たにポイントを付与する場所の確保を行い、サポート一ポイントの充実を図った。介護予防教室では、毎年度教室内容を見直し、新たな参加者の獲得に努めている。			◎			
	要介護高齢者が住み慣れた自宅で過ごすことができるよう、地域包括ケアシステムにより、医療と介護が連携した高齢者在宅福祉サービスを充実するとともに、在宅介護する家族への支援体制の整備を推進します。	介護福祉課	●在宅で過ごされている要介護者やその家族に対する支援でねぎらい手当やオムツ給付等の事業があるが、申請者数は減少傾向にある。入所施設の増加や新型コロナ感染症の影響が考えられる。			○			
	高齢者の見守り体制を強化するため、地域や事業所などの協力のもと高齢者見守りネットワーク事業の推進を強化するとともに、一人暮らしや高齢者世帯、認知症の高齢者とその家族を支援する取組の充実を図ります。	介護福祉課	●認知症個人賠償責任保険や見守りネットワーク運営協議会等で見守りの連携を強化しているが、行方不明高齢者の通報は増加傾向である。見守りを目的とした配食サービスや緊急通報サービス、広域でのSOSネットワークはあるが、これだけでは十分とはいえない。			○			
	認知症高齢者に対する支援として、認知症カフェや認知症サポート一養成講座の開催に引き続き取り組むとともに、町民への認知症の理解・啓発を図ります。	介護福祉課	●認知症カフェの開催場所が3か所から2か所に減少したため、新たな形のカフェを模索している。認知症への理解を深めてもらうため、9月のアルツハイマー月間に役場1階ホールと粕屋フォーラムで展示や啓発の機会を持っている。認知症推進員を中心にサポート一養成講座やスキルアップ講座を行っている。			◎			
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】								

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●ゆうゆうサロンが町内に24か所あり、長い地区では20年ほどの実績がある。地域包括ケアシステムの充実に向けた地域包括ケアシステム推進会議を開催している。							
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●住民の異動が多いことから地域の繋がりが弱い地域がある。高齢者の割合が低く、働きざかり世代や若年層の割合が高いことから、住民の見守りの必要性に対する意識が希薄である。高齢者の医療費や介護給付費といった社会保障費が増加している。							
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●介護人材の不足により処遇改善が進んでいる。また、外国人労働者の介護分野への進出やICTの発達による業務改善が進んでいる。							
	Threats (脅威となる社会潮流)	●少子高齢化の影響により、労働者全体の不足が深刻化している。その中でも特に介護人材が不足している。							
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：住み慣れた地域での生活を支える支援の充実								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.15</td> <td>17位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <p>(22) 住み慣れた地域での生活を支える支援の充実</p>		加重平均値	29施策順位	0.15	17位/29施策			
加重平均値	29施策順位								
0.15	17位/29施策								
議会や 住民の声	●施策の重要度：住み慣れた地域での生活を支える支援の充実								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32.9%</td> <td>12位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055)</p> <p>(22) 住み慣れた地域での生活を支える支援の充実</p> <p>【高齢者】柏屋町では、高齢者に対する支援が充実していると思いますか。</p> <p>■そう思う ■ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない ■どちらともいえない □無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う 計</th> <th>そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.2</td> <td>27.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 5.9 21.8 17.1 16.8 47.2 1.2 27.7 23.9</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○高齢者に対する支援が充実していると思うかについて、「どちらともいえない」方が47.2%と最も多くなっています。 ○高齢者に対する支援が充実していると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方は27.7%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の23.9%を上回っています。</p>		重要度回答率	29施策順位	32.9%	12位/29施策	そう思う 計	そう思わない 計	1.2
重要度回答率	29施策順位								
32.9%	12位/29施策								
そう思う 計	そう思わない 計								
1.2	27.7								
外部評価	重点プロジェクト	安全・安心							
	取組内容	地域防犯活動の推進							
	評価対象事業	高齢者福祉事業 (R4) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に基づき、一人暮らしの高齢者の見守り活動、介護用品等給付サービスや在宅介護者ねぎらい手当等の多種多様なサービスを実施されており、施策実現への取組や進捗、内部評価の妥当性について、ほとんどの委員が「着実に取り組まれている」や「順調に進んでいる」、「概ね適切」と評価しており、現状の把握や課題の認識が正しくなされ、取り組まれていると考えられる。しかしながら、事業やサービス等に関する啓発活動の回数が少ないように感じる意見が多くったほか、申請方法や期間などサービスが行き届くよう今後の改善や対策が望まれる。高齢者社会の進展により対象者や必要とするサービスが増え、さらに業務が増えていくことが予想されるが、今後も積極的に取り組んでいただきたい。							

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち					4 障がい者がともに暮らせるまちづくり					【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 76,77ページ】
基本施策	(1) 地域で安心して暮らせる環境づくりの推進					障がいの状況やニーズに応じた福祉サービスを受けられるよう、情報提供や相談支援を充実するとともに経済的負担を軽減するため各種支援を実施します。					
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価
	実感指標	障がい者が地域や社会の中でともに暮らしていると思う町民の割合	%	18.7		23.0	23.9		21.1 (実績)		↑
	客観指標	障がい者(児)の計画相談利用者数	人/年	595	720	813	919	308.6%	1,021 (見込)	1,141	700 超過

1. 行政による施策評価

行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」			総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化									
	課題1	課題1	課題2	課題3	現状の取組状況及び成果・課題	進捗評価	第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)						
行政による 施策評価	障がい者が生きがいを持ち自立して暮らせるよう、引き続き相談支援や就労支援が必要です。				●計画相談利用者数の実績からもわかるように対象者が増加傾向にある。それに伴いニーズも多様化、福祉サービスの質・量ともに変化してきており、行政もその変化に柔軟に対応することが求められている。		A						
	国の中南部自殺対策と連動した、自殺対策計画の推進が求められています。				●新型コロナウイルス感染症の影響により社会情勢が大きく変化し、多くの人が不安やストレスを抱える状態となった。2020年7月以降には自殺者数が増加傾向に転じており、自殺対策の強化が求められている。								
	障がい者が障がいの程度や種類に応じたサービスを適切に受けられるよう、制度の周知や相談などの支援が必要です。また、さまざまな障がい者の生活支援に対応できるよう地域生活支援拠点などによる支援が求められています。				●対象者の増加に応じて、多種多様な対応が必要になってきている。地域生活支援拠点の整備については、糟屋中南部自立支援協議会で少しずつではあるが進んできている。								
	将来の生活に対する経済的な不安が大きいことから、障がい者の家庭への各種補助支給や医療費助成などの支援により経済的負担の軽減を図る必要があります。				●重度障がい者医療費支給制度の対象者は、R1は688名でR5は661名と、毎年5名程度ずつ微減しているがほぼ横ばいの状態であり、今後も変わらず対象者の経済的負担を軽減するための支援が必要とされる。 ●特別児童扶養手当の受給者数は、R1は187名、R5は197名と増加傾向にある。								
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題			第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）							
	障がい者の自立した生活を支援するため、障がい者のニーズに応じた、計画に基づく自立支援・生活支援サービスを推進します。	介護福祉課	●障がいのある人が地域で自立できるよう、個々の状況に合わせたサービスを案内・提供することができたが、そのサービスが真に本人のためになっているかどうかの判断が難しい。	○	●障がい福祉サービスの利用者及び給付費が予想以上に伸びており、指標の見直しが必要である。 ●経済的負担が大きい障がい者家庭を支援するために、引き続き医療費助成や特別児童扶養手当の支給が必要である。								
	自殺対策については、関係機関と連携を強化し、計画に基づく包括的な支援を推進します。	介護福祉課	●第2期粕屋町自殺対策計画を定め、今後5年間の粕屋町における自殺対策の基本方針、基本施策等を定めた。	○									
	障がい者が適切にサービスを受けられるよう、引き続き各種相談窓口による相談支援、法改正などに伴う制度などの周知を図ります。また、障がい者の地域移行・就労支援を進めていくために関係機関と連携して支援に取り組みます。	介護福祉課	●窓口では、障がいの状況に応じた適切なサービスの提案・提供に努めている。また、障がい者の地域移行を推進するため、就労支援事業所の開設を積極的に受け入れている。	○									
	障がい者の「親生き後」の生活を支援するため、地域生活支援拠点の整備により緊急受入体制を確保するとともに機能の拡充を図ります。	介護福祉課	●令和6年度に、地域生活支援拠点整備の一つである緊急受入体制の整備について、受け入れ可能な事業所と契約を締結することができた。	○									
	障がい福祉サービス利用費増大に伴い給付費適正化のため、審査システムを活用して適正化に努めます。	介護福祉課	●障がい福祉サービスの請求審査システムを導入し、適正なサービス提供に努めている。	○									
	医療的ケアが必要な障がい児への適切な支援について、関係機関と協議・連携を図ります。	介護福祉課	●医療的ケア児支援関係機関会議を年に1回開催し、関係機関と情報を共有している。また、災害時の医療的ケア児の対応についても現在協議中である。	○									
	障がい者の家庭への経済的負担を軽減するため、各種補助支給や医療費助成などの支援を推進します。	総合窓口課	●経済的負担を軽減するため、補助金額や助成対象項目の見直しなど適宜必要に応じて改善している。 ●介護福祉課の障がい者福祉係と連携を取りながら、対象者への手続き案内を行い、医療費の助成や特別児童扶養手当支給に係る事務を行った。	○									
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】													

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●粕屋町単独の事業について、社会参加促進補助事業など、他の市町村にはない独自の事業を実施することで、障がいのある方の福祉サービスの向上に努めている。 ●重度障がい者医療費支給制度においては、福岡県の制度に準じて事業を行っているが、県制度に規定されている所得制限を設けていないため、所得額に関係なく全対象者に医療費助成を行っている。入院についても県制度よりも自己負担額を軽減している。																																									
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●社会環境の変化に伴い、必要とされる福祉サービスが多様化・複雑化しており、よりきめ細かく柔軟な福祉サービスの提供が求められているが、人員体制が追いついていない。 ●福岡市や北九州市など福岡県内で6団体は、入院・通院ともに自己負担額を無料としている。																																									
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●糟屋地区中南部6町で構成される自立支援協議会において、地域生活支援拠点等の整備に向けて協議しており、障がいのある方が地域で充実した生活を送ることができる社会の実現が期待される。 ●子ども医療費助成の制度改正に併せて、重度障がい者医療費支給制度の受給者のうち、小中学生については子ども医療費支給制度の受給者へ変更した。これにより、障害者手帳の更新のたびに行っていた医療証交付の手続きが不要となり、受給者の負担軽減に繋がっている。																																									
	Threats (脅威となる社会潮流)	●障がい福祉サービス利用者の増加に伴い、サービス費用が年々増加している。 ●国が重度障がい者の医療費助成を独自に行う自治体に対して国庫負担金減額調整（ペナルティ）を課しているため、自己負担額の減額の検討が難しい。																																									
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：地域で安心して暮らせる環境づくりの推進																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.12</td> <td>23位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>13.8</td> </tr> <tr> <td>言えない</td> <td>69.7</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2.1</td> </tr> </tbody> </table>		加重平均値	29施策順位	0.12	23位/29施策	回答	割合	満足	2.7	やや満足	13.8	言えない	69.7	やや不満	4.0	不満	7.8	無回答	2.1																							
加重平均値	29施策順位																																										
0.12	23位/29施策																																										
回答	割合																																										
満足	2.7																																										
やや満足	13.8																																										
言えない	69.7																																										
やや不満	4.0																																										
不満	7.8																																										
無回答	2.1																																										
議会や住民の声	●施策の重要度：地域で安心して暮らせる環境づくりの推進																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.8%</td> <td>23位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		重要度回答率	29施策順位	17.8%	23位/29施策																																					
重要度回答率	29施策順位																																										
17.8%	23位/29施策																																										
町民意識調査結果(R6)	【障がい者】粕屋町では、障がい者が地域や社会の中でもともに暮らせていると思います。																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>1.6</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>21.1</td> <td>23.1</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>54.1</td> <td>65.8</td> </tr> <tr> <td>どう思わない</td> <td>3.6</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>17.5</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>17.3</td> <td>19.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体(N=1,055) 3.6 17.5 17.3 54.1 21.1 23.1</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>1.6</td> <td>21.1</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>21.1</td> <td>23.1</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>54.1</td> <td>65.8</td> </tr> <tr> <td>どう思わない</td> <td>3.6</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>17.5</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>17.3</td> <td>19.9</td> </tr> </tbody> </table>		選択肢	回答数	割合	そう思う	1.6	21.1	ややそう思う	21.1	23.1	あまりそう思わない	54.1	65.8	どう思わない	3.6	4.1	どちらともいえない	17.5	20.0	無回答	17.3	19.9	選択肢	回答数	割合	そう思う	1.6	21.1	ややそう思う	21.1	23.1	あまりそう思わない	54.1	65.8	どう思わない	3.6	4.1	どちらともいえない	17.5	20.0	無回答	17.3
選択肢	回答数	割合																																									
そう思う	1.6	21.1																																									
ややそう思う	21.1	23.1																																									
あまりそう思わない	54.1	65.8																																									
どう思わない	3.6	4.1																																									
どちらともいえない	17.5	20.0																																									
無回答	17.3	19.9																																									
選択肢	回答数	割合																																									
そう思う	1.6	21.1																																									
ややそう思う	21.1	23.1																																									
あまりそう思わない	54.1	65.8																																									
どう思わない	3.6	4.1																																									
どちらともいえない	17.5	20.0																																									
無回答	17.3	19.9																																									
議会や住民の声	○障がい者が地域や社会の中でもともに暮らせていると思うかについて、「どちらともいえない」方が54.1%と半数以上となっています。 ○障がい者が地域や社会の中でもともに暮らせていると、「どう思わない」（「どう思わない」+「あまりそう思わない」）方は23.1%となり、「そう思う」（「そう思う」+「ややそう思う」）方は21.1%を上回っています。																																										
	●令和6年度「排泄管理支援用具（ストマ・紙おむつ）に関するアンケート」結果で、8割以上の方が町の給付基準額の増額を希望していることが明らかになった。																																										

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち					5 誰もが心豊かに暮らせるまちづくり					【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 78,79ページ】	
基本施策	(1) 人権と平和を尊重し合う地域社会の確立					誰もが互いの人権を尊重し、一人ひとりの個性と能力が発揮できるまちをめざし、人権意識の向上、男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進します。					重点プロジェクト	持続的成長 (男女共同参画の推進)
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	一人ひとりの人権が尊重されていると思う町民の割合	%	38.0		38.8	37.2		34.3 (実績)		➡	●人権の範囲が広いため、実感指標の数値に大きな変化は見られなかつたが、継続して人権啓発するため達成の見込みである。
	客観指標	各種審議会の女性の参加率	%	35.5	28.4	35.2	32.4	0.0%	34.1 (見込)	34.0	50.0	要検討
1. 行政による施策評価												
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化					
	課題1	多様な価値観をもった人が増加する中、町民一人ひとりが個性や能力を発揮できる社会に向けた、人権に対する正しい理解と認識を深める機会の充実が必要です。					●人権の範囲が広いため、多様な価値観を持った人が増加する一方で昔ながらの価値観や「自分には関係ない」と思っている人も少なからず見受けられる。今後も、人権に対する正しい理解と認識を深める機会の提供が必要である。					
	課題2	女性の活躍推進が求められる中、国や県の施策と連動し、地域社会の中で女性の社会進出を支援する取組の拡大が求められています。					●女性の社会進出において、全国的に認知や理解も進んでいるところだが、支援については関係機関と連携などを考慮して実施する必要がある。					
	課題3	戦争体験者の高齢化が進む中で、戦争の記憶を風化させずに平和の尊さを次世代に継承する取組を推進する必要があります。					●戦争体験者が減り、戦争が「記憶」から「歴史」へと変わりつつあるなか、戦争について語り合う・学び合う場や機会が少なくなっている。戦争の体験や歴史を風化させないためにには、戦争を知らない世代が受け継ぎ、伝えていくことが必要である。					
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)					
	価値観の多様化が進む中で、新たな人権問題が発生しているため、人権に対する正しい情報発信と、すべての人がお互いの尊重し合う社会、インターネットによる誹謗中傷・人権侵害やヘイトスピーチのない社会に向けた啓発活動を推進します。	社会教育課	現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)			取組意向	
			●7月の「三本大会」や12月の「人権を尊重する町民のつどい」など町民が人権について考える機会を提供している。インターネット上の誹謗中傷等の課題は学校教育の人権学習や携帯電話会社による「スマホ教室」で、相談を受けている。人権侵害やヘイトスピーチに対する社会の取組はポスターやチラシでの啓発にとどまっており、より密に取組を行う必要がある。				○	●近年、多様な価値観を持った方が増えており、人権に対する正しい理解と認識を深める機会の充実が必要であり、継続的に人権啓発を行う必要がある。			A	
			●柏屋町男女共同参画計画後期計画に基づき、各課において実施した取り組みをまとめヒアリングを実施した。また、令和7年度を初年度とした第2次男女共同参画計画を策定している。 ●男女共同に係るセミナーを、町内の高校生徒を対象に実施し、若年層に対する意識啓発などを行った。 ●町単独かつ男女共同参画をテーマにした講座やセミナーにおいては集客規模に限界がある。				○	●第2次男女共同参画計画を策定し、それに基づいた取り組みを町全体で実施できるようにしていく必要がある。				
	女性も男性もともにいきいきと、その能力を発揮しながら誰もが輝く活力あるまちをめざして、男性の家事・育児・介護・地域活動への参画を促進し、ワーク・ライフ・バランスの実現をめざすとともに、地域活動や町政の決定の場への女性の積極的登用と拡大に向けて取り組みます。	協働のまちづくり課	●懸垂幕や横断幕の設置、リーフレットの全戸配布、原爆パネル展の実施など、平和週間における啓発活動を通して、平和への意識向上につながっているか、その効果を把握できていない。 ●小学5年生親子を対象とした長崎平和祈念式典の参加は、「まずは知る事が大切」「自分が伝えたい」と子どもたちが平和への関心を高める感想を持つことができている。				○	●「基本施策の取組み方針」は、戦争の悲惨さを知ることで、平和の尊さを感じることができるように、引き続き、継続的に意識啓発を図っていくことが必要である。				
	平和週間における啓発活動や平和祈念式典への参加を通して、恒久平和について継続的な意識啓発を図ります。		●人権講演会の講師選定が困難である。 ●第2次男女共同参画計画の策定(R7~R16)				○					
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】												

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●人権尊重の町として、国や県の施策と連動して7月に「粕屋町人権啓発強調月間」、12月の「人権週間」、街頭啓発、公民館人権学習会、人権啓発冊子「わかくさ」の制作など様々な取組を進めている。 ●男女共同参画週間においては、図書館に関連図書の特設コーナーを設置している。 ●「核兵器廃絶と恒久平和宣言」の町として、8月4日から10日までの1週間を「粕屋町平和週間」と定め、さまざまな行事を実施している。 																		
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●人権に関する取組は広く行っているが、人権の範囲、課題を広く全ての課題に啓発することが現時点では難しい。 ●講座やセミナーにおいては、集客に限界がある。 ●粕屋町平和週間の時期以外に施策を推進するための取組を実施することはできていない。 																		
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●法務省人権擁護局による人権啓発活動の重点目標や協調事項の発表、内閣府による人権啓発CMが配信されるなど、人権意識がより高まることが期待できる。 ●男女共同（ジェンダー平等）に関する理解は、社会全体に浸透してきている。 ●日本原水爆被害者団体協議会が2024年ノーベル平和賞を受章し、長年にわたる核兵器廃絶の運動が世界的に評価されたことにより、平和への機運が高まることが期待される。 																		
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●価値観が多様化する中、新たな人権問題も発生している。自分の常識が世間の常識と捉え人権侵害を犯している場面も見受けられ、自分には無関係と考えている方が多い現状。 ●日々進化する性の多様化においては、住民への理解が追いつかない可能性もあり、理解促進に向けての取組が必要。 ●先の悲惨な戦争を体験された方々の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増えている中で、戦争の記憶が薄れつつある。当時の話を語り継ぐことが年々難しくなっている。 																		
	<p>●施策の満足度：人権と平和を尊重し合う地域社会の確立</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.15</td> <td>17位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <p>凡例 全体(N=1,055) (24) 人権と平和を尊重し合う地域社会の確立</p> <p>●施策の重要度：人権と平和を尊重し合う地域社会の確立</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.3%</td> <td>28位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>	加重平均値	29施策順位	0.15	17位/29施策	重要度回答率	29施策順位	11.3%	28位/29施策											
加重平均値	29施策順位																			
0.15	17位/29施策																			
重要度回答率	29施策順位																			
11.3%	28位/29施策																			
町民意識調査結果(R6)	<p>【人権】粕屋町では、一人ひとりの人権が尊重されていると思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>該当する回答数</th> <th>該当する回答割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>7.1</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>27.2</td> <td>27.2%</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>11.8</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>3.6</td> <td>3.6%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>49.2</td> <td>49.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●一人ひとりの人権が尊重されていると思うかについて、「どちらともいえない」方が49.2%となっています。 ●一人ひとりの人権が尊重されていると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方は34.3%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の15.4%を上回っています。</p>		選択肢	該当する回答数	該当する回答割合	そう思う	7.1	7.1%	ややそう思う	27.2	27.2%	あまりそう思わない	11.8	11.8%	どちらともいえない	3.6	3.6%	無回答	49.2	49.2%
選択肢	該当する回答数	該当する回答割合																		
そう思う	7.1	7.1%																		
ややそう思う	27.2	27.2%																		
あまりそう思わない	11.8	11.8%																		
どちらともいえない	3.6	3.6%																		
無回答	49.2	49.2%																		
議会や住民の声	<p>●令和6年9月議会決算委員会「平和祈念式典に参列しているが、参加以外に子どもたちに広島や長崎の原爆資料館の入場料助成などは検討しているか」</p>																			
外部評価	重点プロジェクト	持続的成長																		
	取組内容	男女共同参画の推進																		
	評価対象事業	男女共同参画推進事業 (R3)																		

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち				5 誰もが心豊かに暮らせるまちづくり						【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 80,81ページ】	
基本施策	(2) ともに支え合う地域福祉の推進と社会保障制度の運営 誰もが安心して暮らせるよう、ともに支え合う地域福祉活動を広げるとともに、生活困窮者などに対する適切な支援のできる体制を構築します。											
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	困ったときの福祉相談窓口を知っている町民の割合	%	33.8		28.2	29.8	27.8 (実績)			要検討	●広報かすややホームページを利用した広報啓発を行っているが目標に届かないことが見込まれる。
1. 行政による施策評価												
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化					
	課題1	ともに支え合う地域づくりを推進するため、社会福祉協議会などの関係機関と連携し、ボランティア育成のための機会の提供を行うなど、地域福祉活動の支援が必要です。また、学校での福祉教育や地域行事などを通じた、町民の地域福祉に対する意識の向上が求められています。					●社会福祉協議会などの関係機関と連携し、ボランティア育成のための機会提供や福祉センターを活用した心配ごとの相談事業を実施しているが、福祉相談窓口としての住民の認知度は低下している。					
	課題2	関係機関と連携した生活困窮者などに対する適切な相談支援と自立に向けた支援の体制の充実が必要です。					●高齢者、障がい者、DV被害者、ひとり親家庭等の複合的な要因により生活困窮者となる方への対策が必要となるため、重層的な支援体制の整備が必要となっている。					
	課題2	町営住宅については施設の適切な維持管理に努めるとともに、町営住宅家賃の収納率向上を図ることが必要です。					●町営住宅については、厳しい財政状況のもと更新期を迎える老朽化した施設の効率的な長寿命化を図ることが求められている。そのような中、「粕屋町営住宅長寿命化計画」に基づき、計画的な修繕に努めている。これからはこれに加えて、町営住宅の適切なマネジメントが必要である。					
	課題3	町民が必要なときに必要な社会保障を受けられ、安心して生活が送れるよう、社会保障制度の安定した運営が求められています。					●2016年の計画策定時と比べ、国民健康保険被保険者数は2,000人ほど減少している中、65歳以上が占める割合は3.4%ほど増加している。また、後期高齢者医療制度被保険者数は900人ほど増加している。高齢者の割合増や医療の高度化が進む中、社会保障にかかる負担が増え続けていかないよう、医療費の抑制や重症化予防、健康ながらだを維持するための保険事業等を実施していくことが必要。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題				第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)					
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向	
行政による施策評価	小中学校での福祉教育や地域行事などを通じた、町民のともに支え合う地域福祉に対する意識を高めるとともに、社会福祉協議会などを中心に、町民のボランティア活動の参加を促進し、地域福祉活動の拡大を図ります。	介護福祉課	●小中学生を対象とした福祉教育や社会福祉協議会を中心に町民のボランティア活動への参加の促進を図っている。				○	●町、関係機関と連携した生活困窮者に対する適切な相談支援と自立に向けた支援の体制を充実していく必要がある。あわせて、独居高齢者、住宅確保要配慮者、障がい者など複合的な要因による生活困窮者等に対して、重層的な支援体制の整備を要する。				
	生活困窮者などへの適切な支援ができるよう、関係機関との連携体制の充実を図ります。	介護福祉課	●生活困窮者の相談受付を実施しており、粕屋保健福祉事務所、社会福祉協議会等と連携し対応しているが、独居高齢者、住宅確保要配慮者、障がい者など重層的な支援が必要となっている。				△	●令和3年に策定した「粕屋町営住宅長寿命化計画」に基づき建替え・改修・修繕を進めているが、ソフト的な施策と町営住宅ストックの適切なマネジメントを踏まえた計画の見直しを行い、その施策の取り組みを図る。				
	粕屋町営住宅については長寿命化計画に基づき、改修工事などを進めるとともに、町営住宅家賃の収納率向上を図ります。	介護福祉課	●粕屋町営住宅については長寿命化計画に基づき、甲仲原団地、上大隈団地の改修や朝日団地の建替工事を進めているが、町営住宅を更新・管理・運営することはコストがかかり続ける。				○	●成果が出ている取組みについては継続的に実施していく。課題となっている40、50代の特定健診受診率が低いことについては、その世代に焦点をあてた受診勧奨(方法・手段)を検討していくことが必要。高齢者の増加により、医療費全体も増加することが予想される中、医療費削減や重症化予防の取組みはより重要となる。				
	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度などの持続可能な運営を図るために、被保険者の状況に応じた保健事業の実施に取り組み、医療費の抑制を図ります。	総合窓口課	●医療費抑制の取組みとして、後発医薬品(ジェネリック医薬品)差額通知の交付、重複受診・多剤投与者にかかる適正受診勧奨を行っており、抑制効果に繋がっている。また、特定健診未受診者への家庭訪問・SMS等による受診勧奨、健診結果による特定保健指導や重症化予防指導も行っている。特定健診では40、50代の受診率のが低いことが課題となっている。				○	●「粕屋町営住宅長寿命化計画」の見直し(R7)とその取り組み				
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●「粕屋町営住宅長寿命化計画」の見直し(R7)とその取り組み									

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●全国的に、また県内を見ても高齢化率が低い。																											
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●国民健康保険特別会計において赤字を抱えており、その影響からも国民健康保険税にかかる税率が県内で高い位置にある。																											
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●保険料水準統一（県単位）への動きが加速化している。（保険料水準統一加速化プランの改定（第2版）：厚労省、第二期福岡県国民健康保険運営方針：福岡県）																											
	Threats (脅威となる社会潮流)	●国全体の医療費が増大している中、社会保険適用要件の拡大が進むことにより、国民健康保険被保険者数がより一層減少することが懸念され、加入者一人当たりの負担が増大することが考えられる。 ●少子高齢化が進む中、後期高齢者の医療費は今後もさらに増えていくと見込まれる。																											
●施策の満足度：ともに支え合う地域福祉の推進と社会保障制度運営		●施策の重要度：ともに支え合う地域福祉の推進と社会保障制度運営																											
町民意識調査結果(R6)	加重平均値 29施策順位 0.13 22位/29施策	重要度回答率 29施策順位 19.8% 20位/29施策																											
	<p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>満足</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>14.7</td></tr> <tr><td>言えない</td><td>69.0</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>不満</td><td>1.6</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>8.0</td></tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	満足	2.6	やや満足	14.7	言えない	69.0	やや不満	4.2	不満	1.6	無回答	8.0	<p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>満足</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>14.7</td></tr> <tr><td>言えない</td><td>69.0</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>不満</td><td>1.6</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>8.0</td></tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	満足	2.6	やや満足	14.7	言えない	69.0	やや不満	4.2	不満	1.6	無回答
Category	Percentage																												
満足	2.6																												
やや満足	14.7																												
言えない	69.0																												
やや不満	4.2																												
不満	1.6																												
無回答	8.0																												
Category	Percentage																												
満足	2.6																												
やや満足	14.7																												
言えない	69.0																												
やや不満	4.2																												
不満	1.6																												
無回答	8.0																												
【福祉相談】あなたは、困ったときの福祉相談窓口を知っていますか。		<p>□よく知っている □やや知っている □あまり知らない □知らない □どちらともいえない □無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>よく知っている</td><td>5.2</td></tr> <tr><td>やや知っている</td><td>22.6</td></tr> <tr><td>あまり知らない</td><td>31.8</td></tr> <tr><td>知らない</td><td>47.0</td></tr> <tr><td>どちらともいえない</td><td>0.7</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>0.7</td></tr> </tbody> </table> <p>●困ったときの福祉相談窓口を「知らない」方が35.0%と最も高く、「あまり知らない」とあわせ、66.8%の方が「知らない」と回答しています。一方、「知っている」（「よく知っている」+「やや知っている」）方は27.8%となっています。</p>	Category	Percentage	よく知っている	5.2	やや知っている	22.6	あまり知らない	31.8	知らない	47.0	どちらともいえない	0.7	無回答	0.7													
Category	Percentage																												
よく知っている	5.2																												
やや知っている	22.6																												
あまり知らない	31.8																												
知らない	47.0																												
どちらともいえない	0.7																												
無回答	0.7																												
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> ●公営住宅入居の要望はある。 ●一般会計から国民健康保険特別会計への繰出金による、保険税の減額の要望がある。（議会） 																												

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち					1 町民のための行政経営のまちづくり					【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 82,83ページ】	
基本施策	(1) まちの魅力を高める情報発信の推進											
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	広報やホームページ等、町からの情報発信が充実していると思う町民の割合	%	51.1		57.4	60.5	56.6 (実績)			C	●情報の受け手が充実していると感じる基準も変化しており、同じように発信していくは評価されない。
1. 行政による施策評価												
行政による施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化					
	課題1	広報紙、ホームページ、SNSなど、さまざまな広報媒体を通じて、町民の目線でわかりやすく情報提供し、まちづくりへの関心や参画意識を高めることが必要です。					●情報の入手経路として、SNSの占める割合が増加しているため、ホームページへの誘導を行いつつ、情報の探しやすさやわかりやすさを重視し、SNSの特性である双方向性を活かした情報発信を行うことが重要である。					
	課題2	町内外に町の魅力を伝える、情報発信力の強化をめざし、さまざまな情報発信手段を活かした町の認知拡大やイメージアップの推進が必要となっています。					●令和5年度からシティプロモーションを本格的に推進している。町の魅力を町内外に効果的に伝えるため、SNSやウェブサイト、動画配信などの多様なデジタルツールを活用し、情報発信の幅をさらに広げていく必要がある。					
	総合計画に記載されている「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)			取組意向		
	情報公開制度について適正な運用を行うとともに、保有する情報を町ホームページなどに公開する取組をさらに進め、行政運営の透明性・信頼性の向上を図ります。	総務課	●これまで告示板に掲示するのみであった告示情報を、電子告示板としてホームページ上での公開を行うようにした。			○	●広報紙、ホームページ、SNSによる情報発信のさらなる充実に向け、オンライン手続きの推進やアンケートなどによる意見の吸い上げなど、情報の受け手とのコミュニケーションが取れるような機能を導入する。			B		
	多様な広報媒体の特性を活かして、町政の情報や課題などを共有しながら相互理解を深め、広報・広聴活動の充実を図ります。	協働のまちづくり課	●令和3年度にLINE公式アカウントを導入、令和4年度にInstagram公式アカウントを開設し情報発信の機会拡大につなげた。 ●LINE公式アカウントでは、道路や公園の危険個所を通報できる損傷報告の仕組みを導入し、迅速な復旧につなげるなど、広聴活動の充実に取り組んだ。			○	●シティプロモーションでは、町の認知度やイメージを高めるだけでなく、地域のブランド価値を向上させるブランディングや企業誘致のPRなど、さまざまな取組を推進していく必要がある。					
	広報やメディア、町民や事業所との連携した多面的なシティプロモーションを開拓し、町の魅力を広く町内外に情報発信することで、町の認知度やイメージの向上を図ります。	経営政策課	●シティプロモーションとして、若者層をターゲットに「若者向け魅力発信プロジェクト」を展開。交通や自然、グルメをテーマにした縦型ショートドラマ「だって、粕屋町やもん。」全5話をInstagramに投稿し、第1話「アクセス編」は25万回再生を達成。さらに、ロゴ・キャッチコピー「かすやのトリコ」の制作やプロスポーツチームとの連携を通じて、町の魅力を広く発信し、認知拡大とイメージアップにつなげた。			○						
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●シティプロモーションと、ふるさと納税や企業誘致事業などを連携させ、より効果的な取組とする。									

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●主だったSNSメディアの運営を行っている。 ●情報公開制度やパブリックコメント制度が整備され、「透明性のある行政」が進められている。															
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●情報発信に使用する機器類、設備が十分に備わっていない。 ●リアルイベントでのプロモーション活動の経験が少ない。															
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●SNSの普及により、町の魅力やイベント、地域の特色などの情報をリアルタイムで発信・共有できるようになった。															
	Threats (脅威となる社会潮流)	●ネット上での情報発信が拡大する一方で、プライバシーの侵害や情報モラルの低下が深刻な脅威となっている。															
町民意識調査結果(R6)	●施策の満足度：まちの魅力を高める情報発信の推進																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.28</td> <td>6位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <caption>凡例 全体(N=1,055)</caption> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.5</td> <td>25.0</td> <td>55.7</td> <td>4.7</td> <td>8.2</td> <td>1.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(26) まちの魅力を高める情報発信の推進</p>		加重平均値	29施策順位	0.28	6位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	4.5	25.0	55.7	4.7	8.2
加重平均値	29施策順位																
0.28	6位/29施策																
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答												
4.5	25.0	55.7	4.7	8.2	1.8												
議会や住民の声	●施策の重要度：まちの魅力を高める情報発信の推進																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32.8%</td> <td>13位/29施策</td> </tr> </tbody> </table>		重要度回答率	29施策順位	32.8%	13位/29施策											
重要度回答率	29施策順位																
32.8%	13位/29施策																
議会や住民の声	<p>【情報発信】粕屋町では、広報やホームページ等、町からの情報発信が充実していると思いますか。</p> <table border="1"> <caption>全体(N=1,055)</caption> <thead> <tr> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>どちらともいえない</th> <th>無回答</th> <th>そう思う計</th> <th>そう思わない計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.8</td> <td>44.8</td> <td>14.6</td> <td>4.7</td> <td>23.1</td> <td>0.9</td> <td>56.6</td> <td>19.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>○粕屋町では、広報やホームページ等、町からの情報発信が充実していると「ややそう思う」方が44.8%と最も多く、「そう思う」と合わせ、56.6%の方が「そう思う」と回答しています。一方、「そう思わない」（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方は19.3%となっています。</p>		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う計	そう思わない計	11.8	44.8	14.6	4.7	23.1	0.9	56.6	19.3
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う計	そう思わない計											
11.8	44.8	14.6	4.7	23.1	0.9	56.6	19.3										
<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年9月議会決算委員会「シティプロモーションを実施したその先にしっかりととした目標設定をする必要がある。」との意見があった。 																	

第5次柏屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち			1 町民のための行政経営のまちづくり								【第5次柏屋町総合計画後期基本計画 84,85ページ】					
基本施策	(2) 簡素で合理的な行政運営の強化			先端技術を活かしたスマート自治体の実現により、町民の満足度の高いサービスを提供するとともに、実効性の高い行政経営を推進します。								重点プロジェクト	持続的成長 (スマート自治体の実現)				
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果				
	実感指標	町民のニーズに応えた行政運営が行われていると思う町民の割合	%	26.0		28.8	30.6		26.7 (実績)			A	●町民のニーズを的確に把握し、それに基づく事業を実施するとともに、透明性の高い情報発信を行ったことが、行政への満足度の上昇につながっている。				
	客観指標	オープンデータを活用したサービス登録数	件	4	4	4	10	75.0%	10 (見込)	12	12	A	●オープンデータ数を増やすことで、サービス登録数の増加につながった。				
1. 行政による施策評価																	
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化										
	課題1	引き続き外部評価を積極的に活用し、全体の機能強化を図るとともに、評価指標の再構築や前期計画における事務事業の再編成を行い、より簡潔でわかりやすい制度設計への見直しが必要です。					●令和5年度を「市制対策のスタート元年」と位置付け、市制施行を目指して市制対策室を設置するなど、本町を取り巻く環境も大きく変化している。市制を見据えた長期的な方向性を明確化した上で、町民との協働・共創によるまちづくりと計画的な施策の推進を図る必要がある。										
	課題2	町民のニーズが複雑・多様化していく中で、それぞれのニーズにあわせた行政サービスを提供していくため、引き続き質の高いサービスを維持できるよう体制の強化が必要です。					●少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化など、町民の生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、地域が抱える課題や町民のニーズが複雑・多様化し、行政の課題が増加している。特に、社会全体においてコロナ禍を契機に働き方、住まい方、生活様式等の多様化が加速している。										
	課題2	民間活力導入に伴う接遇の向上、研修の充実により住民サービスの向上を図るとともに、行政サービスを包括的に委託することで事務の簡素化、雇用手続などの削減を図ることが必要です。					●行政サービスの一部を民間に委託し、民間のノウハウや創意工夫を取り入れることで、業務効率性の向上、行政サービスの質の向上を図ることが必要である。										
	課題3	AIなどの先端技術やクラウドサービスの利用、行政手続のオンライン化、働き方改革といった新たな時代の要請を踏まえたシステム整備とともに、新たな脅威に対応するための情報セキュリティ対策が求められています。					●「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」が策定され、デジタル技術を活用した生産性を高める取組が求められている。デジタル化によりデータの増大等によりリスクも高まるため、情報セキュリティ対策を強化する必要がある。										
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A:継続して実施 B:取組方法を改善 C:継続しない)									
			現状の取組状況及び成果・課題				進捗評価	第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				取組意向					
	実効性の高い行政経営を推進するため、より簡潔でわかりやすい住民視点での行政評価を実施するとともに、外部評価の強化に取り組みます。	経営政策課	●行政評価においては、学識経験者や団体の役員、公募による町民で構成する外部評価委員会を開催し、町が実施する内部評価の客観性を高め、信頼性を確保した。その結果、外部評価を通じて、改善能力の向上や住民への説明責任の強化が実現した。				○	●評価指標の再構築やEBPMの導入など、行政評価制度の見直しを進め、より実効性のある制度へと再構築する。 ●町民にとって必要な行政サービスを将来にわたって効率的かつ効果的に提供していくために、それらを支える人材育成・確保が急務となっている。 ●総合窓口ワンストップサービスを行うには幅広い知識と経験が必要となる。質の高いサービスを提供し続けていくためにも、窓口のマニュアル化、また人材育成に取り組んでいく必要がある。						A			
	総合窓口ワンストップサービスのさらなる充実に向けて、関係各課と連携を密にし、ライフイベント毎の手続きの検証を継続的に行い、計画的な改善に取り組みます。	総合窓口課	●窓口での手続きの際にヒアリングを行い、保険、手当など総合窓口課で対応できるものについては、ワンストップで行っている。その他の手続きについても簡単なものについては総合窓口課で案内を行い、できる限り他課に回ってもらうことのないよう取り組んでいる。				○										
	町で遂行している行政サービスを包括的に委託することで、事務の効率化及び経費節減を図るとともに、行政の果たす役割を十分認識しながら、民間活力の導入により住民サービスの向上を図ります。	総務課	●行政サービスの一部を包括的に民間委託し、民間企業が包括的に業務を把握することで、業務改善しやすい環境をつくることができ、行政サービスの質の向上に繋がっている。				○										
	データ活用による新ビジネスの創出や官民協働による地域課題の解決、行政への透明性・信頼性の向上につながるオープンデータの取組を推進します。	経営政策課	●オープンデータによるデータの登録数を増やすことにより、官民協働でデータを活用した様々なサービスが増えることにより、住民の利便性の向上に繋がっている。				○	●人口減少社会において様々な分野でDXの取組を推進することで、住民の利便性や行政サービスの維持・向上を目指す。									
	AIなどの先端技術を活用し、事務処理の自動化やペーパーレス化などにより効率的にサービスを提供する自治体への変革をめざすとともに、誰もがICTを利活用し恩恵を受けられるように配慮を行います。	経営政策課	●AIやRPAを活用しペーパレス・データ化を行うとともに、事務の効率化や自動化を行うことにより、速やかな給付金の支給等が可能となった。また、住民にとって身近な窓口業務において書かない窓口やAIによるインフォメーションの無人システムの導入することで、多くの利用者の利便性向上につながっている。				◎										
【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】			●人口の増加に応じて、段階的に市制対策事業を実施する。 ●人材育成基本方針を改正予定であり、人材育成の強化を図る。 ●窓口のマニュアル化、人材育成の強化を図る。														

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●自治体フロントヤード改革度ランキングで全国4位となるなど、DXの推進を図っており、住民の利便性向上や業務改善につながっている。 ●令和5年度粕屋町住マイル調査において、町民のニーズに応えた行政運営への評価は、依然としてマイナス評価であるが、過去調査と比べ最も高くなっている。 ●総合窓口ワンストップサービスを早く（平成22年）から導入しており、その間の知識と経験が蓄積され窓口の改善につながっている。												
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●DXに関する専門的な知識や技術をもつ職員が不足しており、人材の育成が課題である。 ●町職員採用において、引き続き、技術職などの専門職や社会人経験者の採用を実施していく。（理由：専門的な能力や経験を有する多様な人材の確保・活躍が一層必要となるため） ●総合窓口では、幅広い知識と経験が必要となるため、人材育成が課題である。												
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●人口減少社会に適応するため、デジタル技術を活用したDX化の推進が重要である。 ●ポストコロナ社会において、組織や働き方などの仕組みを、変化に柔軟に対応できるものに転換しやすくなることが見込まれる。（古賀市 時間外労働が前提の現状を改善するために、市役所窓口の受付時間を1時間半短縮） ●全国的に業務改革とデジタル化による市民生活の支援が進んでいる。												
	Threats (脅威となる社会潮流)	●デジタル技術の進化により多くのデータを利活用するため、高度なセキュリティ対策が必要となっている。 ●少子高齢化の進展・生産年齢人口の減少、個人のライフプラン・価値観の多様化、大規模災害・感染症など新たなリスクの顕在化、デジタル社会の進展など、地方公共団体を取り巻く状況が大きく変化し、求められる役割は今後も増大していくことは脅威と考えられる。 ●あらゆる手続きをワンストップで行うため、対応する職員の業務負荷が増大している。												
	●施策の満足度：簡素で合理的な行政運営の強化 加重平均値 29施策順位 0.12 23位/29施策	●施策の重要度：簡素で合理的な行政運営の強化 重要度回答率 29施策順位 43.7% 8位/29施策												
町民意識調査結果 (R6)	凡例 全体(N=1,055) (27) 簡素で合理的な行政運営の強化	<p>どちらとも 満足 やや満足 言えない やや不満 不満 無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.4</td> <td>15.4</td> <td>67.0</td> <td>4.7</td> <td>8.2</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table>	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.4	15.4	67.0	4.7	8.2	2.3
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答									
2.4	15.4	67.0	4.7	8.2	2.3									
【行政運営】粕屋町では、町民のニーズに応えた行政運営が行われていると思いますか。	<p>■そう思う ■ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない ■どちらともいえない □無回答</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う</th> <th>そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.7</td> <td>25.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>○町民のニーズに応えた行政運営が行われていると思うかについて、「どちらともいえない」方が45.6%と最も高くなっています。 ○町民のニーズに応えた行政運営が行われていると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方が26.7%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方が25.9%とほぼ同様となっています。</p>	そう思う	そう思わない	26.7	25.9									
そう思う	そう思わない													
26.7	25.9													
議会や住民の声	●令和6年6月議会一般質問「今後は行かない窓口の検討も必要。」との意見があった。 ●令和5年12月議会一般質問・答弁（職員採用における専門職の登用） ●窓口の待ち時間が少なかった、窓口を移動しなくてよかったとの意見をいただいた。													
外部評価	重点プロジェクト 持続的成長	令和3年度に公衆無線LANサービス「Kasuya Free Wi-Fi」を提供開始するなど、施策実現への取組や進捗については、ほとんどの委員が「取り組まれている」や「順調に進んでいる」と評価した。「改善の余地がある」や「スピードが遅い」を選択した委員の意見としては、情報セキュリティインシデントの発生や、ITの専門家がないことに関する不安感など、今後進められる自治体DXに関して懸念を示す意見であった。自治体DXの推進に向けて、自治体の情報システムの標準化や行政手続きのオンライン化などに注力して進めていくとの説明があったが、それに合わせてセキュリティ対策レベルの向上に向けた取り組み、具体的には専門知識を有した職員の配置や職員研修の強化などに取り組むべきと思われる。また、高齢者などITが得意でない人々が取り残されないようにするための取組についても望まれる。												
	取組内容 スマート自治体の実現													
	評価対象事業 デジタル化推進事業 (R3)													

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち				2 健全な財政運営のまちづくり						【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 86,87ページ】		
基本施策	(1) 持続可能な財政基盤の強化 長期的な視点に立った計画的な財政運営と新たな財源の確保、町の保有資産の適正管理により、持続可能な財政基盤を維持します。												
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R5 達成率	R6	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	税金が有効に使われていると思う町民の割合	%	19.8		25.6	27.5		25.4 (実績)			要検討	●指標の割合は伸びているものの、「どちらともいえない」の割合が最も多い。
	客観指標	財政力指数		0.88	0.88	0.86	0.85	0.0%	0.86 (見込)	0.86	0.93	要検討	●基準財政収入額は伸びているものの、基準財政需要額も伸びているため、目標には届かないことが見込まれる。
	客観指標	実質公債費比率	%	11.0	8.8	8.1	7.9	620.0%	8.3 (見込)	8.6	10.5	超過	●公共施設整備事業実施の平準化、償還期間の適切な設定などにより、指標は達成される見込みである。
1. 行政による施策評価													
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化						
	課題1	今後も社会保障関連経費の増加、公共施設の改修など支出の増加が見込まれており、財源の確保と適正な予算配分に努め、基金取崩しに依存しない財源の確保や計画的な財政運営に取り組むことが必要です。						●町税収入は堅調に伸びているものの、社会保障関連経費、公共施設の改修などに伴う公債費など、支出が増加しており、今後も、個別施設計画に基づく長寿命化工事をはじめ次期ごみ処理施設の建設、九州大学農場跡地の活用等、大規模な事業が多く予定されているため、これまで以上に財源の確保と適正な予算配分に努め、基金取崩しに依存しない財源の確保や計画的な財政運営に取り組むことが必要。					
	課題1	地方税法など一部改正により創設された「ふるさと納税に係る指定制度」において定められた募集基準、地場産品基準に沿って、適正に寄附金の募集を実施し、寄附金の増収に取り組む必要があります。						●国が定めるふるさと納税に係る指定制度の運用に関する基準について、募集に係る経費算定の厳格化が進んでおり、経費削減の取組が必要となっている。					
	課題1	公共施設の老朽化が進んでおり、今後10年以内に改修・修繕などの時期が集中し、財政運営に少なからず影響を及ぼすことが予想されます。そのため、施設整備の優先順位を定め、中・長期的な財政計画に基づく、公共施設の適切な維持管理や長寿命化などを図っていく必要があります。						●公共施設の老朽化による改修工事については「粕屋町公共施設等総合管理計画」により基本的な考え方や取組方針、「粕屋町公共施設等個別施設計画」により、個別施設毎の具体的な対応方針を定めているため、それに基づき取り組む必要がある。					
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題						第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 継続して実施 B : 取組方法を改善 C : 継続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題						第6次総合計画に向けた方針(改善事項や見直し方針)				
	持続可能な財政基盤を確立するため、事務事業の見直しや重点事業などへの適正な財源配分、新たな財源の確保を進め、長期的な視点に立った計画的な財政運営を行うことで財政需要の平準化を図ります。また、わかりやすい財政状況の情報提供に取り組みます。	経営政策課	●事務事業の見直し、重点事業などへの適正な財源配分、公共施設整備事業の平準化を行うとともに、ふるさと納税など自主財源の確保に努めており、財政の健全性は確保されている。 ●当初予算の概要、決算の概要、健全化判断比率、財務書類等を公開し、財政状況の情報提供に取り組んでいる。 ●今後、扶助費や公債費など義務的経費の増加が見込まれ、厳しい財政状況になることが予想されるため、引き続き長期的な視点に立った計画的な財政運営を行う必要がある。						○				
	町内事業者と連携して地域資源を掘り起こし、ふるさと納税制度の趣旨に沿った適正な寄附金の募集を実施し、寄附金の増収を図ります。	協働のまちづくり課	●町内外の事業者と連携し、ふるさと納税の趣旨に沿った新規返礼品の追加などを行った。 ●寄附募集の拡大のため、掲載するポータルサイトを増やし、寄附金の増収に努めている。						○				
	町財政基盤の根幹となる町税や料金の徴収を強化するとともに、適正かつ公正な課税を行い、安定的な自主財源の確保に取り組みます。	収納課	●口座振替・コンビニ納付・スマートフォン決済サービス・地方税統一QRコードを導入し、多様化する納付方法に対応した。 ●FP相談を実施して生活再建型の滞納整理を行った。						○				
	粕屋町公共施設等個別施設計画に基づき、財政負担の平準化を行いながら、老朽化した施設の長寿命化などを図ります。	総務課	●粕屋町公共施設等個別施設計画に基づき、施設整備を行っているが、建設工事における労務単価及び資材価格が急激に高騰しており、計画策定時と状況が変わっている。						○				
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●令和8年度に中期財政見通しを作成予定。 ●令和7年度に粕屋町公共施設等個別施設計画を見直し予定。										

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	●堅調な税収の伸び、財政力指数（R5年度：0.85）が近隣自治体と比較して高い。 ●魅力的なふるさと納税返礼品がある。 ●近隣自治体に比べ、高い徴収率を維持している。																																		
	Weaknesses (町の弱み・課題)	●個別施設計画に基づく長寿命化工事等の実施に伴う公債費の増加、定員管理計画に沿った職員の増加に伴う人件費の増加。 ●施設の長寿命化改修以外に、施設の狭隘化による増築に係る財政負担も強いられている。 ●長期及び高額滞納者への対策が必要。																																		
	Opportunities (機会となる社会潮流)	●企業業績の回復、賃上げによる税収の増加。 ●デジタル化及びキャッシュレス化の推進により納付方法が多様化。																																		
	Threats (脅威となる社会潮流)	●物価、人件費の高騰による支出の増大。 ●建設工事におけるコスト（労務単価、資材）の高騰 ●納付方法は多様化しているが、その分手数料などの経費が増加。物価高騰や事業不振により納税ができず滞納が増加。																																		
町民意識調査結果 (R6)	●施策の満足度：持続可能な財政基盤の強化 <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.11</td> <td>25位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55.5%</td> <td>3位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055) (2.8) 持続可能な財政基盤の強化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.7</td> <td>12.9</td> <td>69.5</td> <td>4.9</td> <td>1.7</td> <td>8.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【財政】粕屋町では、税金が有効に使われていると思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>■そう思う</th> <th>□ややそう思う</th> <th>□あまりそう思わない</th> <th>□どちらともいえない</th> <th>□無回答</th> <th>■そう思う 計</th> <th>■そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.4</td> <td>22.0</td> <td>16.4</td> <td>7.5</td> <td>49.3</td> <td>1.4</td> <td>25.4</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>○税金が有効に使われていると思うかについて、「どちらともいえない」が49.3%と最も高くなっています。 ○税金が有効に使われていると『そう思う』（「そう思う」+「ややそう思う」）方が25.4%となり、『そう思わない』（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方の23.9%を上回っています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.11	25位/29施策	重要度回答率	29施策順位	55.5%	3位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.7	12.9	69.5	4.9	1.7	8.3	■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	□どちらともいえない	□無回答	■そう思う 計	■そう思わない 計	3.4	22.0	16.4	7.5	49.3	1.4	25.4	23.9
加重平均値	29施策順位																																			
0.11	25位/29施策																																			
重要度回答率	29施策順位																																			
55.5%	3位/29施策																																			
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																															
2.7	12.9	69.5	4.9	1.7	8.3																															
■そう思う	□ややそう思う	□あまりそう思わない	□どちらともいえない	□無回答	■そう思う 計	■そう思わない 計																														
3.4	22.0	16.4	7.5	49.3	1.4	25.4	23.9																													
議会や住民の声	●町民意識調査結果の満足度の低い項目に投資が必要。 ●令和5年度決算監査において、監査委員からふるさと納税の制度がある間は、返礼品を充実させる等、取組を強化するように求められている。 ●庁舎整備においては、議員・利用者アンケート実施した結果、改修・増築に対する要望は大きいと思われる。 ●（議会より）徴収率維持のため引き続き滞納整理に注力してほしいとの意見あり。																																			

第5次粕屋町総合計画 施策検証シート

施策体系	基本目標4 健全で持続可能な行政経営をめざすまち				3 広域的な視点に立ったまちづくり						【第5次粕屋町総合計画後期基本計画 88,89ページ】	
基本施策	(1) 連携して取り組む広域行政の推進 広域連携により、スケールメリットを活かした、効率的で質の高い行政サービスの展開を図ります。											
成果指標	指標種	指標名	単位	R1 (現状値)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 達成率	R7 (見込)	R7 (目標)	見込評価	指標の分析結果
	実感指標	他自治体と連携や協力が行われていると思う町民の割合	%	19.4		21.2	24.8	23.0 (実績)		↑		●住民参加型のイベントを都市圏共同事業で実施するなどの取組が評価の上昇に繋がったと考えられる。
1. 行政による施策評価												
行政による 施策評価	総合計画に記載されている「まちづくりの課題と展望」						総合計画策定時から現在に至るまでの「まちづくりの課題と展望」の変化					
	課題1	2021（令和3）年度から始まるふくおか都市圏まちづくりプラン（第6次広域行政計画）では、これまで進めてきた取組の充実・強化を図るとともに、共生社会、脱炭素・循環型社会など、時代に応じた新たな取組が求められています。						●2021年度（令和3年度）に始まった「ふくおか都市圏まちづくりプラン（第6次広域行政計画）」では、地方創生、グリーントランスフォーメーション（GX）、デジタルトランスフォーメーション（DX）など、時代に即した新たな取組が求められている。				
	課題2	これから先、マイナンバーカードを健康保険証や運転免許証として利用することが検討されており、マイナンバーカードが日常生活の中でより必要となることが予想されます。マイナンバー制度やマイナンバーカードの利用方法などについて、町民の理解を深めるための取組が求められています。						●マイナンバーカードの健康保険証利用、運転免許証利用開始が目前に迫り、日常生活の中でのマイナンバーカードの必要性がさらに高まっています。今後さらに進むであろうマイナンバーカードの利活用推進事業について、国の動向を注視し、分かりやすい広報活動を行うとともに、普及促進に取り組んでいくことが求められている。				
	課題3	入管法改正により新たな在留資格が創設されるなど、外国人受け入れの拡大が進んできており、福岡県内の在留外国人は増加傾向であり、今後、外国人住民との共生（多文化共生）に対応した環境づくりが求められています。						●福岡県内では在留外国人が増加しており、少子高齢化や人材不足を背景に、技能実習生や特定技能の資格で働く外国人労働者も増えている。多国籍な住民の増加に伴い、多文化共生の推進や多言語対応の充実が求められている。				
	総合計画に記載されている 「基本施策の取組方針」	担当課	現状の施策実現の取組・進捗度及び成果・課題					第6次総合計画の反映方針 (取組意向/A : 繼続して実施 B : 取組方法を改善 C : 繼続しない)				
			現状の取組状況及び成果・課題			進捗評価	第6次総合計画に向けた方針（改善事項や見直し方針）				取組意向	
	ふくおか都市圏まちづくりプランに沿った広域連携による効率的で効果的な事業展開を推進します。	経営政策課	●福岡都市圏共同事業では、世界水泳選手権2023福岡大会へ観戦を希望する都市圏在住の小・中学生を招待する取組を実施した。また、職業体験を通じて子どもたちのキャリア教育を促進し、地域経済や観光の振興につなげるキッズジョブチャレンジを開催した。			○	●「ふくおか都市圏まちづくりプラン（第6次広域行政計画）」のこれまでの取組を振り返り、成果や課題を明らかにし、取組の充実を図るとともに、福岡都市圏の特長である住みやすさや交通の利便性、豊かな地域資源を活かした新たな取組を始める。				B	
	国によるマイナンバーカード利活用推進事業の動向にあわせ、わかりやすい広報活動を行うとともに、マイナンバーカードを活用した効率的・効果的な行政サービスの提供に取り組みます。	総合窓口課	●マイナンバーカードを利用した、「申請書作成支援システム（書かない窓口）」を導入した。住民票や戸籍謄本などの各種証明書、転入・転出届などについて、マイナンバーカードを利用することにより、氏名、住所、生年月日が印字された申請書を印刷することが可能となった。それにより、見やすい字で記入漏れが減り、事務処理ミスが減少した。			○	●「書かない窓口」、「キオスク端末」の導入など総合窓口課でのマイナンバーカードの利活用は進んでいる。今後は全庁的にマイナンバーカードの利活用が進む取り組みが必要である。					
	ごみ処理施設構成町において、次期処理施設の運営方針や老朽化対策について協議を進めます。	道路環境整備課	●次期処理施設への要望書を提出しており、担当者会等を通じて検討している。今回は可燃ごみについての処理施設を更新するため、それ以外のごみの処理方法は変わらない。国や県ではプラごみの分別収集や再商品化の動きがある中、一部事務組合全体でどのように取り組むかが課題である。また、施設側の体制整備も必要である。			△	●ゼロカーボンシティかずやの実現のため、当該施策は次期計画にも引き続き継続する必要がある。 課題：全国的にもプラごみ分別収集が進んでいる状況で、一部事務組合全体で取り組み方法の検討が課題である。また、施設側の体制整備も必要である。					
	糟屋中南部地域における外国人住民に関する現状について把握し、同地域における課題や問題点を明らかにし、外国人住民を円滑に地域に受け入れるための調査研究を行なながら、圏域での取組や施策を検討します。	経営政策課	●糟屋中南部地域広域連携プロジェクト推進会議において、「外国人との共生」に関する調査研究会を開催し、地域内の外国人住民に関する現状把握、課題の整理、意見交換を行い、地域での取組について検討した。また、外国人住民向けに生活情報リーフレットを作成し、糟屋中南部の各町で活用した。令和4年度をもって、この推進会議は廃止されたため、今後は地方創生市町村圏域会議で検討を進める必要がある。			○	●糟屋中南部圏域の地方創生市町村圏域会議において、地域の課題解決と活性化を目指し、各市町が連携した取組の検討を進める。					
	【本施策に関する新たな取組／その他特記事項】		●福岡都市圏共同での「移住促進PR活動」や「プロスポーツチーム振興事業」の実施。 ●申請書作成支援システム、キオスク端末の導入。 ●プラごみの分別収集・再商品化の検討。									

2. 施策に関する調査分析

SWOT分析	Strengths (町の強み・優位性)	<ul style="list-style-type: none"> ●人口が増加し、今後も発展が見込まれる福岡都市圏に属しており、都市圏で連携した取組が行われている。 ●マイナンバーカードの普及促進を図るため、コンビニでの証明書発行手数料を期間限定で10円としている。 ●クリーンパークで受け入れできないせん定枝や刈草等を、環境美化集積所にて無料で受け入れているが、これは他町にはないものである。 																												
	Weaknesses (町の弱み・課題)	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡都市圏での連携に比べ、糟屋地区での連携は薄れている。 ●マイナンバーカードの利活用を推進できるデジタルに精通している人材が不足している。 ●クリーンパークが可燃ごみについての処理施設を燃焼施設として更新することで、将来的にせん定枝や刈草等をその他の可燃ごみ同様有料で受入ることになる見込み。 																												
	Opportunities (機会となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対策や環境保全、経済活性化など、複雑化・広域化する課題に対して広域行政の重要性が高まっており、地域間で協力しながら解決を図り、より強固な地域基盤を築くために広域連携が求められている。 ●保険証廃止の影響により、マイナンバーカード普及率が上昇している。 ●令和3年法律第60号プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック新法）の施行及び国のプラスチック資源循環戦略は、本施策のプラスチックごみ削減における機会と考えられる。 ●各国の政府や企業が取り組みを進める「脱プラスチック」化については、アメリカやEU諸国をはじめ、チリや bangladesh、ケニアやエチオピアなどの国々でも規制が始まっている。また、2040年までに世界全体のプラスチック汚染を解決するための条約である、「国際プラスチック条約」は、2024年の締結を目指して議論が進められている。 																												
	Threats (脅威となる社会潮流)	<ul style="list-style-type: none"> ●地方自治体の財源が縮小する中で、自治体同士が連携し、行政の負担を効率化する必要性が高まっている。 ●急速に進む高齢化と社会のデジタル化に伴い、デジタルの恩恵を受けられる層と受けられない層の情報格差が広がっている。 ●法施行や、国の戦略が示されている中、具体的な検討がないことについてはプラスチック分別収集分野における脅威と考えられる。町単位あるいは一部事務組合において、サーキュラーエコノミー（循環経済）をどこまで取り入れるかなど根本的な考え方や方向性を決める必要がある。 ●プラスチック分別収集については、宇美町、志免町では既に実施されており、本町の取組の遅れを感じることから、町の魅力の低下の原因になると考えられる。 																												
	<p>●施策の満足度：連携して取り組む広域行政の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加重平均値</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.11</td> <td>25位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施策の重要度：連携して取り組む広域行政の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要度回答率</th> <th>29施策順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22.4%</td> <td>18位/29施策</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 全体(N=1,055) (29) 連携して取り組む広域行政の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>言えない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.2</td> <td>12.1</td> <td>72.2</td> <td>3.6</td> <td>8.5</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【広域行政】粕屋町では、他自治体と連携や協力が行われていると思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思う 計</th> <th>そう思わない 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.9</td> <td>20.1</td> <td>15.8</td> <td>5.6</td> <td>54.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>○粕屋町では、他自治体と連携や協力が行われていると思うかについて、「どちらともいえない」方が54.0%と半数以上となっています。 ○他自治体と連携や協力が行われていると「そう思う」（「そう思う」+「ややそう思う」）方が23.0%となり、「そう思わない」（「そう思わない」+「あまりそう思わない」）方が21.4%を上回っています。</p>	加重平均値	29施策順位	0.11	25位/29施策	重要度回答率	29施策順位	22.4%	18位/29施策	満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答	2.2	12.1	72.2	3.6	8.5	1.3	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思う 計	そう思わない 計	2.9	20.1	15.8	5.6
加重平均値	29施策順位																													
0.11	25位/29施策																													
重要度回答率	29施策順位																													
22.4%	18位/29施策																													
満足	やや満足	言えない	やや不満	不満	無回答																									
2.2	12.1	72.2	3.6	8.5	1.3																									
そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思う 計	そう思わない 計																										
2.9	20.1	15.8	5.6	54.0																										
議会や住民の声	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡都市圏で実施した「キッズジョブチャレンジ2024in糟屋」では、2000名以上の参加者で賑わい、喜びの声があった。 ●キオスク端末を利用した住民から、証明書の取得が思ったより簡単だった、次回は自分で取得すると言われた。 ●議会から、プラスチックごみの分別収集はどうなっているのかといった声が聞かれる。 																													